SONY

3-873-172-**01** (1)

ネットワークカメラ

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 1.0

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**このユーザーガイドをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA *Exwave*PRO

SNC-DM110/SNC-DS10
SNC-DM160/SNC-DS60
SNC-CM120/SNC-CS20

目次

はじめに

準備

カメラの操作

カメラの設定

その他

はじめに

特長

・ExwavePRO テクノロジー補色フィルタープログレッシブスキャン CCD を採用し、高感度と高い動解像度を両立。
・アイリス開放ボタン、フォーカスアシスト機能により容易なピント調整を実現。
・環境ノイズを判別するインテリジェント動体検知機能によりアラーム精度を向上。
・高性能エンコーダーにより VGA サイズで JPEG 30 fps MPEG4 30 fps の同時配信が可能。
・可変ガンマ設定により明暗の差が大きい撮影環境においても適正な露出設定が可能。
・ソリッド PTZ 機能により、Quad-VGA サイズ（1280 × 960）の画角から任意のエリアをパン・チルト・ズーム操作の感覚で切り出し可能。（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）
・ライトファンネル機能により夜間の感度アップが可能。（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。
万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
・“IPELA”および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。
・“ExwavePRO”および ExwavePRO は、ソニー株式会社の商標です。
・Microsoft、Windows、Internet Explorer および MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
・Java は Sun Microsystems, Inc. の商標です。
・Intel、Core および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。
・Adobe、Acrobat および Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で ®、TM マークは明記しておりません。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラをコンピューターから操作する方法を説明しています。
このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。
ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。
また、説明のための例として、主にSNC-DM160のカメラのイラストやメニュー画面を使用しています。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを再現できないことがありますが、ご了承ください。

設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

必要なシステム構成

	SNC-DM110 SNC-DM160 SNC-CM120	SNC-DS10 SNC-DS60 SNC-CS20
CPU	Intel Pentium 4 3 GHz 以上 Intel Core 2 Duo 2 GHz 以上	Intel Pentium 4 2.4 GHz 以上 Intel Core 2 Duo 1.8 GHz 以上
メモリー	1 GB 以上	
OS	Microsoft Windows XP, Windows Vista	
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer Ver. 6.0, 7.0	
ディスプレイ解像度（推奨）	1600 × 1200　画素以上	1280 × 1024 画素以上

準備

この章では、カメラを設置・接続した後、映像をモニターする前に管理者が行う準備について説明しています。

カメラに IP アドレスを割り当てる

ネットワークを介してカメラに接続するためには、カメラに新しい IP アドレスを割り当てる必要があります。初めてカメラを設置したときは、カメラに IP アドレスを割り当ててください。
IP アドレスを割り当てる方法には、次の 2 とおりがあります。
- 付属の CD-ROM に収録されているセットアッププログラムを使う (右記)
- ARP (Address Resolution Protocol) コマンドを使う（95 ページ）

ここでは、付属のセットアッププログラムを使って IP アドレスを割り当て、ネットワーク設定をする方法を説明します。

操作の前に、付属の設置説明書の「本機をネットワークに接続する」をご覧になって、カメラを接続してください。
割り当てる IP アドレスについては、ネットワークの管理者にご相談ください。

ご注意

- お使いのコンピューターにパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、セットアッププログラムが正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または「ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる」（95 ページ）などの別の方法で IP アドレスを割り当ててください。
- Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないと IP Setup Program が正常に動作しません。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合 – Windows ファイアウォールの設定について」（9 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合 – Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）をご覧ください。

セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合 – ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

2 IP Setup Program の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合 – ソフトウェアのインストールについて」（8 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合 – ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

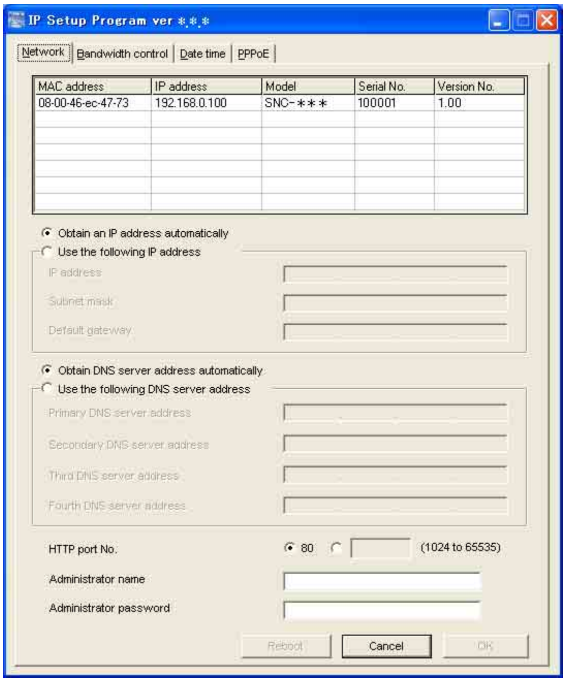
「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「IP Setup Program」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

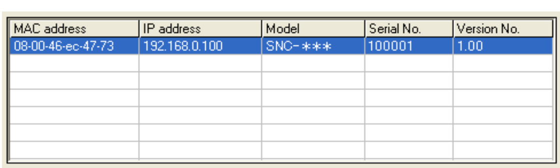
5 IP Setup Program を起動する。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御　（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています。）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているネットワークカメラを検出してリスト表示します。



6 リストから IP アドレスを割り当てたいカメラをクリックして選択する。

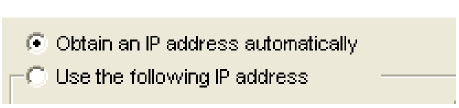


選択されたカメラのネットワーク設定状況が画面に表示されます。

7 IP アドレスを設定する。

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するときは

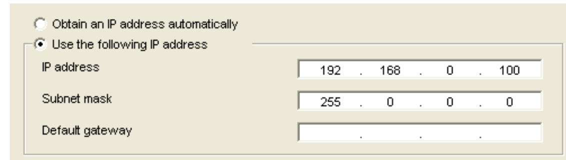
［Obtain an IP address automatically］を選択します。



IP address（IP アドレス）、Subnet mask（サブネットマスク）、Default gateway（デフォルトゲートウェイ）が自動的に割り当てられます。

固定 IP アドレスを設定するときは

［Use the following IP address］を選択し、IP address、Subnet mask、Default gateway 欄にそれぞれの値を入力します。



ご注意

[Obtain an IP address automatically] を選択する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

8 DNS サーバーアドレスを設定する。

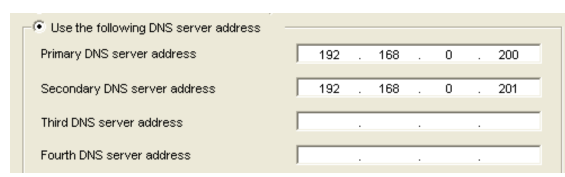
DNS サーバーアドレスを自動取得するには

［Obtain DNS server address automatically］を選択します。



DNS サーバーアドレスを自動取得しないときは

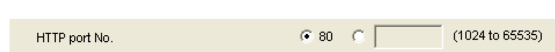
［Use the following DNS server address］を選択してから、Primary DNS server address および Secondary DNS server address 欄に DNS サーバーアドレスを入力します。



ご注意

本機では Third DNS server address、Fourth DNS server address 欄は入力しても無効です。

9 HTTP ポート番号を設定する。



通常は、HTTP port No. の［80］を選択します。
［80］以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

10 [Administrator name] と [Administrator password] 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

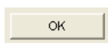


工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

ご注意

ここでは、管理者の名前とパスワードの変更はできません。
変更のしかたは、「ユーザー設定をする －ユーザーメニュー」（56 ページ）をご覧ください。

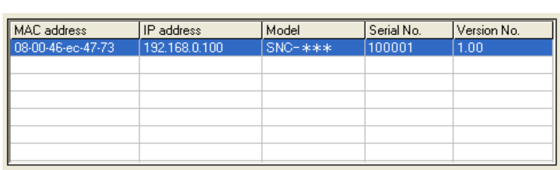
11 正しく入力されていることを確認してから［OK］をクリックする。



「Setting OK」が表示されれば、IP アドレスの設定は終了です。



12 直接カメラにアクセスするには、リスト上のカメラ名をダブルクリックする。



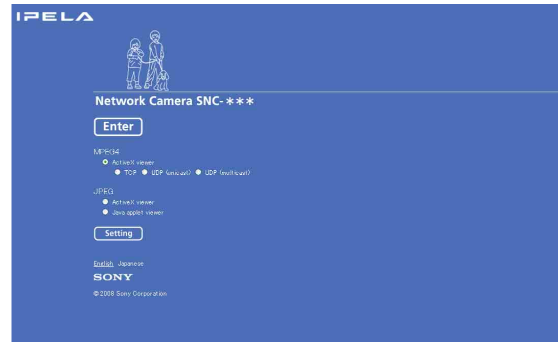
補足

- 工場出荷時のカメラのネットワークは次のように設定されています。
  IP address（IP アドレス）：192.168.0.100
  Subnet mask（サブネットマスク）：255.0.0.0
- Network タブでカメラを選択し、マウスを右クリックして Copy を選択すると、クリップボードにカメラの MAC アドレス、DHCP/FIXED*、IP アドレス、ポート番号、モデル名、シリアル番号、バージョン番号をコピーすることができます。
  キーボードの [Ctrl]+[a] キーを押すと、Network タブのすべてのカメラを選択できます。

* DHCP は DHCP 設定、FIXED は固定 IP アドレスを表します。

Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。

画面例：SNC-DM160



ご注意

IP アドレスが正しく設定されていないと、手順 12 の操作をしてもウェルカムページが表示されません。この場合は IP アドレスの設定をやり直してみてください。

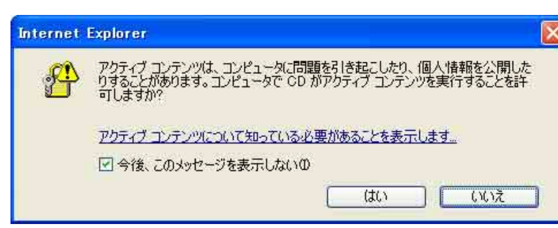
Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合

ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program などのソフトウェアをインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

例：IP Setup Program の場合

「Internet Explorer」メッセージが表示された場合：
［はい］をクリックする。



「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行］をクリックする。

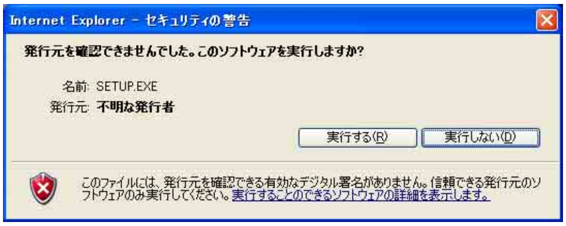


準備

ご注意

［保存］をクリックすると正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

「Internet Explorer －セキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行する］をクリックする。

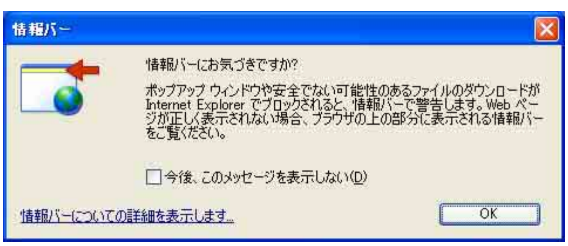


これでソフトウェアをインストールできます。

ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

「情報バー」メッセージが表示された場合：［OK］をクリックする。



「情報バー」が表示された場合：情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。



「Internet Explorer －セキュリティの警告」が表示された場合：［インストールする］をクリックする。



これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや動体検知メニューが表示されます。

Windows ファイアウォールの設定について

Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program や SNC audio upload tool が正常に動作しない場合があります。（リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。）この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

例：IP Setup Program の場合

1 Windows の［スタート］メニューから［コントロールパネル］を選択する。

2 作業する分野で［セキュリティセンター］を選択する。

3 「Windows ファイアウォール」画面で［無効］を選択する。

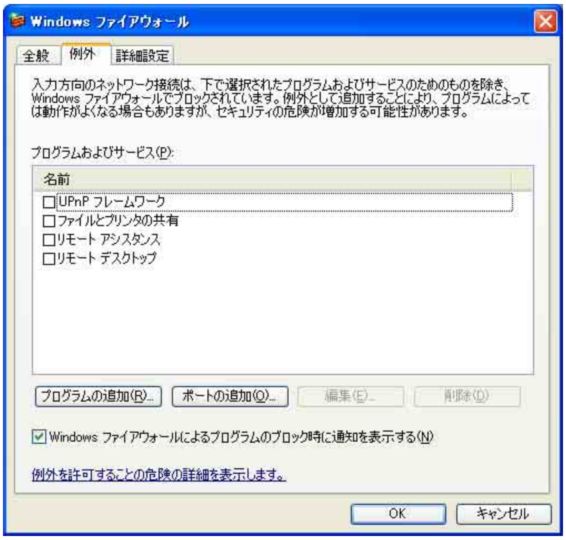


これでリスト上にカメラが表示されるようになります。

［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

4 ［例外］タブを選択する。

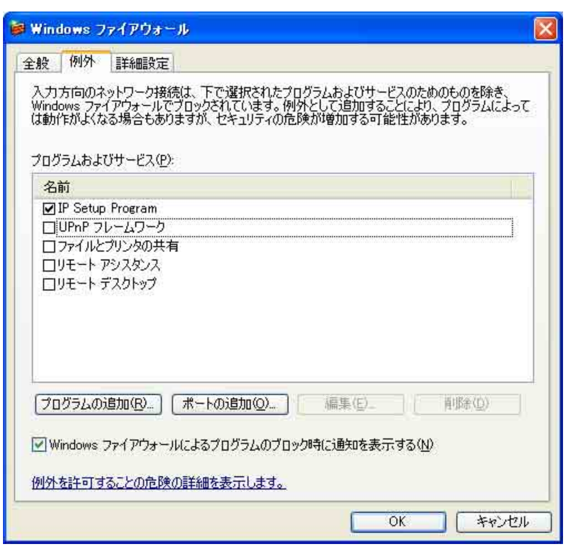
5 ［プログラムの追加］を選択する。



6 プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して [OK] をクリックする。

これで「プログラムおよびサービス」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

7 ［OK］をクリックする。



以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

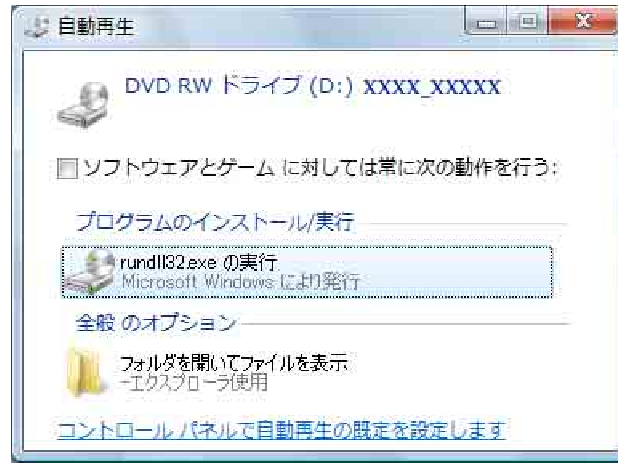
Windows Vista をご利用の場合

ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program などのソフトウェアをインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

例：IP Setup Program の場合

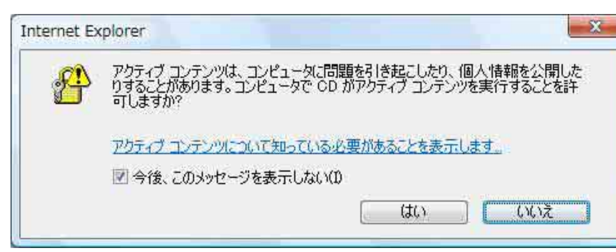
CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れたとき、自動再生のポップアップメッセージが表示された場合：「プログラムのインストール／実行」をクリックする。



ご注意

「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックすると Web ブラウザが自動的に表示されません。CD-ROM に入っている「index.htm」ファイルをダブルクリックしてください。

「Internet Explorer」メッセージが表示された場合：［はい］をクリックする。



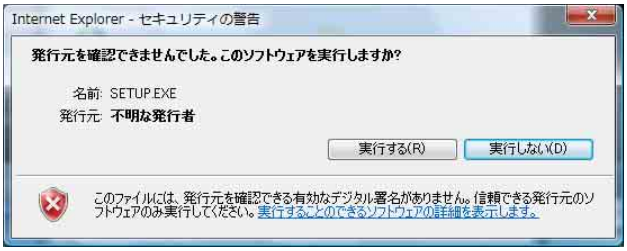
「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行］をクリックする。



ご注意

［保存］をクリックすると正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

「Internet Explorer －セキュリティの警告」メッセージが表示された場合：［実行する］をクリックする。



「ユーザーアカウント制御 （認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示された場合：「許可」をクリックする。

これでソフトウェアをインストールできます。

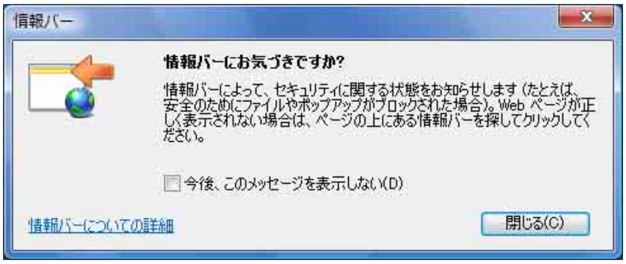
ソフトウェアの起動について

IP Setup Program などのソフトウェアを起動するとき、「ユーザーアカウント制御 （認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックします。

ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

「情報バー」メッセージが表示された場合：［閉じる］をクリックする。



「情報バー」が表示された場合：情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。



「ユーザーアカウント制御（続行するにはあなたの許可が必要です）」メッセージが表示された場合：「続行」をクリックする。

「Internet Explorer アドオンインストーラーセキュリティの警告」が表示された場合：［インストールする］をクリックする。



これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや動体検知メニューが表示されます。

Windows ファイアウォールの設定について

Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program や SNC audio upload tool が正常に動作しない場合があります。（リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。）この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

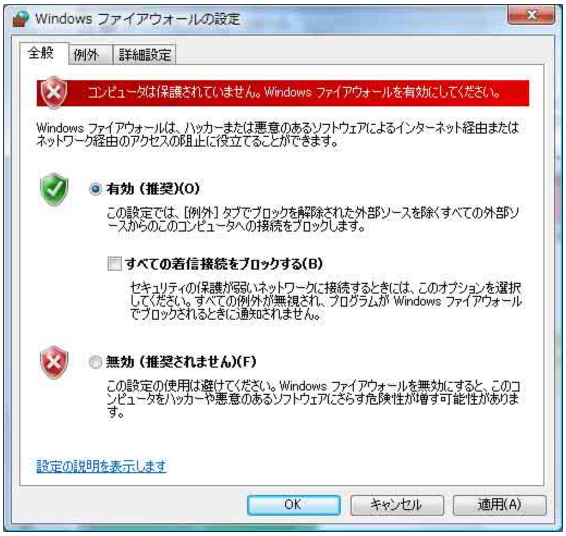
例：IP Setup Program の場合

1 Windows の［スタート］メニューから［設定］、［コントロールパネル］を選択する。

2 ［Windows ファイアウォール］をクリックする。

3 「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」を選択する。
「ユーザーアカウント制御 （続行するにはあなたの許可が必要です）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「続行」をクリックしてください。

4 ［全般］タブで［無効］を選択する。



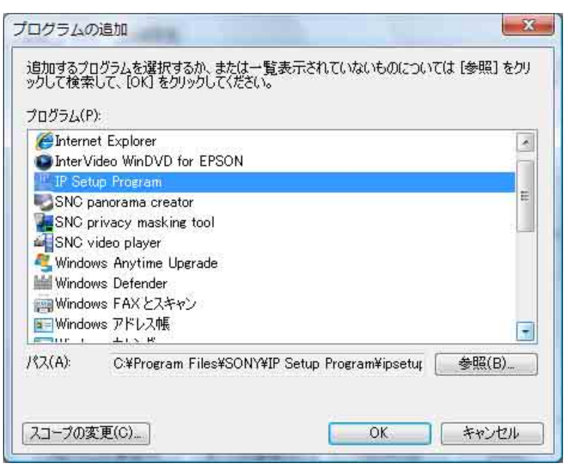
これでリスト上にカメラが表示されるようになります。

［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

5 ［例外］タブを選択する。

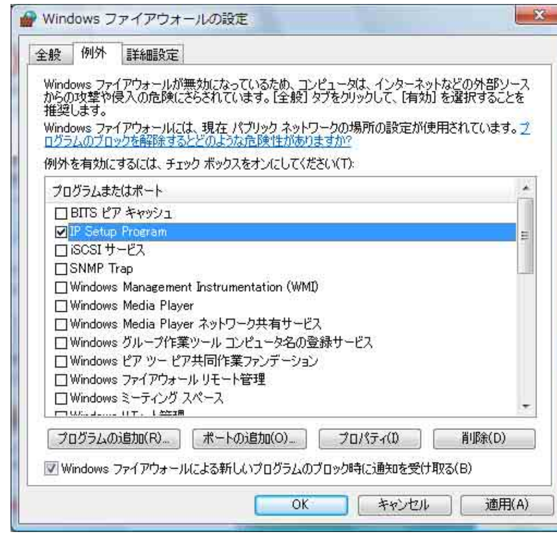
6 ［プログラムの追加］を選択する。

7 プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して [OK] をクリックする。



これで「プログラムまたはポート」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

8 「OK」をクリックする。



以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

Web ブラウザからカメラにアクセスする

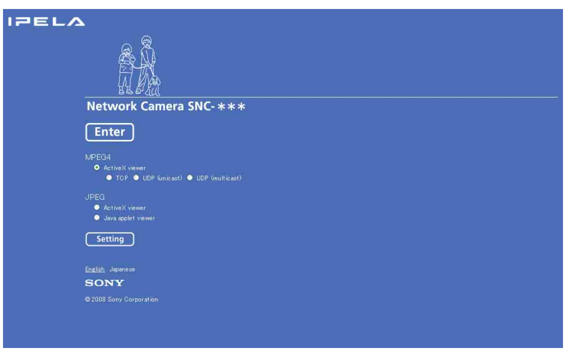
カメラに IP アドレスを割り当てたら、実際に Web ブラウザからカメラにアクセスできることを確認します。
Web ブラウザには、Internet Explorer をお使いください。

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、カメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。



Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。

画面例：SNC-DM160



2 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。



メインビューアーが正しく表示されればカメラにアクセスできることの確認は完了です。

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

[Enter] ボタンをクリックすると「セキュリティ警告」が表示されます。［はい］をクリックすると、ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーが表示されます。



ご注意

・Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動構成にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動構成を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
・ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
・Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、[Enter] をクリックしたとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」(9 ページ)、または「Windows Vista をご利用の場合－ActiveX コントロールのインストールについて」（11 ページ）をご覧ください。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。

ウェルカムページやメインビューアーを正しく表示させるには

ウェルカムページやメインビューアーを正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを［中］以下に設定してください。

1 Internet Explorer のメニューバーから［ツール］—［インターネットオプション］—［セキュリティ］タブの順に選択する。

2 [インターネット] アイコン（本機をインターネット環境で使用しているとき）、または［イントラネット］アイコン（本機をイントラネット環境で使用しているとき）をクリックする。

3 レベルバーを操作して［中］以下にする。（レベルバーが表示されていない場合は、［既定のレベル］ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。）

準備

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合

- コンピューターでウイルス対策ソフトウェア、セキュリティソフトウェア、パーソナルファイアウォール、ポップアップブロッカーなどをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示される Web ページは JavaScript を使用しています。ご使用になるコンピューターで上記のウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合には、Web ページが正しく表示されない場合があります。

管理者による基本設定を行う

本機は、出荷時の状態でログインするだけでカメラの映像をモニターできます。また、カメラの設置場所やネットワーク環境、カメラの用途などに合わせてさまざまな機能を設定できます。
日常、カメラの映像をモニターする前に、管理者が設定しておいたほうがよい設定項目は、次のとおりです。

設定内容	管理者設定メニュー
カメラの日付と時刻をコンピューターに合わせる	「日付／時刻タブ」（32 ページ）
全体画像を用意する（SNC-DM110/DM160/CM120 のみ）	「全体画像取得」（35 ページ）
オーディオ入力を利用するかどうかを選択する	「オーディオ入力」（36 ページ）
設置場所（周囲の光源）により、適切なホワイトバランスを選択する	「ホワイトバランス」（37 ページ）
カメラから配信する映像の明るさを設定する	「露出」（37 ページ）
カメラから配信する映像のフォーマットおよび画像サイズを設定する	「ビデオコーデックタブ」（42 ページ）
カメラから配信する映像の画質を選択する	「ビデオコーデックタブ」（42 ページ）
ユーザーのカメラへのアクセス権を設定する	「ユーザーメニュー」（56 ページ）
見たい場所をあらかじめ設定する（SNC-DM110/DM160/CM120 のみ）	「プリセット位置メニュー」（58 ページ）
カメラのモニター画像をメールに添付して送信するための設定をする	「メール（SMTP）メニュー」（61 ページ）

カメラの操作

この章では、Web ブラウザを使ってカメラ映像をモニターする方法を説明しています。Web ブラウザには Internet Explorer をお使いください。

カメラの設定は管理者が行います。設定のしかたは「カメラの設定」（28 ページ）をご覧ください。

管理者とユーザーについて

本機では、ログインする人を「管理者」と「ユーザー」に区別しています。
「管理者」はカメラの設定を含め、本機のすべての機能を利用することができます。「ユーザー」はカメラの映像・音声のモニターとカメラの操作だけを行うことができます。ユーザーは「ビューアーモード」の設定により、利用できる機能（アクセス権）を限定され、5 種類のユーザーに区別されます。

それぞれの利用できる機能は次のとおりです。

機能	管理者	ユーザー				
		フル	パン・チルト[4]	プリセット位置[4]	ライト	ビュー
ライブ画像を見る	○	○	○	○	○	○
日付・時刻を見る	○	○	○	○	○	○
音声を受信する	○	○	○	○	○	○
画像表示サイズを操作する	○	○	○	○	○	×
デジタルズームで拡大する	○	○	○	○	○	×
静止画像をコンピューターに保存する	○	○	○	○	○	×[1]
あらかじめ登録されたプリセット位置を呼び出す[2]	○	○	○	○	×	×
パン・チルト・ズーム操作を行う[2]	○	○	○	×	×	×
フレームレートを操作する（JPEG モード時のみ利用可）	○	○	×	×	×	×
FTP サーバーに映像ファイルを送信する	○	○	×	×	×	×
メールに画像を添付して送信する	○	○	×	×	×	×
メモリーに映像を記録する	○	○	×	×	×	×
カメラ本体の I/O ポートのアラーム出力を制御する	○	○	×	×	×	×
デイ / ナイト機能を切り換える[3]	○	○	×	×	×	×
音声ファイルを再生する	○	○	×	×	×	×
設定メニューを操作する	○	×	×	×	×	×

○ 利用できる機能、× 利用できない機能

1) Java applet viewer の場合は、この機能が利用できます。
2) SNC-DM110 / DM160 / CM120 でソリッド PTZ 機能が有効の場合のみ、この機能が利用できます。
3) SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 で、この機能が利用できます。
4) SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ、このビューアーモードを設定できます。

管理者とユーザーのアクセス権は、管理者設定メニューの「ユーザー設定をする－ユーザーメニュー」（56 ページ）で設定できます。

ホームページへログインする
ーウェルカムページ

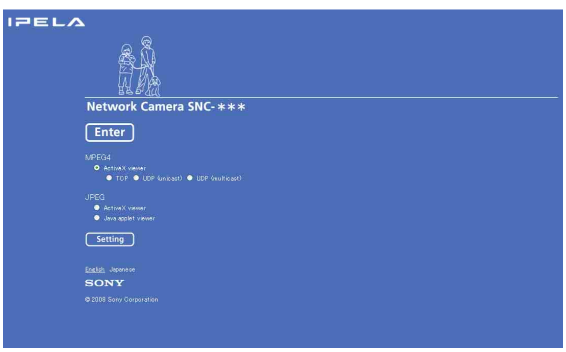
ユーザーとしてログインする

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。



Web ブラウザにネットワークカメラのウェルカムページが表示されます。

画面例：SNC-DM160



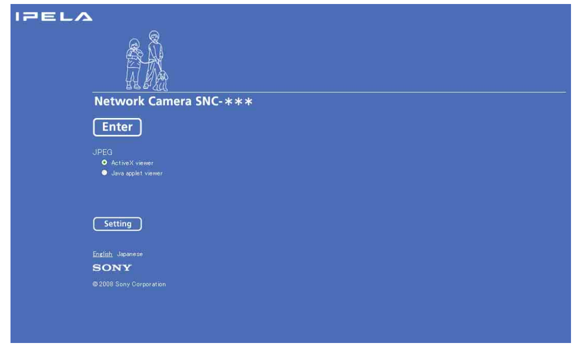
ご注意

ウェルカムページが正しく動作しないときは、Internet Explorer のセキュリティレベルが [中] より高くなっている可能性があります。「ウェルカムページやメインビューアーを正しく表示させるには」（13 ページ）をご覧になって、セキュリティレベルを確認してください。

2 ビューアーを選択する。
ビデオコーデックが MPEG4 の場合は ActiveX viewer、JPEG の場合は ActiveX viewer または Java applet viewer を選択できます。

SNC-DM110 / DM160 / CM120 の場合

ビデオコーデックタブの［画像サイズ］（42 ページ）で［MPEG4 - OFF］を含む項目が選択されているときは、JPEG のみで画像を見られます。



3 手順 2 で MPEG4 の ActiveX viewer を選択した場合、映像 / 音声データの通信ポートを選択する。
[TCP]、[UDP(unicast)]、[UDP(multicast)] のいずれかをクリックして選択します。
通常は [TCP] を選択します。

[TCP]：通常はこれを選択します。
通信ポートとして [TCP] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信に HTTP 通信が採用されます。HTTP は通常の Web ページの閲覧に使用されているプロトコルです。Web 閲覧が可能な環境であれば、TCP ポートを選択すれば、映像 / 音声を見たり聞いたりできます。

[UDP (unicast)]：通信ポートとして [UDP (unicast)] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信に RTP（Real-time Transport Protocol）通信が採用されます。RTP は映像 / 音声データを流すことを目的としたプロトコルで、TCP（HTTP）と比較してスムーズな映像 / 音声の再生が可能です。ただし、カメラとコンピューターの間にファイアウォールが設置されている場合やネットワーク環境により、[UDP（unicast)] を選択すると映像 / 音声が正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には [TCP] を選択してください。

[UDP (multicast)]: マルチキャスト配信機能（47 ページ）が [オン] に設定されているときに、選択することができます。通信ポートとして [UDP (multicast)] が選択されている場合には、映像 / 音声用の通信には、RTP（Real-time Transport Protocol）通信が採用され、加えて UDP のマルチキャスト技術が採用されます。これを選択することによって、カメラのネットワーク配信負荷を軽減することが可能です。ただし、カメラとコンピューター間にマルチキャストに対応していないルーターが設置されていたり、ファイアウォールが設置されていたりする場合には映像 / 音声が正しく再生されない場合があります。正しく再生で

きない場合には、[TCP] または [UDP (unicast)] を選択してください。

ご注意

- お使いのコンピューターでパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、TCP/UDP 通信方式が正しく切り替わらないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または TCP モードでお使いください。
- Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をお使いの場合は、［Windows ファイアウォール機能］を［無効］に設定してください。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（9 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）をご覧ください。

4 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。

画面例：SNC-DM160

ActiveX viewer の場合（JPEG）



メインビューアーからカメラを操作してください。

管理者設定メニューを直接表示する

管理者がカメラの設定を行うとき、ウェルカムページから直接、管理者設定メニューを表示することができます。

1 言語を選択する。
ウェルカムページ下部の [Japanese] または [English] を選択します。

2 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。

次のダイアログが表示されます。



3 管理者用のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

管理者用のユーザー名とパスワードは、工場出荷時には「admin」が設定されています。ユーザー名とパスワードは、管理者設定メニューのユーザーメニューで変更できます（56 ページ）。

管理者設定メニューが別ウィンドウに表示されます。

画面例：SNC-DM160



ビューアーについて

本機では、次のビューアーが使用できます。

ActiveX viewer

カメラの映像が [JPEG]、[MPEG4] いずれの場合にも映像をモニターできるビューアーです。
初めてメインビューアーにアクセスするときに、インストールする必要があります。

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

ActiveX viewer を使って初めて本機にログインする（[Enter] をクリックしてメインビューアーに入る）と [セキュリティ警告] が表示されます。[はい] をクリックして ActiveX コントロールをインストールしてください。この ActiveX コントロールを使用するとビューアーのすべての機能が使用できます。

Java applet viewer

カメラ映像が [JPEG] の場合にモニターできるビューアーです。フレームレートは、ActiveX viewer に比べると低くなります。
Java applet viewer は、Java がインストールされていて、かつ Java (Sun) が有効になっていないと動作しません。
Java applet viewer が正しく動作しない場合は、Java が正常にインストールされていることと、Java (Sun) が有効になっているかどうかを確認してください。
Java applet viewer が表示されるとき、デジタル署名の検証に関するダイアログが表示されますので、［実行］をクリックして下さい。

動作確認済みの Java のバージョンについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください

Java のバージョンを確認するには

Internet Explorer のメニューバーから [ツール]、[インターネットオプション]、[詳細設定] タブの順に選択し、[Java (Sun)] に表示されている Java のバージョンを確認します。[Java (Sun)] 項目が表示されない場合は Java がインストールされていませんので、インストールが必要です。

Java Plug-in を有効にするには

例：Java Plug-in Ver. 1.6.0_01 の場合

[Java (Sun)] の [<applet> に JRE 1.6.0_01 を使用 (再起動が必要)] にチェックします。

Java Plug-in をインストールするには

Sun Microsystems 社のホームページから、Java2 Runtime Environment、Standard Edition（JRE）をダウンロードし、インストーラーの指示に従ってインストールします。

ご注意

- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を [自動構成] にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は [自動構成] を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

補足

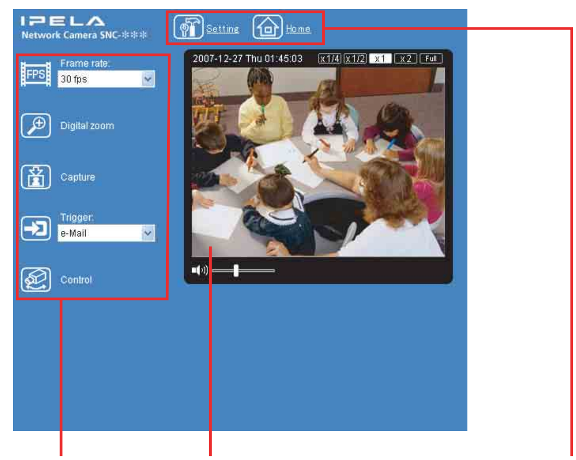
本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。

メインビューアーの構成

ここでは、メインビューアーの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

画面例：SNC-DM160

ActiveX viewer（JPEG）の場合のメインビューアー



カメラ操作部　モニター画面　メインメニュー

メインメニュー

Setting

管理者用の管理者設定メニューを表示します。（28 ページ）
この操作は、管理者としてログインした場合のみ可能です。

Home

ウェルカムページを表示します。

カメラ操作部

Frame rate（フレームレート）



（カメラの映像が JPEG のときのみ表示されます。）

配信する画像のフレームレートを選択します。（21 ページ）

Digital zoom（デジタルズーム）

デジタルズームのサイズを変えるときクリックします。
（22 ページ）

Capture（キャプチャー）

（Java applet viewer のときはメインメニューに表示されます。）
カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピューターに保存するときクリックします。（22 ページ）

トリガー



（ユーザーメニューのビューアーモード（57 ページ）が [フル] に設定されており、トリガーメニュー（74 ページ）で 1 つ以上のトリガーが有効になっているときのみ表示されます。）

リストボックスから機能を選択し、をクリックすると次のようなことができます。
・静止画ファイルをメールに添付して送信する（26 ページ）。
・静止画ファイルを FTP サーバーに送信する（26 ページ）。
・静止画ファイルを内蔵メモリーに記録する（26 ページ）。
・アラーム出力を制御する（26 ページ）。
・デイ / ナイト機能をオン / オフする（SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）（27 ページ）。
・カメラに登録されている音声ファイルを再生する（27 ページ）。

Control（コントロール）（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

（ソリッド PTZ 機能が有効な場合（43 ページ）のみ表示されます。）
カメラのパン・チルト・ズーム操作をするときにクリックします。
クリックするとアイコンがに変わり、モニター画面上またはコントロールパネルでカメラのパン・チルト・ズーム操作ができるようになります。（23 ページ）

Preset position（プリセット位置）（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）



（ソリッド PTZ 機能が有効で（43 ページ）、カメラのプリセット位置が登録されているときのみ表示されます。）

リストボックスからプリセット位置名を選択すると、プリセット位置メニューで記憶させた表示範囲にカメラを移動できます。

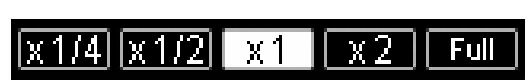
モニター画面部



モニター画面

カメラの映像を表示します。

View size（画像表示サイズ）

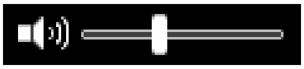


画像の表示サイズを選択します。（22 ページ）

日付と時刻

日付と時刻が表示されます。

音量



（カメラの [オーディオ入力]（36 ページ）が [オン] に設定されているときのみに表示されます。）

のバー部分をドラッグすると、音量が調整されます。
をクリックすると、ボタンが に変わり、音声の出力が止まります。
もう一度音声を出力するには、をクリックします。

ご注意

Java applet viewer をお使いの場合、が表示されないときは次のような可能性があります。

・ カメラメニューの [オーディオエンコード]（36 ページ）が [G.711（64kbps）] 以外に設定されている。
・ Java が正しくインストールされていない。Java のインストールを確認するには、「ビューアーについて」の「Java applet viewer」（19 ページ）をご覧ください。

カメラ映像をモニターする

ここでは、メインビューアーのモニター画面でカメラ映像を見る方法を説明します。

カメラ映像をモニターする

1 ホームページにログインし、メインビューアーを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（17 ページ）をご覧ください。



2 フレームレートを選ぶ。（カメラの映像が [JPEG] のときのみ）



［Frame rate］リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。選択可能なフレームレートは以下のようになります。

1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 fps

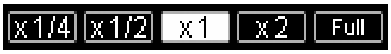
“fps”は 1 秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。
たとえば［30 fps］を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度（最大 30 fps）で配信されます。

ご注意

選択された値は配信されるフレームレートの最大値を示します。

ご使用のコンピューターや、接続されているネットワーク環境、カメラの設定（画像サイズや画質）により実際のフレームレートは異なります。

3 画像の表示サイズを選ぶ。



画像上部の［× 1/4］、［× 1/2］、［× 1］、［× 2］、［Full］ボタンをクリックすると、選択された倍率で画像が表示されます。
選択した表示サイズのボタンが反転して表示されます。
［× 1］を選択すると、カメラメニューの［画像サイズ］（42 ページ）で選択した画像サイズで表示されます。
［× 2］ボタンは、画像サイズが 640 × 480（VGA）サイズ以下の場合のみ有効です。
［Full］ボタンをクリックすると画像を全画面表示することができます。

全画面表示から通常画面に戻るには、マウスの右ボタンをクリックするか、キーボードの［ESC］ボタンを押してください。

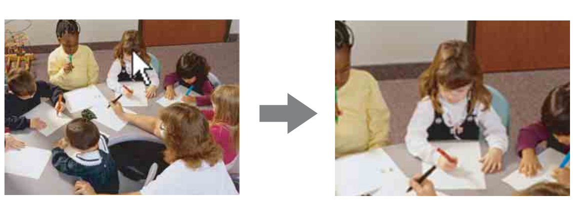
ご注意

全画面表示中、ソリッド PTZ 機能を使ったパン・チルト・ズーム操作を行うことはできません。（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

モニター画像をズームする

1 をクリックする。
ActiveX viewer の場合は拡大する範囲が緑の枠で表示されます。

2 モニター画像の拡大したい場所をクリックする。
クリックした場所を中心に、画像が約 2 倍に拡大されます。



ボタンが に変わります。

3 拡大を解除するには、をクリックする。

モニター画像をキャプチャーする

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、コンピューターに保存できます。

モニター画像をキャプチャーする

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、キャプチャー画面に静止画像が表示されます。

ActiveX viewer の場合



Java applet viewer の場合



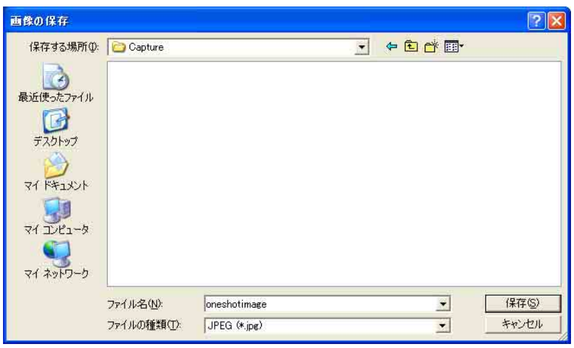
3 キャプチャー画面を閉じるには、[Cancel] または [Close] をクリックする。

キャプチャーした画像を保存する

ActiveX viewer の場合

1 モニター画像をキャプチャーする。

2 [Save] をクリックする。
[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。



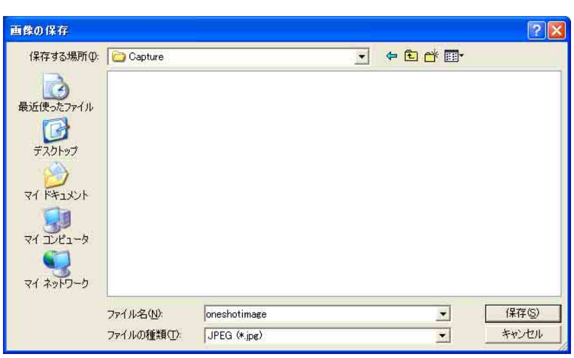
3 [ファイルの種類] として、[JPEG] または [BITMAP] を選択する。

4 [ファイル名]と[保存する場所]を指定してから、[保存] をクリックする。

Java applet viewer の場合

1 モニター画像をキャプチャーする。

2 マウスを右クリックし、表示されるメニューから ［名前を付けて画像を保存］を選択する。
［画像の保存］ダイアログが表示されます。



3 [ファイルの種類] として、[JPEG] または [BITMAP] を選択する。

4 [ファイル名]と[保存する場所]を指定してから、[保存] をクリックする。

ソリッド PTZ 機能でカメラを操作する（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

本機では、ソリッド PTZ 機能を使ってパン・チルト・ズーム操作を行います。
ソリッド PTZ 機能とは、Quad-VGA サイズ（1280 × 960）で撮影された映像を、設定された画像サイズに縮小したり切り出したりする際に、位置や縮小率を調整することにより、パン・チルト・ズームした画像を表示させるものです。実際にカメラやレンズを動かすことなく、パン・チルト・ズームの効果が得られます。
ソリッド PTZ 機能を利用すると、ネットワーク帯域や記録領域を節約しながら、指定した表示範囲を効果的にモニタリングすることができます。

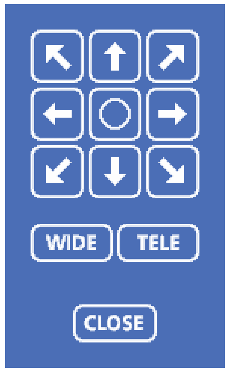
ご注意

- ソリッド PTZ 機能が使用できない場合（43 ページ）、パン・チルト・ズーム操作およびプリセット位置操作はできません。
- **パン・チルト移動可能範囲について**
  ソリッド PTZ 機能では、Quad-VGA サイズで撮影された範囲を、切出し / 縮小することで操作します。このため、WIDE 側にズームアウトしていると、パン・チルトで移動できる範囲が狭くなり、WIDE 端ではまったくパン・チルトできなくなります。
- **ズーム可能範囲について**
  ソリッド PTZ 機能では、TELE 端までズームインした場合に、実際に撮影された Quad-VGA サイズの画像と同じ大きさ（× 1）になります。これ以上画像を拡大することはできません。
  また、WIDE 端までズームアウトした場合の画像の倍率は、設定された出力画像サイズにより異なります。（たとえば、設定されている出力画像サイズが VGA の場合、1/2 のサイズまで縮小できます。）

コントロールパネルで操作する

現在表示されているモニター画像に対して、コントロールパネルでパン・チルト・ズーム操作を行うことができます。

1 をクリックすると に変わり、コントロールパネルが表示されます。
コントロールパネルを再表示するときは、 をクリックすると表示されます。



2 表示されたコントロールパネルを使ってそれぞれの操作をする。

パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。矢印を押し続けると連続的に画像の表示範囲が移動します。
をクリックすると、ホーム位置に戻ります。
8 方向矢印ボタンを使ったパン・チルト操作の動作モードは、システムメニューの [PTZ モード]（31 ページ）で切り換えることができます。

ズーム操作

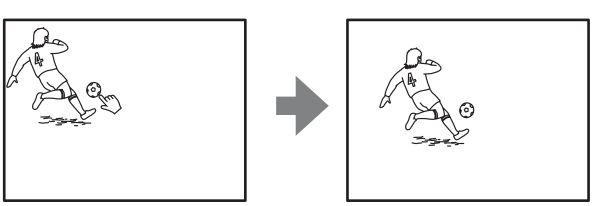
WIDE をクリックするとズームアウトを、TELE をクリックするとズームインをします。ボタンを押している間ズーム動作が続きます。

ご注意

システムメニューで [排他制御モード] を [オン] に設定している場合、をクリックすると操作権限の残り時間が表示されます。操作権限が取れなかった場合は、ボタンがに変わり、待ち時間が表示されます。

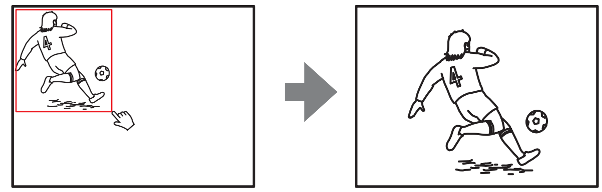
画像をクリックしてパン、チルトを操作する

モニター画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が画像の中央になるように表示範囲が移動します。



拡大したい範囲を指定してパン、チルト、ズームを操作する

モニター画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグし、拡大したい部分を赤い枠で囲みます。枠で囲まれた部分が画面中央に表示されるように、ズームインして表示されます。



ズームバーでカメラのズームを操作する

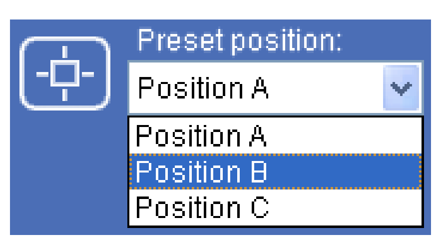
カメラがコントロール可能な状態になると、モニター画面の下にズームバーが表示されます。
ズームバーをクリックすることでズーム位置を直接設定できます。
ズームバーはバーの下にある をクリックすることで表示／非表示を選択することができます。



WIDE 端：クリックすると WIDE 端にズームが移動します。
TELE 端：クリックすると TELE 端にズームが移動します。

プリセットした表示範囲の画像を表示する

Preset position リストボックスからプリセット位置名を選択すると、プリセット位置メニュー（58 ページ）で記憶させた表示範囲の画像が表示されます。コントロールパネルなどで表示範囲を移動させた後にアイコンをクリックすると、選択されているプリセット位置の表示範囲の画像が再び表示されます。



ご注意

カメラのプリセット位置が登録されていない場合、Preset position リストボックスは表示されません。

全体画像上でカメラを操作する（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

カメラがコントロール可能な状態になると、モニター画面の下に全体画像が表示されます。
全体画像は、カメラの撮影できる範囲全体を縮小表示する静止画像です。全体画像上でクリックすると、クリックした場所がモニター画面に表示されます。



ご注意

ソリッド PTZ 機能が使用できない場合（43 ページ）、全体画像によるカメラ操作はできません。

全体画像を作成する

全体画像は、システムメニューの初期化タブにある［全体画像取得］を使って作成します。
詳しい作成のしかたは 35 ページをご覧ください。

補足

カメラを移動したり、カメラの周りのレイアウトを変えたりしたときは、全体画像を作成し直してください。

指定した場所をモニター画面に表示する

1 全体画像を作成して表示する。



2 全体画像上の見たい場所をクリックする。
モニター画面にクリックで指定した場所の現在の映像が表示されます。
全体画像には、モニター画面に表示されている範囲が緑の枠で示されます。



クリックした場所の現在の様子がモニター画面に映し出されます。

全体画像を非表示にする

 をクリックすると、全体画像とズームバーが非表示になります。

トリガーを使った操作

メインビューアーの（トリガー）をクリックするだけで、さまざまな機能を動作させることができます。

モニター画像をメールに添付して送信する

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、メールに添付して送信できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（74 ページ）で［メール（SMTP）］を有効にし、送信先を適切に設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［e-Mail］を選択する。



3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、設定されているメールアドレスに映像ファイルを添付したメールが送信されます。

モニター画像を FTP サーバーに送信する

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、FTP サーバーに送信できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（74 ページ）で［FTP クライアント］を有効にし、送信先を適切に設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［FTP］を選択する。



3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルが FTP サーバーに送信されます。

カメラ映像を静止画として記録する

モニターしているカメラ映像を静止画としてキャプチャーし、内蔵メモリーに記録することができます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（74 ページ）で［イメージメモリー］を有効にし、詳細を設定しておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Image memory］を選択する。



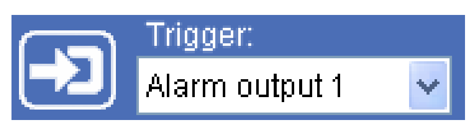
3 をクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルとして記録されます。

アラーム出力 1、2 を制御する

アラーム出力 1、2 を制御できます。
この操作を行うには、あらかじめ、管理者設定メニューのトリガーメニュー（75 ページ）で［アラーム出力 1］または［アラーム出力 2］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Alarm output1］または［Alarm output2］を選択する。



3 をクリックする。
クリックすると、アラーム出力を制御できます。
アラーム出力の動作は、トリガーメニューの「アラーム出力 1、2」（75 ページ）で［トグルモード］と［タイマーモード］のどちらかを選択できます。

補足

カメラの I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスに接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

デイ／ナイト機能をオン／オフする（SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）

デイ／ナイト機能のオン（ナイトモード）・オフ（デイモード）を制御できます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（75 ページ）で［デイ／ナイト］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Day/Night］を選択する。



3 をクリックする。
クリックするたびに、デイ／ナイトのオン（ナイトモード）とオフ（デイモード）が切り替わります。

ご注意

トリガー－デイ／ナイトメニュー（75 ページ）の［デイ／ナイトモード］が［自動］に設定されているときは、をクリックしてもデイ／ナイト機能を制御できません。

カメラに登録されている音声ファイルを再生する

SNC audio upload tool を使って、あらかじめ登録しておいた音声ファイルを再生することができます。
この操作を行うには、あらかじめ管理者設定メニューのトリガーメニュー（75 ページ）で［音声ファイル再生 1］、［音声ファイル再生 2］または［音声ファイル再生 3］を有効にしておく必要があります。

1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 トリガーリストボックスから［Voice alert1］、［Voice alert2］または［Voice alert3］を選択する。



3 をクリックする。
クリックするとカメラに接続されているスピーカーから、選択された音声ファイルの再生音が出力されます。

カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。
カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」（16 ページ）をご覧ください。

この章では、はじめに管理者設定メニューの設定の際の基本操作を説明し、その後、メニューの設定項目をひとつずつ説明します。

設定項目の表示について

本機の設定メニュ―は、現在設定可能な設定項目のみが濃く表示されます。薄く（グレーアウト）表示されている項目は設定できません。

管理者設定メニューの基本操作

管理者設定メニューでは、それぞれのユーザーの使用状態に合わせて本機のすべての機能を細かく設定することができます。
ウェルカムページの [Setting] をクリックするか、メインビューアーの をクリックすると管理者設定メニューが表示されます。

管理者設定メニューの設定のしかた

1 ホームページにログインし、ウェルカムページを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（17 ページ）をご覧ください。

2 ウェルカムページ下部で言語（[Japanese] または [English]）を選択する。

3 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。
認証ダイアログが表示されます。管理者のユーザー名とパスワードを入力すると、管理者設定メニューが表示されます。

管理者のユーザー名とパスワードは工場出荷時には [admin] が設定されています。



手順 **3** の代わりに、次のようにして表示することもできます。
① ウェルカムページの [Enter] をクリックしてメインビューアーを表示する。
② メインビューアーの をクリックする。
③ 管理者のユーザー名とパスワードを入力する。

4 管理者設定メニューの左側のメニュー名（例 : システム）をクリックする。
クリックしたメニューが表示されます。

例 :「システム」メニュー



5 メニュー上部のタブを選択し、タブ内の各項目の設定を行う。

例 :「システム」メニューの「日付 / 時刻」タブ



各メニューのタブと設定項目について詳しくは、30 ～ 80 ページをご覧ください。

6 設定が終わったら、[OK] をクリックする。
設定した内容が有効になります。

設定した内容を無効にして元の状態に戻すときは、[Cancel] をクリックします。

各メニューの共通ボタン

メニューには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。ボタンの機能は、どのメニューでも同じです。



設定した内容を有効にするとき、クリックします。



設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

メニュー全般についてのご注意

- ウェルカムテキストやユーザー名など、コンピューターから入力する文字に、半角カタカナは使用できません。
- メニューで設定を変更し、すぐに電源を切る場合は、10秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
- メインビューアーで閲覧中にカメラの設定を変更しても反映されない項目があります。変更した設定内容を既に開いているメインビューアーに反映させるには、Webブラウザの [更新] をクリックしてください。

管理者設定メニューの構成

画面例 : SNC-DM160



システム

システムメニューを表示します。(「システム設定を行う－システムメニュー」30 ページ)

カメラ

カメラ映像や音声に関する設定を行うカメラメニューを表示します。(「カメラ映像や音声の設定を行う －カメラメニュー」36 ページ)

ネットワーク

ネットワーク接続のための設定を行うネットワークメニューを表示します。(「ネットワークを設定する－ネットワークメニュー」47 ページ)

802.1X

802.1X 仕様(ポート認証)で構成されたネットワークへの接続を行うための 802.1X メニューを表示します。(「802.1X 認証機能を使用する － 802.1X メニュー」(50 ページ))

ユーザー

ログインするときのユーザー名やパスワードの設定を行うユーザーメニューを表示します。(「ユーザー設定をする －ユーザーメニュー」56 ページ)

セキュリティ

接続を許可するコンピューターを指定するセキュリティメニューを表示します。(「セキュリティ設定をする－セキュリティメニュー」57 ページ)

プリセット位置(SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ)

カメラの表示範囲を登録するためのプリセット位置メニューを表示します。
また、記憶させた表示範囲を巡回させる「ツアー機能」の設定もできます。(「ソリッド PTZ の表示範囲や動作を記憶する－プリセット位置メニュー(SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ)」58 ページ)

メール(SMTP)

メール送信を行うためのメール(SMTP)メニューを表示します。(「メールに画像を添付して送る －メール (SMTP) メニュー」61 ページ)

FTP クライアント

FTP サーバーへ映像・音声ファイルなどを送信するための設定を行う FTP クライアントメニューを表示します。(「FTP サーバーへ画像を送信する － FTP クライアントメニュー」64 ページ)

イメージメモリー

内蔵メモリーに映像・音声ファイルなどを記録するための設定を行うイメージメモリーメニューを表示します。(「画像を記録する－イメージメモリーメニュー」67 ページ)

FTP サーバー

カメラの FTP サーバー機能を設定する FTP サーバーメニューを表示します。(「カメラから画像をダウンロードする－ FTP サーバーメニュー」71 ページ)

アラーム出力

カメラのアラーム出力端子の設定を行うアラーム出力メニューを表示します。(「アラーム出力を設定する－アラーム出力メニュー」71 ページ)

音声ファイル再生

あらかじめカメラに保存された音声ファイルを、センサー入力や動体検知などのアラーム検出時に再生させるための音声ファイル再生メニューを表示させます。(「ア

ラーム検出時に音声を出力する－音声ファイル再生メニュー」72 ページ）

トリガー

メインビューアーのトリガーボタンをクリックしたときの操作を設定するトリガーメニューを表示します。
（「ビューアーページからの操作を設定する－トリガーメニュー」74 ページ）

スケジュール

感度アップ機能、プリセット位置機能、メール（SMTP）機能、FTP クライアント機能、イメージメモリー機能、アラーム出力機能、音声ファイル再生機能などのスケジュールを設定するスケジュールメニューを表示します。
（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

アラームバッファ

アラーム検出時に映像や音声を記録するバッファに関する設定を行うアラームバッファメニューを表示します。
（「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」77 ページ）

動体検知

カメラ内蔵の動体検知機能の設定を行う動体検知メニューを表示します。（「動体検知機能を設定する ― 動体検知メニュー」78 ページ）

システム設定を行う －システムメニュー

管理者設定メニューの システム をクリックすると、システムメニューが表示されます。
このメニューでは本機の基本設定を行います。
システムメニューは [システム]、[日付／時刻]、[設置]、[初期化]、[システムログ]、[アクセスログ] の 6 つのタブで構成されます。

システムタブ

画面例：SNC-DM160



タイトルバー

タイトルバー名を入力します。Web ブラウザのタイトルバーにここに入力された文字が表示されます。
半角で 32 文字、全角で 16 文字まで入力可能です。

ウェルカムテキスト

ウェルカムページに表示する文を HTML 形式で入力します。
半角で 1024 文字以内、全角で 512 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力可能です。
改行は
 タグで入力してください。

シリアル番号

シリアル番号が表示されます。

ソフトウェアバージョン

ソフトウェアのバージョンが表示されます。

ホームページ

Web ブラウザのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力したときに表示されるホームページを選択します。

[デフォルト]：本機に内蔵のホームページを使用するときに選択します

[カスタム]：独自のホームページ（カスタムホームページ）を使用するときに選択します。
本機内蔵のフラッシュメモリーに書き込むことにより、独自のホームページを使用することができます。
本機内蔵のフラッシュメモリーにホームページの HTML ファイルを書き込む場合には、付属の CD-ROM に収録されている Custom Homepage Installer を使用します。(93 ページ)

カスタムホームページを使用する場合は以下のように設定します。

1 [カスタム] を選択する。

2 [パス] の右のテキストボックスに表示する HTML ファイルへのパスを入力する。(半角英数字 64 文字以下)

補足

[カスタム] を選択した場合でも、Web ブラウザのアドレス欄に以下の URL を入力すると、本機内蔵のホームページを表示できます。

例：本機の IP アドレスが 192.168.0.100 に設定されている場合

http://192.168.0.100/ja/index.html

排他制御モード（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

カメラのパン・チルト・ズームなどを操作する権限を選択します。

[オン]： 1 人のユーザー（1 ユーザー) だけが操作を行うことができます。 1 人のユーザーが操作できる時間は、[操作時間] で設定します。
1 人のユーザーが操作中に他のユーザーが操作しようとすると、[操作時間] と [最大待ち人数] の設定により、操作権限が制御されます。

[オフ]：複数のユーザーが同時にパン・チルト・ズーム操作を行うことができます。複数のユーザーが同時に操作した場合、後からの操作が優先されます。

操作時間

1 ユーザーに与える操作権限時間を設定します。設定範囲は 10 ～ 600 秒です。排他制御モードが [オン] のとき有効になります。

最大待ち人数

1 人のユーザーが操作中に複数の他のユーザーから操作要求が発生した場合、操作権限待ちを行う最大ユーザー数を設定します。設定範囲は 0 ～ 10 です。排他制御モードが [オン] のときに有効になります。

ご注意

- 排他制御モード機能をお使いのときは、あらかじめ本カメラおよび接続するコンピューターの日付と時刻が正しく設定されている必要があります。
- Web ブラウザの Cookie 設定を [無効] にすると、排他制御モード機能が使用できなくなります。
- 排他制御モードの設定を変更したい場合、すでに開いているメインビューアーに設定内容を反映させるためには、Web ブラウザの [更新] ボタンをクリックしてください。

PTZ モード（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

8 方向矢印ボタンを使ったパン・チルト操作（24 ページ）や TELE/WIDE ボタンを使ったズーム操作（24 ページ）の動作モードを設定します。[標準] または [ステップ] を選択します。

[標準]：マウスをクリックするとパン・チルト・ズーム動作が始まり、クリックしている間動作します。指を放すと動作が停止します。

[ステップ]：マウスをクリックするたびに、レベルの設定に応じてパン・チルト・ズームが一定量移動します。約 1 秒以上クリックし続けると一時的に［標準］モードの動作になります。指を放すと動作が停止し、［ステップ］モードに戻ります。

［ステップ］を選択すると、［パン・チルトレベル］と［ズームレベル］の値を選択することができます。

[パン・チルトレベル]：パン・チルト用の 8 方向矢印ボタンをクリックしたときのパン・チルトの移動量を [1] ～ [10] の 10 段階から選択します。[10] を選択すると移動量が最大になります。

[ズームレベル]：ズーム操作用の WIDE , TELE をクリックしたときのズームの移動量を [1] ～ [10] から選択します。[10] を選択すると、移動量が最大になります。

センサー入力モード

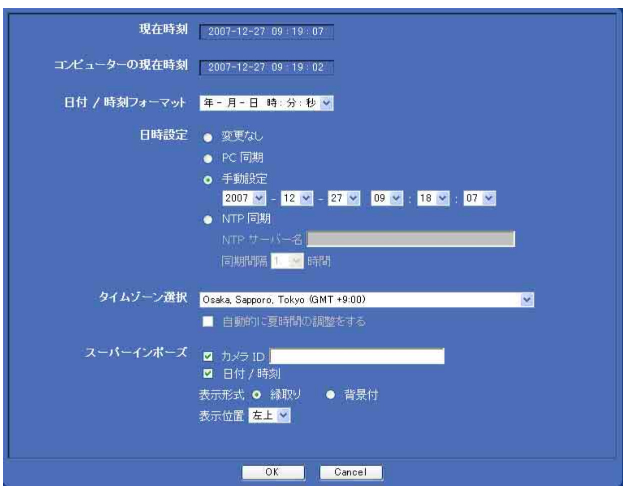
カメラのセンサー入力端子に入力される信号を検出する方向を設定します。

[ノーマルオープン]：センサー信号が短絡したときにアラームを検知します。
[ノーマルクローズ]：センサー信号が開放になったときにアラームを検知します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

日付／時刻タブ



現在時刻

本カメラに設定されている日付／時刻を表示します。

ご注意

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

コンピューターの現在時刻

使用しているコンピューターの日付／時刻を表示します。

日付／時刻フォーマット

メインビューアーに表示する日付／時刻の書式を各リストボックスから選択します。
[年―月―日 時：分：秒]、[月―日―年 時：分：秒]、[日―月―年 時：分：秒] から選択できます。

日時設定

日付／時刻の設定方法を選択します。

[変更なし]：カメラの日付／時刻を設定しない場合に選択します。
[PC 同期]：カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに選択します。
[手動設定]：カメラの日付／時刻を手動設定するときに選択します。
各リストボックスから、年、月、日、時、分、秒を選択します。
[NTP 同期]：カメラの日付／時刻を NTP（Network Time Protocol）サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる場合に選択します。この場合、[NTP サーバー名] と [同期間隔] を設定してください。

NTP サーバー名

NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。半角文字で 64 文字以内で入力します。

同期間隔

NTP サーバーに現在時刻を問い合わせ、カメラとの時刻調整を行う間隔を設定します。1 ～ 24 時間の間で設定できます。実際にはこの間隔は目安であり、多少の差異があります。

ご注意

ネットワークの環境によって、設定される時刻は多少ずれることがあります。

タイムゾーン選択

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。
リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。
日本の場合は、[Osaka、Sapporo、Tokyo (GMT+09:00)] を選択します。

自動的に夏時間の調整をする

この項目にチェックすると、選択したタイムゾーンの夏時間に合わせて自動的に時刻の修正が行われます。

ご注意

[タイムゾーン選択] で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。

スーパーインポーズ

映像にカメラ ID や日付 / 時刻を重ねて合成（スーパーインポーズ）するかどうかを設定します。
プリアラームやポストアラームで保存される映像にもスーパーインポーズされます。

カメラ ID

この項目にチェックすると、任意の文字列がスーパーインポーズされます。任意の文字列は、20 文字以内の半角英数字で入力します。

日付 / 時刻

この項目にチェックすると、日付 / 時刻がスーパーインポーズされます。

表示形式

スーパーインポーズする表示形式を選択します。
[縁取り] または [背景付] のどちらかを選択します。

表示位置

スーパーインポーズする文字の表示位置を選択します。
[左上]、[右上] 、[左下] 、[右下] のいずれかを選択します。

ご注意

- スーパーインポーズを使用すると、画像のフレームレートが低下する場合があります。
- 文字を表示する場合、画像サイズを［640 × 480（VGA)］より小さくすると文字も小さくなります。
- [日付 / 時刻] を変更した場合、すでに開いているメインビューアーページに設定変更を反映させるには、Web ブラウザの［更新］をクリックしてください。
- カメラ ID は、半角英数字と - （半角ハイフン）、/ （半角スラッシュ）、_ （半角アンダースコア）、: （半角コロン）、半角スペースをご利用いただけます。
- 画像サイズの設定が［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）: MPEG4 - OFF : JPEG 画像切り出し有効］の場合（45 ページ）、スーパーインポーズは無効になり設定できません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

設置タブ

設置に関連する設定を行います。

画面例：SNC-DM160



ビデオ出力モード

カメラのアナログ映像出力端子から出力する信号の設定を行います。

[IP のみ]：ネットワーク経由のみで映像を出力します。

[NTSC + IP]： NTSC 信号形式で出力します。ネットワークから出力される映像設定が制限されます。このモードが選択されている場合、［アナログ出力設定］が有効になり、設定できます。(SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

[PAL + IP]： PAL 信号形式で出力します。ネットワークから出力される映像設定が制限されます。このモードが選択されている場合、［アナログ出力設定］が有効になり、設定できます。(SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

ご注意

［ビデオ出力モード］が［NTSC + IP］または［PAL + IP］のとき、ネットワークから出力される映像で設定できる項目が制限されます。詳しくは、［ビデオコーデック］タブをご覧ください。(42 ページ）

補足

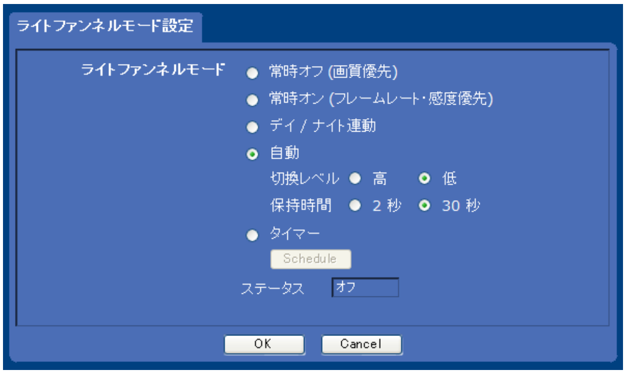
［ビデオ出力モード］はカメラ本体のスイッチでも変更することができます。詳しくは設置説明書をご覧ください。

アナログ出力設定（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

アナログ出力映像に関する設定を行います。ライトファンネル機能のステータスによって、アナログ出力映像の感度・画質・フレームレートが変化します。

［Light funnel］をクリックするとライトファンネルモード設定画面が表示されます。

画面例：SNC-DM160



画質を優先したい場合は［常時オフ（画質優先)］、フレームレート・感度を優先したい場合は［常時オン（フレームレート・感度優先)］を選択してください。その他の設定項目と設定のしかたは、「カメラメニュー 」の［感度アップ］タブ（39 ページ）と同じです。

ご注意

ライトファンネルに関する設定はネットワークから出力される映像にも適用されます。

アイリス開放

フォーカス調整のため、オートアイリスレンズのアイリスを開放します

[オン]：アイリスを開放します。

[オフ]：アイリスを開放しません。

［アイリス開放］を［オン］に設定すると、フォーカスがどの程度あっているかを示すフォーカスアシストインジケーターが表示されます。
［ビデオ出力モード］が［NTSC + IP］または［PAL + IP］のときは、アナログ映像出力端子から出力される映像上に、また、［ビデオ出力モード］が［IP のみ］のときは、ネットワークから出力される映像にフォーカスアシストインジケーターが表示されます。

補足

- ［アイリス開放］はカメラ本体のスイッチでも変更することができます。詳しくは設置説明書をご覧ください。
- フォーカスアシストインジケータの利用方法については、設置説明書をご覧ください。
- カメラを再起動すると、アイリス開放は自動的に［オフ］に戻ります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

初期化タブ

画面例：SNC-DM160



再起動

強制的にカメラを再起動するときに使います。
［Reboot］をクリックすると、「強制的にカメラを再起動します。よろしいですか？」と表示されます。［OK］をクリックするとカメラが再起動します。再起動には約２分かかります。

工場出荷設定

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。
［Factory default］をクリックすると、「カメラを出荷時の設定に戻します。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックすると、カメラのネットワークインジケーターが点滅し始めます。工場出荷時の設定が終了すると、カメラが自動的に再起動します。カメラが再起動するまではカメラの電源を切らないでください。

補足

カメラ本体のリセットスイッチを押しながら本体の電源を入れても出荷時の設定に戻すことができます。詳しくは、付属の設置説明書をご覧ください。

設定保存

カメラの設定情報をファイルに保存するときに使います。
[Save] をクリックし、Web ブラウザの指示に従ってフォルダーを指定してカメラの設定情報を保存することができます。
保存ファイル名称の初期値は、以下をご覧ください。

SNC-DM110 : snc-dm110.cfg
SNC-DS10 : snc-ds10.cfg
SNC-DM160 : snc-dm160.cfg
SNC-DS60 : snc-ds60.cfg

SNC-CM120 : snc-cm120.cfg
SNC-CS20 : snc-cs20.cfg

設定呼び出し

保存されているカメラの設定情報を呼び出すときに使います。
[参照 ...] をクリックして、保存されているカメラ設定情報を選択します。[OK] をクリックすると、選択されたファイルに従ってカメラが設定され、再起動します。

ご注意

・「設定呼び出し」ではネットワークメニュー（47 ページ）の一部の設定は反映されません。
・「設定保存」および「設定呼び出し」で以下の項目を保存または呼び出しすることはできません。
  －SNC audio upload tool でアップロードされた音声ファイル
  －カメラに保存された全体画像（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）
  －Custom Homepage Installer で書き込まれたホームページ
  －802.1X 機能で使用されるクライアント証明書と CA 証明書

カスタムホームページ削除

[Delete] をクリックすると、Custom Homepage Installer（93 ページ）を使用して本機のフラッシュメモリーに設定したホームページを削除することができます。

全体画像取得（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

[Capture] をクリックすると、撮影範囲全体で画像を作成し、本機に保存します。
作成される全体画像は、画像サイズの設定、切り出しの設定などにかかわらず、全体の撮影範囲で作成されます。

ご注意

全体画像作成中は、メインビューアの映像が乱れたり、映像ファイルが正常に作成されない場合があります。

全体画像削除（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

[Delete] をクリックすると、本機に設定された全体画像を削除することができます。

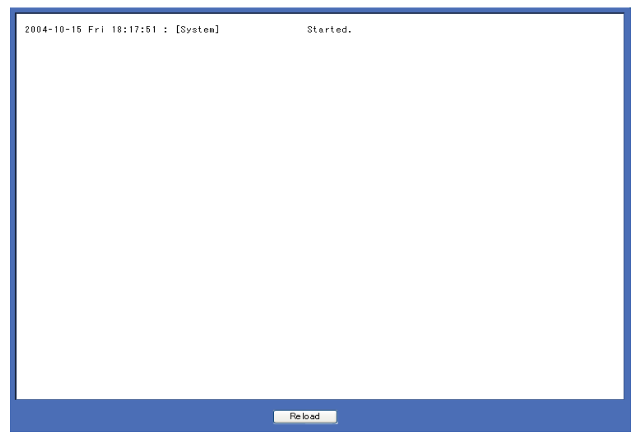
音声ファイル削除

[Delete] をクリックすると、SNC audio upload tool（83 ページ）で本機に保存したすべての音声ファイルを削除することができます。

ご注意

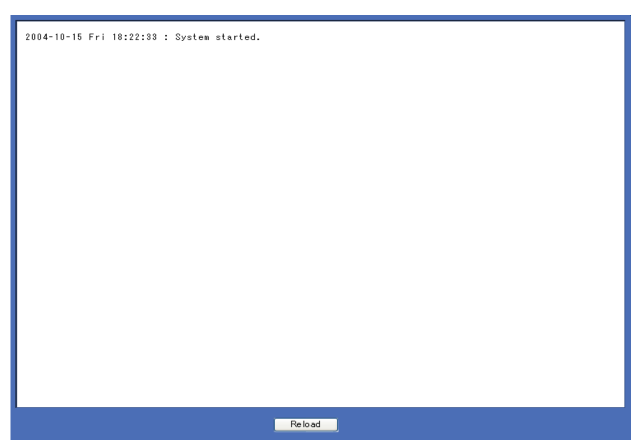
・［Delete］をクリックすると、保存されているすべての音声ファイルが同時に削除されます。個々の音声ファイルを削除する場合は、音声ファイル再生メニュー（72 ページ）の削除したい音声ファイルタブで音声ファイル削除の操作を行ってください。
・あらかじめ音声ファイル再生メニューの（72 ページ）のすべてのタブで [音声ファイル再生] を [オフ] に設定してから音声ファイル削除の操作を行ってください。

システムログタブ



カメラのソフトウェアの動作に関する情報が記述されます。トラブルが発生した時に役立つ情報などが記録されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

アクセスログタブ



カメラのアクセス履歴が表示されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

カメラの設定

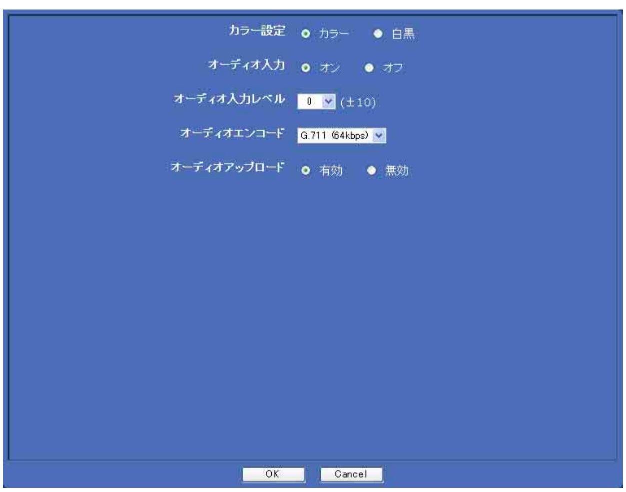
カメラ映像や音声の設定を行う
−カメラメニュー

管理者設定メニューの カメラ をクリックすると、カメラメニューが表示されます。
このメニューではカメラ機能の設定を行うことができます。
カメラメニューは、次のタブから構成されます。

SNC-DM110 / DM160 / DS60 / CM120 / CS20：［共通］、［画像］、［感度アップ］、［ビデオコーデック］、［ストリーミング］

SNC-DS10：［共通］、［画像］、［ビデオコーデック］、［ストリーミング］

共通タブ



カラー設定

映像を [カラー] に設定するか、[白黒] に設定するかを選択します。

オーディオ入力

AUDIO 端子から入力される音声を配信するかどうかを設定します。カメラに入力される音声を配信したい場合には [オン] を選択します。

ご注意

[オーディオ入力] を変更した場合、すでに開いているメインビューアーに設定変更を反映させるには、Web ブラウザの [更新] をクリックしてください。

オーディオ入力レベル

AUDIO 端子から入力される音量レベルを設定します。
［− 10］～［+ 10］の範囲で設定できます。

ご注意

カメラの AUDIO IN 切換スイッチで LINE が選択されている場合は［オーディオ入力レベル］を変更できません。

オーディオエンコード

AUDIO 端子から入力される音声を配信する場合のビットレートを選択します。
選択可能なビットレートは以下のようになります。

[G.711 (64kbps)]、[G.726 (40kbps)]、[G.726 (32kbps)]、[G.726 (24kbps)]、[G.726 (16kbps)]

ご注意

[G.711(64kbps)] 以外を選択すると、Java applet viewer 使用時に音声が出力されません。

オーディオアップロード

[有効] を選択すると、付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用して、お使いのコンピューターの音声入力端子に入力された音声を、カメラのライン出力端子に接続されるスピーカーに出力できます。

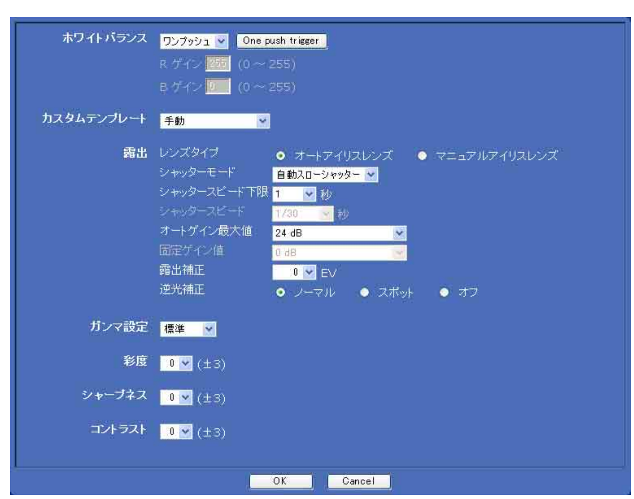
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

画像タブ

カメラの色再現や露出などに関する設定を行います。

画面例：SNC-CM120



ホワイトバランス

ホワイトバランスモードを選択します。

[ATW]：照明などの影響を受けにくく、本来の色に近い色再現を自動で調整します。（約 2000 K ～ 10000 K）
[ATW-PRO]：人の見た目に近い色再現を自動で調整します。（約 3000 K ～ 7500 K）
[白熱灯]：電球・白熱灯下での撮影に適したホワイトバランス（約 3200 K）に調整されます。
[太陽光]：太陽光下での撮影に適したホワイトバランス（約 5800 K）に調整されます。
[蛍光灯]：3 波長昼白色の蛍光灯下での撮影に適したホワイトバランスに調整されます。
[水銀灯]：高圧水銀灯下での撮影に適したホワイトバランスに調整されます。
[ワンプッシュ]：選択すると [One push trigger] が有効になります。[One push trigger] をクリックすると、ホワイトバランスが調整されます。
[手動]：選択すると [R ゲイン] と [B ゲイン] が設定可能になります。ゲイン値は 0 ～ 255 の範囲で設定できます。

カスタムテンプレート

カスタムテンプレートを選択すると、［露出補正］、［逆光補正］、［ガンマ設定］をシーンによって最適に設定します。
［手動］、［エントランス］、［オフィス］、［プラットホーム（屋内）］、［プラットホーム（屋外）］、［地下駐車場］、［立体駐車場］から選択できます。
［手動］を選択した場合は、［露出補正］、［逆光補正］、［ガンマ設定］はお客様が設定した値になります。

ご注意

- カスタムテンプレートを選択すると、［シャッターモード］は自動的に下記のモードになります。
  [自動スローシャッター]：SNC-DM110 / DS10 / DM160 / DS60 のとき、または SNC-CM120 / CS20 で［レンズタイプ］が［オートアイリスレンズ］のとき。
  [自動（スローシャッターオン)]：SNC-CM120 / CS20 で［レンズタイプ］が［マニュアルアイリスレンズ］のとき。
- カスタムテンプレートを選択した状態で、［シャッターモード］、［露出補正］、［逆光補正］、［ガンマ設定］のいずれかの設定を変更すると、カスタムテンプレートは自動的に［手動］に戻ります。

露出

カメラの露出に関する設定を行います。

レンズタイプ（SNC-CM120 / CS20 のみ）

装着しているレンズを選択します。［オートアイリスレンズ］、［マニュアルアイリスレンズ］のどちらかが選択できます。選択したレンズに応じて［シャッターモード］で選択できる項目が変わります。詳細は［シャッターモード］（37 ページ）をご覧ください。

[オートアイリスレンズ]：オートアイリスレンズを装着しているときに選択します。
[マニュアルアイリスレンズ]：固定アイリスレンズを装着しているときに選択します。

ご注意

オートアイリスレンズを装着している場合に［レンズタイプ］で［マニュアルアイリスレンズ］を選択すると、オートアイリスレンズは全開になります。また、固定アイリスレンズを装着している場合に［レンズタイプ］で［オートアイリスレンズ］を選択しても、自動露出設定は行われません。

シャッターモード

シャッタースピードの調整の方式を選択します。[レンズタイプ] に応じて選択できる項目が変わります。

SNC-DM110 / DS10 / DM160 / DS60 のとき、または SNC-CM120 / CS20 で［レンズタイプ］が［オートアイリスレンズ］のとき

[自動スローシャッター]：オートアイリスレンズとゲインの自動調整による露出設定を行います。また、シーンが暗くなるとその変化に合わせて長時間露光モードを含む自動露出設定を行います。
選択すると、［ シャッタースピード下限］、［オートゲイン最大値］、［露出補正］、［逆光補正］が表示され、設定できます。シャッタースピードの可変範囲は、［シャッタースピード下限］で設定した時間から 1/30 秒までとなります。
[手動]：シャッタースピードを固定してオートアイリスレンズとゲインの自動調整による自動露出設定を行います。選択すると［シャッタースピード］が表示され、設定できます。
[フリッカーレス]：蛍光灯照明によるちらつきが映像に見られる場合に選択します。
選択するとシャッタースピードを 1/50 秒に固定することでちらつきを抑えることができます。オートアイリスレンズとゲインの自動調整による自動露出設定を行います。

SNC-CM120 / CS20 で [レンズタイプ] が [マニュアルアイリスレンズ] のとき

[自動（スローシャッターオン)]：ゲインとシャッタースピードの自動調整による露出設定を行います。また、

シーンが暗くなるとその変化に合わせて長時間露光モードも含めた自動露出設定を行います。
選択すると［シャッタースピード下限］、［オートゲイン最大値］、［露出補正］、［逆光補正］が表示され、設定できます。シャッタースピードの可変範囲は、［シャッタースピード下限］で設定した時間から 1/10000 秒までとなります。

［自動（スローシャッターオフ）］：ゲインとシャッタースピードの自動調整による露出設定を行います。シーンが暗くなっても長時間露光は行いません。選択すると［オートゲイン最大値］、［露出補正］、［逆光補正］が表示され、設定できます。シャッタースピードの可変範囲は、1/30 秒から 1/10000 秒までとなります。

［手動］：シャッタースピードを固定してゲインの自動調整による露出設定を行います。
選択すると [シャッタースピード] が表示され、設定できます。

［フリッカーレス］：蛍光灯照明によるちらつきが映像に見られる場合に選択します。
選択するとシャッタースピードを 1/50 に固定することでちらつきを抑えることができます。ゲインの自動調整による露出設定を行います。

シャッタースピード下限

リストボックスから自動スローシャッターの下限を選択します。
選択可能なシャッタースピードは、1、1/2、1/4、1/8、1/15 秒です。

シャッタースピード

リストボックスからカメラのシャッタースピードを選択します。
選択可能なシャッタースピードは、1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/50、1/60、1/100、1/250、1/500、1/1000、1/2000、1/4000、1/10000 秒です。
1、1/2、1/4、1/8、1/15 秒を選択すると、［固定ゲイン値］が表示され、設定できます。
1/30、1/50、1/60、1/100、1/250、1/500、1/1000、1/2000、1/4000、1/10000 秒を選択すると、［オートゲイン最大値］、［露出補正］、［逆光補正］が表示され設定できます。

オートゲイン最大値

リストボックスからゲインによる自動露出設定の最大値を選択します。

SNC-DM110 / DM160 / CM120 の場合

［0 dB］、［6 dB］、［12 dB］、［18 dB］、［24 dB］、［30 dB（ライトファンネルオン : 30 dB）］、［30 dB（ライトファンネルオン : 36 dB）］から選択できます。［0 dB］を選択すると、ゲインアップは行いません。
ライトファンネル機能については、［感度アップ］タブをご覧ください。（39 ページ）

SNC-DS10 / DS60 / CS20 の場合

［0 dB］、［6 dB］、［12 dB］、［18 dB］、［24 dB］、［30 dB］、［36 dB］から選択できます。［0 dB］を選択すると、ゲインアップは行いません。

固定ゲイン値

リストボックスから固定のゲイン値を選択します。

SNC-DM110 / DM160 / CM120 の場合

［0 dB］、［6 dB］、［12 dB］、［18 dB］、［24 dB］、［30 dB（ライトファンネルオン : 30 dB）］、［30 dB（ライトファンネルオン : 36 dB）］から選択できます。［0 dB］を選択すると、ゲインアップは行いません。
ライトファンネル機能については、［感度アップ］タブをご覧ください。（39 ページ）

SNC-DS10 / DS60 / CS20 の場合

［0 dB］、［6 dB］、［12 dB］、［18 dB］、［24 dB］、［30 dB］、［36 dB］から選択できます。［0 dB］を選択すると、ゲインアップは行いません。

露出補正

リストボックスから露出補正値を選択し、自動露出設定の明るさを調整します。大きな値を設定するとより明るく、小さい値を設定すると暗くなります。選択可能な値は以下のようになります。
＋ 3.0, ＋ 2.6, ＋ 2.3, ＋ 2.0, ＋ 1.6, ＋ 1.3, ＋ 1.0, ＋ 0.6, ＋ 0.3, 0, － 0.3, － 0.6, － 1.0, － 1.3, － 1.6, － 2.0, － 2.3, － 2.6, － 3.0（EV）

逆光補正

逆光補正機能の有無を設定します。

［ノーマル］：画面全体から逆光状態を判定し、逆光状態になると露出設定を自動で明るめに補正します。画面内に逆光が発生している場合に選択してください。

［スポット］：画面中央から逆光状態を判定し、逆光状態になると露出設定を自動で明るめに補正します。画面中央部を重点的にモニタリングしたい場合に選択してください。

［オフ］：逆光状態を判定しての露出設定は行いません。

ご注意

逆光補正を［ノーマル］または［スポット］に設定すると、シーンによってはハンチングを生じることがあります。その場合は逆光補正を［オフ］に設定してください。

ガンマ設定

カメラ内部のガンマカーブを設定します。

被写体や撮影状況に応じて、次の 7 種類から選択できます。

[標準]：多くのシーンに適した設定です。

[シーン 1]：影と日向のような明暗差の大きい被写体を同時に撮影する際、暗い部分と明るい部分のディテールを損なわずに撮影することが出来ます。

[シーン 2]：シーン 1 の設定よりも強い効果が得られます。

[シーン 3]：影と日向のような明暗差の大きい被写体を同時に撮影する際、暗い被写体を明るく撮影することが出来ます。

[シーン 4]：ガンマ補正を行いません。撮影した映像に画像処理を行う場合に適した設定です。

[シーン 5]：明るい被写体が白く飛んでしまうのを防ぐのに適した設定です。

[シーン 6]：ガンマ特性が 1.8 のディスプレイ・システムを使用する際に適した設定です。

彩度

彩度を［− 3］～［+ 3］の 7 段階から選択します。
［+ 3］を選択すると最高彩度の画像になります。

シャープネス

鮮鋭度（シャープネス）を［− 3］～［+ 3］の 7 段階から選択します。
［+ 3］を選択すると最高鮮鋭度の画像になります。

コントラスト

コントラストを［− 3］～［+ 3］の 7 段階から選択します。
［+ 3］を選択すると最高コントラストの画像になります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

感度アップタブ（SNC-DM110 / DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）

カメラの感度アップ機能に関する設定を行います。

画面例：SNC-DM160



デイ / ナイトモード（SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）

デイ / ナイト機能には次の 5 つのモードがあります。

[常時オフ]：常にデイモードで動作します。

[常時オン]：常にナイトモードで動作します。

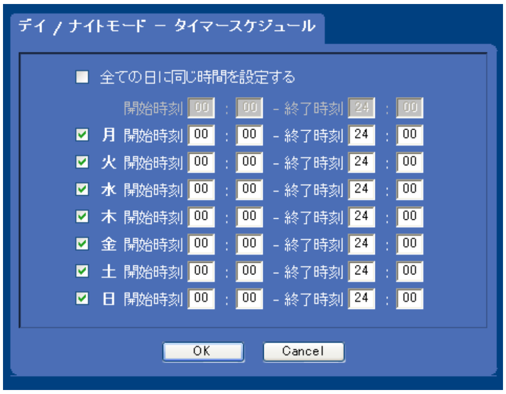
[自動]：通常はデイモードで動作します。暗いところでは自動的にナイトモードに切り替わります。

切り替わるタイミングは以下のパラメーターで調整できます。

切換レベル
ナイトモードに切り替わるときの明るさを、［高］［低］から選択します。

保持時間
明るさの変化に反応する時間を［2 秒］［30 秒］から選択します。

[タイマー]：デイ / ナイトモードをタイマーによって切り換えます。タイマーのスケジュール設定で設定された時間になるとナイトモードになり、それ以外ではデイモードで動作します。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」（76 ページ））



［センサー入力］：センサー入力に対応してデイ / ナイトモードを制御します。

ステータス

デイ / ナイト機能の現在の状態を示します。

［オン］：ナイトモードで動作していることを示しています。
［オフ］：デイモードで動作していることを示しています。

ご注意

［デイ / ナイトモード］を［自動］に設定した場合、以下の現象が起こることがあります。

・［画像］タブの［露出］の設定（37 ページ）が以下のいずれかの場合、ナイトモードに切り替わりません。
　–［シャッターモード］が［手動］で［シャッタースピード］が 1/15 秒以下のとき
　–［シャッターモード］が［手動］で［シャッタースピード］が 1/30 秒以上で［オートゲイン最大値］が 18 dB 以下のとき
　–［シャッターモード］が［手動］以外で［オートゲイン最大値］が 18 dB 以下のとき
・シーンによっては、ナイトモードに切り替わるときにハンチングを生じることがあります。その場合は、［タイマー］モードで時間による切り換えを行うか、［センサー入力］モードで照明に連動した切り換えを行うか、［常時オン］［常時オフ］モードでデイ / ナイトモードを切り換えてください。
・［ライトファンネルモード］を［自動］に設定した場合は、暗くなるとナイトモードに切り替わり、その後さらに暗くなるとライトファンネルオンに切り替わります。明るくなるとライトファンネルオフに切り替わり、その後さらに明るくなるとデイモードに切り替わります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）
・デイモードで動作しているときに、［タイマー］のスケジュール設定によってライトファンネルオフに切り替わった場合、または［ライトファンネルモード］が［常時オン］から［常時オフ］に切り換えた場合、シーンの明るさによってはいったんナイトモードに切り替わり、その後すぐにデイモードに切り替わる場合があります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）
・ナイトモードで動作しているときに、［タイマー］のスケジュール設定によってライトファンネルオンに切り替わった場合や、［ライトファンネルモード］が［常時オフ］から［常時オン］に切り換えた場合、シーンの明るさによってはいったんデイモードに切り替わり、その後すぐにナイトモードに切り替わる場合があります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）

ライトファンネルモード (SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ)

ピクセルのいくつかをひとまとめにして感度を上げる機能をライトファンネルといいます。本機では、1280 × 960 の画像サイズにおいて 2 × 2 のピクセルを加算して 1 ピクセルとします。これによって解像度は下がりますが、感度が上がります。ピクセル加算を行った状態を「ライトファンネルオン」、行わない状態を「ライトファンネルオフ」と呼びます。

ご注意

・ライトファンネルモードは以下の設定がされている場合はご利用いただけません。
　– 画像サイズが［JPEG - 960 × 720：MPEG4 - OFF］または［JPEG - 768 × 576：MPEG4 - OFF］
　– JPEG 画像切り出しがオン
　– ソリッド PTZ がオン
　– アイリス開放がオン
・ライトファンネルが動作している場合、解像感が落ちる場合があります。
・ライトファンネル切り換え中は映像ファイルが正常に作成されない場合があります。

ライトファンネル機能の設定には、次の 5 つのモードがあります。

［常時オフ］：常にライトファンネルオフで動作します。
［常時オン］：常にライトファンネルオンで動作します。
［デイ / ナイト連動］（SNC-DM160 / CM120 のみ）：
　デイ / ナイトの切り替わりに連動してライトファンネルオン / オフを切り換えます。デイモードではライトファンネルオフ、ナイトモードではライトファンネルオンになります。
［自動］：通常はライトファンネルオフで動作します。暗いところでは自動的にライトファンネルオンに切り替わります。

　切り替わるタイミングは以下のパラメーターで調整できます。

切換レベル

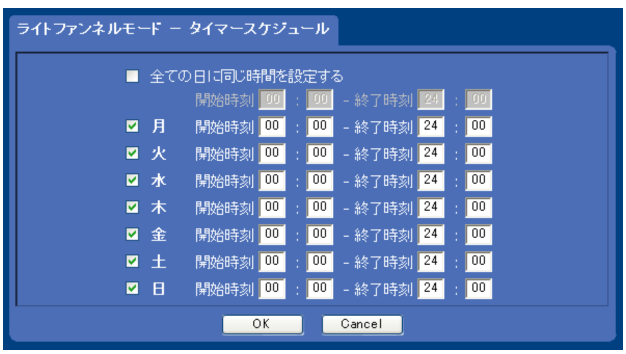
ライトファンネルオンに切り替わるときの明るさを、［高］［低］から選択します。

保持時間

明るさの変化に反応する時間を［2 秒］［30 秒］から選択します。

［タイマー］：ライトファンネルオン / オフをタイマーによって切り換えます。タイマーのスケジュール設定で設定された時間になるとライトファンネルオンに切り替わります。それ以外ではライトファンネルオフで動作します。

［Schedule］をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）



ステータス

ライトファンネル機能の現在の状態を示します。

［オン］：ライトファンネルオンで動作していることを示しています。

［オフ］：ライトファンネルオフで動作していることを示します。

ご注意

［ライトファンネルモード］を［自動］に設定した場合、以下の現象が起こることがあります。

- ［画像］タブの［露出］の設定（37 ページ）が以下のいずれかのとき、ライトファンネルオンに切り替わりません。
  - ［シャッターモード］が［手動］で［シャッタースピード］が 1/15 秒以下のとき
  - ［シャッターモード］が［手動］で［シャッタースピード］が 1/30 秒以上で［オートゲイン最大値］が 18 dB 以下のとき
  - ［シャッターモード］が［手動］以外で［オートゲイン最大値］が 18 dB 以下のとき
- シーンによっては、ライトファンネルオンに切り替わるときにハンチングを生じることがあります。その場合は、［タイマー］モードで時間による切り換えを行うか、［常時オン］［常時オフ］モードでライトファンネルモードを切り換えてください。
- ［デイ / ナイトモード］を［自動］に設定した場合は、暗くなるとナイトモードに切り替わり、その後さらに暗くなるとライトファンネルオンに切り替わります。明るくなるとライトファンネルオフに切り替わり、その後さらに明るくなるとデイモードに切り替わります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）
- ［デイ / ナイトモード］を［タイマー］または［センサー入力］に設定した場合は、ナイトモードになっていないとライトファンネルオンに切り替わりません。スケジュール設定やセンサー入力、トリガー（27 ページ）を使って、ナイトモードを設定してください。また、ライトファンネルオンで動作中に、スケジュール設定やセンサー入力、トリガーによってデイモードに切り替わると、シーンの明るさにかかわらず自動的にライトファンネルオフに切り替わります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）
- ライトファンネルオンのときに［デイ / ナイトモード］が［常時オフ］から［常時オン］に切り替わった場合、またはトリガーによってナイトモードに切り替わった場合、シーンの明るさによってはいったんライトファンネルオフに切り替わり、その後すぐにライトファンネルオンに切り替わる場合があります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）
- ライトファンネルオフのときに［デイ / ナイトモード］が［常時オン］から［常時オフ］に切り替わった場合、またはトリガーによってデイモードに切り替わった場合、シーンの明るさによってはいったんライトファンネルオンに切り替わり、その後すぐにライトファンネルオフに切り替わる場合があります。（SNC-DM160 / CM120 のみ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

ビデオコーデックタブ

ビデオ（映像）コーデックに関する設定を行います。

画面例：SNC-DM160



SNC-DM110 / DM160 / CM120 の場合

画像サイズ

カメラから出力される画像サイズ、および JPEG 画像切り出し有効の設定を次から選択します。

・JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効
・JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - OFF
・JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）
・JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - 384 × 288
・JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）
・JPEG - 960 × 720：MPEG4 - OFF
・JPEG - 768 × 576：MPEG4 - OFF
・JPEG - 640 × 480（VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）
・JPEG - 384 × 288：MPEG4 - 384 × 288
・JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）

ご注意

・JPEG 画像切り出しは、JPEG 出力サイズが 1280 × 960（Quad-VGA）、MPEG4 が OFF のときのみ使用できます。
・スーパーインポーズは JPEG 画像切り出しが［無効］のときのみ動作します。画像サイズの設定が［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効］のときは、設定されていても動作しません。
・ライトファンネルモードは以下の設定がされている場合はご利用いただけません。
  －画像サイズが［JPEG - 960 × 720：MPEG4 - OFF］または［JPEG - 768 × 576：MPEG4 - OFF］
  － JPEG 画像切り出しがオン（［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効］の場合）
  －ソリッド PTZ がオン
  －アイリス開放がオン
・JPEG の出力画像サイズが 1280 × 960（Quad-VGA）の設定の場合、ライトファンネルが有効になると、設定にかかわらず出力画像のサイズは 640 × 480（VGA）になります。
・ライトファンネルが動作していない場合、フレームレートを 15（fps）以上に設定しても最大フレームレートは 15（fps）になります。
・［ビデオ出力モード］（33 ページ）が［NTSC+IP］または［PAL+IP］、または［アイリス開放］（34 ページ）が［オン］の場合、切り出し、スーパーインポーズ、プライバシーマスキング、およびソリッド PTZ は設定にかかわらず無効になります。

カメラの設定

・［ビデオ出力モード］（33 ページ）が［NTSC+IP］または［PAL+IP］で、［アイリス開放］（34 ページ）が［オフ］の場合、出力設定にかかわらず、出力画像サイズは次のようになります。

ライトファンネルモード	JPEG	MPEG4
ライトファンネルオン（動作中）	640 × 480 （VGA）	640 × 480（VGA）
ライトファンネルオフ（停止中）	1280 × 960（Quad-VGA）	オフ

・［アイリス開放］が［オン］のとき、設定にかかわらず［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）：MPEG4 - OFF］およびライトファンネルオフになります。
・選択された出力画像サイズにより、スーパーインポーズ、プライバシーマスキング、およびソリッド PTZ をご利用いただけるコーデックに制限があります。詳しくは次の表をご覧ください。

	ソリッド PTZ		スーパーインポーズ		プライバシーマスキング	
	JPEG	MPEG4	JPEG	MPEG4	JPEG	MPEG4
JPEG - 1280 × 960 （Quad-VGA）：MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効	×	×	×	×	○	×
JPEG - 1280 × 960 （Quad-VGA）：MPEG4 - OFF	×	×	○	×	○	×
JPEG - 1280 × 960 （Quad-VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	×	○	×	○	×	○
JPEG - 1280 × 960 （Quad-VGA）：MPEG4 - 384 × 288	×	○	×	○	×	○
JPEG - 1280 × 960 （Quad-VGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）	×	○	×	○	×	○
JPEG - 960 × 720：MPEG4 - OFF	○	×	○	×	○	×
JPEG - 768 × 576：MPEG4 - OFF	○	×	○	×	○	×
JPEG - 640 × 480（VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	○	○	○	○	○	○
JPEG - 384 × 288 ：MPEG4 - 384 × 288	○	○	○	○	○	○
JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）	○	○	○	○	○	○

○ 利用できる機能、× 利用できない機能

SNC-DS10 / DS60 / CS20 の場合

画像サイズ

カメラから出力される画像サイズを次から選択します。

・JPEG - 768 × 576：MPEG4 - 640 × 480（VGA）
・JPEG - 640 × 480（VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）
・JPEG - 640 × 480（VGA）：MPEG4 - 384 × 288
・JPEG - 640 × 480（VGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）
・JPEG - 384 × 288：MPEG4 - 640 × 480 (VGA）
・JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）
・JPEG - 384 × 288：MPEG4 - 384 × 288
・JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）

ご注意

- JPEG - 768 × 576 は JPEG - 640 × 480（VGA）で取得した映像を拡大して作成します。このため、解像感が落ちる場合があります。
- ［ビデオ出力モード］（33 ページ）が［NTSC+IP］または［PAL+IP］、または［アイリス開放］（34 ページ）が［オン］の場合、スーパーインポーズ、およびプライバシーマスキングは設定にかかわらず無効になります。また、出力画像サイズの設定にかかわらず、JPEG、MPEG4 ともに 640 × 480（VGA）になります。
- 選択された出力画像サイズにより、スーパーインポーズ、およびプライバシーマスキングをご利用いただけるコーデックに制限があります。詳しくは次の表をご覧ください。

	スーパーインポーズ／プライバシーマスキング	
	JPEG	MPEG4
JPEG - 768 × 576 ：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	○	×
JPEG - 640 × 480 （VGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	○	○
JPEG - 640 × 480 （VGA）：MPEG4 - 384 × 288	×	○
JPEG - 640 × 480 （VGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）	×	○
JPEG - 384 × 288 ：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	○	×
JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 640 × 480（VGA）	○	×
JPEG - 384 × 288：MPEG4 - 384 × 288	○	○
JPEG - 320 × 240（QVGA）：MPEG4 - 320 × 240（QVGA）	○	○

○ 利用できる機能、× 利用できない機能

JPEG 画像切り出し（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

画像サイズの設定で「JPEG 画像切り出し有効」を指定した場合、画像を切り出して必要な部分の画像のみを表示させることにより、配信のデータ量を小さくし、回線の負担を軽減することができます。
［Area setting］をクリックすると、画像切り出し範囲を設定することができます。

画像の切り出しかた

1. ［画像サイズ］を［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）: MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効］に設定する。
   ［Area setting］をクリックできるようになります。
2. ［Area setting］をクリックする。
   画像切り出し設定画面が表示されます。
3. 切り出し範囲を設定する。
   静止画上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグする。赤い枠で囲まれたエリアが切り出し範囲となります。
4. 画像下部の［OK］をクリックする。
   切り出した画像がメインビューアーに表示されます。
5. 画像切り出し設定画面を閉じるには ✕ をクリックする。

ご注意

- 画像サイズで［JPEG - 1280 × 960（Quad-VGA）: MPEG4 - OFF：JPEG 画像切り出し有効］以外を選択した場合、［Area setting］をクリックすることができなくなります。
- 画像切り出しを設定した場合でも、動体検知機能は画像切り出しを行う前の画像サイズで動作します。

プライバシーマスキング

プライバシーマスキング機能が適用されるコーデックが緑色で示されます。プライバシーマスキング機能は「SNC privacy masking tool」（90 ページ）で設定することができます。

ご注意

- プライバシーマスキングを使用すると、画像のフレームレートが低下する場合があります。
- プライバシーマスキングを利用した場合でも、動体検知機能はプライバシーマスキングをかける前の画像で動作します。
- マスクする映像とマスクの色が大きく異なる場合、にじんで表示される場合があります。

スーパーインポーズ

スーパーインポーズ機能が適用されるコーデックが緑色で示されます。［Superimpose］（32 ページ）をクリックすると、［日付 / 時刻］タブが表示され、スーパーインポーズを設定することができます。

ご注意

- スーパーインポーズを使用すると、画像のフレームレートが低下する場合があります。
- スーパーインポーズ機能は JPEG 画像切り出しが有効のときは動作しません。(SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ)

ソリッド PTZ（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

ソリッド PTZ 機能を使用するときは［オン］を選択します。
ソリッド PTZ 機能をオンにした場合に適用されるコーデックが緑色で示されます。

ご注意

- 画像サイズの設定によっては、この機能を選択できません。
- ソリッド PTZ を利用した場合でも、動体検知機能はソリッド PTZ を行う前の画像サイズで動作します。

JPEG 設定 / MPEG4 設定

画像サイズ設定に応じて、ビデオコーデックの詳細を設定します。
設定した動作モードに応じて、［JPEG 設定］または［MPEG4 設定］の設定可能な項目を選んでください。

フレームレート

映像のフレームレートを設定します。
選択可能なフレームレートは以下のようになります。

1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 15, 20, 25, 30 （fps）

“fps”は 1 秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。

ご注意

ライトファンネルが動作していない場合、15（fps）以上に設定されていても最大フレームレートは 15（fps）になります。（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

画質設定

JPEG 映像の画質を設定することができます。
［Level 1］～［Level 10］まで選択できます。［Level 10］を選択すると最高画質になります。

帯域制限

カメラが出力する JPEG 映像データのネットワーク帯域を制限することができます。
選択できる帯域は以下のようになります。

0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, Unlimited（Mbps）

ご注意

帯域制限を行うと、設定によっては音声が途切れる場合があります。この場合は、制限する帯域を大きくしてください。

ビットレート

MPEG4 に設定したときに、映像配信の 1 回線あたりのビットレートを選択することができます。ビットレートを大きい値に設定すると高画質な映像を配信することができます。
選択できるビットレートは以下のようになります。

64, 128, 256, 384, 512, 768, 1024, 1536, 2048 （kbps）

自動レート制御

接続しているコンピューターの環境などに合わせてスムーズな映像を再生できるように、映像のフレームレートやビットレートを自動で調整する機能です。［オン］を選択すると自動で MPEG4 映像のレート調整を行います。

ご注意

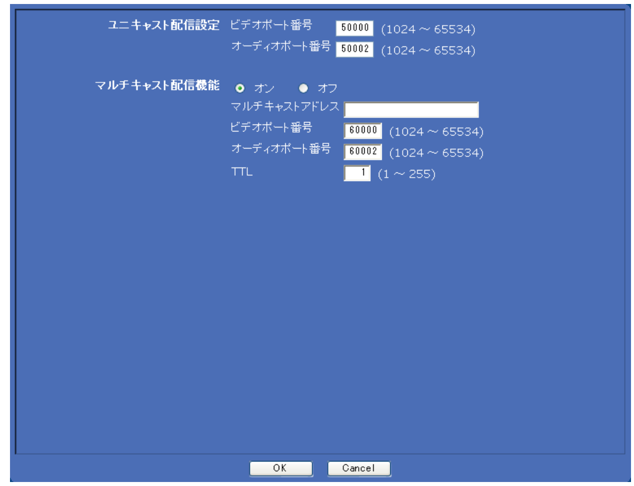
- 実際に配信されるフレームレートやビットレートは画像サイズ、撮影シーン、ネットワーク環境などによって設定値とは異なる場合があります。
- ［自動レート制御］が［オン］のときの最大配信レートは、フレームレートやビットレートに設定されている値となります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

ストリーミングタブ

ユニキャストやマルチキャストを使用した配信に関する設定を行います。



ユニキャスト配信設定

ウェルカムページで［UDP（unicast）］または［UDP（multicast）］を選択したときに使用される MPEG4 映像データと音声データの通信ポート番号を指定します。

ビデオポート番号

MPEG4 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 50000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

オーディオポート番号

音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 50002 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

マルチキャスト配信機能

本機が MPEG4 映像データと音声データのマルチキャスト配信を行うかどうかを設定します。同じセグメントのコンピューターに対して同じ配信データを受信させることによってカメラ側の配信負荷を軽減させることができます。
マルチキャスト配信を許可する場合には [オン]、許可しない場合には [オフ] を選択します。
[オン] を選択した場合には、以下の [マルチキャストアドレス]、[ビデオポート番号]、[オーディオポート番号] を適切に設定してください。

マルチキャストアドレス

マルチキャスト配信時に使用するマルチキャストアドレスを入力します。

ビデオポート番号

マルチキャスト配信時に使用する MPEG4 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 60000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

オーディオポート番号

マルチキャスト配信時に使用する音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 60002 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

TTL

マルチキャスト配信パケットがルーターを通過できる回数を指定します。

OK/Cancel

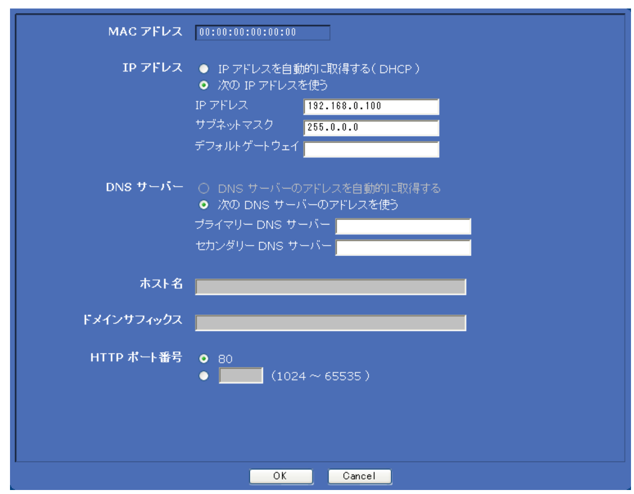
「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

ネットワークを設定する －ネットワークメニュー

管理者設定メニューの ネットワーク をクリックすると、ネットワークメニューが表示されます。
このメニューでは本機とコンピューターを接続するためにネットワーク設定を行います。
ネットワークメニューは [ネットワーク]、[IP アドレス通知] の 2 つのタブで構成されます。

ネットワークタブ

本機をネットワークケーブルで接続するための設定を行います。



MAC アドレス

カメラの MAC アドレスを表示します。

IP アドレス

IP アドレスの設定を行います。

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)]：ネットワークに DHCP サーバーが設置されており、IP アドレスが DHCP サーバーから割り振られる環境の場合に選択します。IP アドレスが自動的に割り当てられます。

[次の IP アドレスを使う]： 固定 IP アドレスを設定する場合に選択します。[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] をそれぞれ入力します。

ご注意

［IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスク値を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを入力します。

DNS サーバー

DNS サーバーのアドレスを設定します。

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]：DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。ネットワークタブの［IP アドレスを自動的に取得する（DHCP)］を選択したときのみ設定可能です。

[次の DNS サーバーのアドレスを使う]：DNS サーバーの IP アドレスに固定のアドレスを使用する場合に選択し、[プライマリー DNS サーバー]、[セカンダリー DNS サーバー] のアドレスを入力します。

ご注意

［DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

プライマリー DNS サーバー

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバー

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

ホスト名

DHCP サーバーに送信するカメラのホスト名情報を入力します。ネットワークタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ドメインサフィックス

DHCP サーバーに送信するカメラのドメインサフィックス情報を入力します。ネットワークタブの [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ご注意

上記のドメインサフィックスは、[ホスト名] が設定されている場合に FQDN（Fully Qualified Domain Suffix）情報として DHCP サーバーに送信されます。

HTTP ポート番号

通常は [80] を選択します。[80] 以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

ご注意

ネットワークメニューやセットアッププログラムで HTTP ポート番号を [80] 以外のポート番号に設定したときは、Web ブラウザのアドレス欄に以下のように入力してカメラにアクセスし直してください。

例：出荷時の IP アドレスにポート番号 8000 番を設定した場合



OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(28 ページ）をご覧ください。

IP アドレス通知タブ — IP アドレス通知を行う

ネットワークタブで [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択した場合、SMTP や HTTP などのプロトコルを使用してネットワーク設定の完了通知を送ることができます。



メール通知

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時にメールを送信することができます。

SMTP サーバー名

メール送信に使用する SMTP（送信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または SMTP サーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。
[オン]：メール送信に認証が必要な場合、以下の認証方法を選択し、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
[SMTP 認証]：メール送信に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどちらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP（受信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要となります。

ユーザー名 、パスワード

メールアカウントを持っているユーザーのユーザー名とパスワードを半角 64 文字以内で入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要となります。

宛先アドレス

送信先（受取人）のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。送信先は 1 つのみです。

管理者アドレス

カメラ管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名 / 題名を半角 64 文字以内で入力します。

本文

メールの本文を半角 384 文字以内、全角 192 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力します。半角カタカナ文字は使用しないでください。
後述の特殊タグを使用して、取得した IP アドレスなどの情報を記入することができます。

HTTP 送信

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時に HTTP サーバーにコマンドを出力させることができます。コマンドを受け取る側の HTTP サーバーに残るアクセスログを参照したり、CGI による外部プログラムを起動させたりするなど、便利なシステムを構築することが可能となります。

URL

HTTP リクエストを送信するための URL を指定します。
URL は通常以下の形式で 256 文字以内で記述します。

http://ip_address[:port]/path?parameter

ip_address：接続すべきホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[:port]：接続するポート番号を入力します。通常の HTTP サーバーは Well-known ポートである 80 番を使用しますが、この場合には省略することができます。
path：コマンドを入力します。
parameter：必要があればコマンドのパラメーターを入力します。パラメーターには後述の特殊タグを入力することができます。

プロキシサーバー名

プロキシサーバー経由で HTTP リクエストを送信する際に設定します。プロキシサーバー名またはその IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

プロキシポート番号

プロキシサーバー経由で HTTP リクエストを送信するためのポート番号を設定します。1024 ～ 65535 の値を設定することができます。

送信メソッド

HTTP のメソッドを選択します。サポートされているメソッドは [GET]、[POST] の 2 種類です。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

特殊タグについて

IP アドレス通知には、DHCP で取得した IP アドレスなどを通知できるようにするため特殊タグを使用することができます。これはメール機能の本文中、HTTP の URL のパラメーター部分に入力することができます。特殊タグには以下の 5 種類があります。

<IP>

このタグを使用すると DHCP 設定後の IP アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<HTTPPORT>

このタグを使用すると設定されている HTTP サーバーのポート番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MACADDRESS>

このタグを使用すると DHCP で IP アドレスを取得したインターフェースの MAC アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MODELNAME>

このタグを使用すると本機のモデル名称を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<SERIAL>

このタグを使用することで本機のシリアル番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

802.1X 認証機能を使用する
– 802.1X メニュー

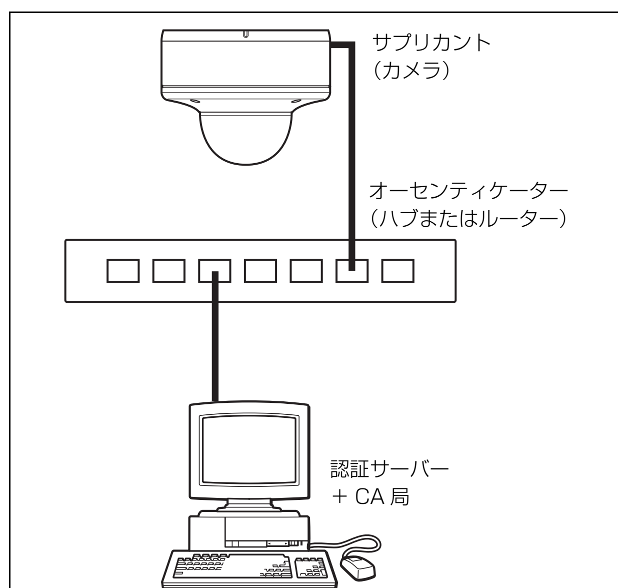
管理者設定メニューの 802.1X をクリックすると 802.1X メニューが表示されます。このメニューでは 802.1X 仕様に基づいたポート認証を行うための設定を行います。
802.1X メニューは［共通］、［クライアント証明書］、［CA 証明書］の 3 つのタブで構成されます。

ご注意

802.1X 認証機能をご利用になるには、あらかじめ 802.1X 認証およびデジタル証明書に関する知識が必要です。また、802.1X ネットワークを構築するには、オーセンティケーター、アクセスポイント、認証サーバーなどの設定が必要です。これらの設定については該当機器の取扱説明書などをご覧ください。

802.1X ネットワークのシステム構成

802.1X ネットワークの一般的なシステム構成はつぎのとおりです。



サプリカント

認証サーバーと接続し、認証ネットワークに参加する機器を指します。本カメラは 802.1X ネットワークにおいてサプリカントとなります。サプリカントは、認証サーバーと適切な認証を行うことによって 802.1X ネットワークに接続できます。

オーセンティケーター
サプリカントや認証サーバーから発行される要求データや返答データを相互に転送する役割を果たします。通常は、ハブやルーターがオーセンティケーターとなります。

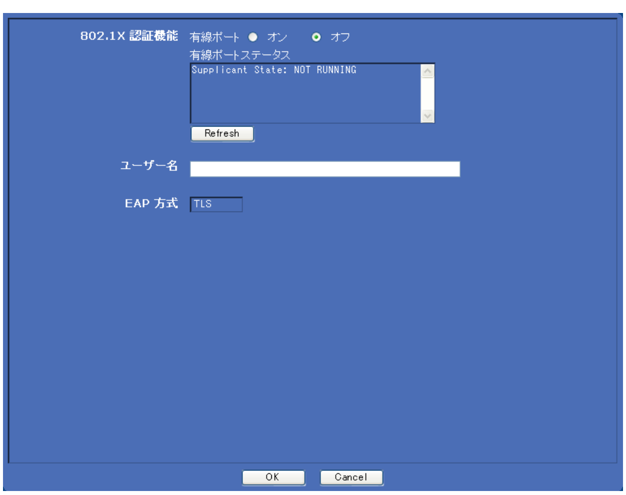
認証サーバー
接続ユーザーのデータベースを持ち、接続しようとするサプリカントが正しいユーザーであるかどうかを確認します。RADIUS サーバーと呼ばれることもあります。

CA 局
認証サーバーの証明書（CA 証明書）やユーザーの証明書を発行、管理します。ユーザーの認証方法に証明書を使用する場合に必要です。通常は、認証サーバー内に CA 局を構成します。

ご注意

本機の 802.1X 認証機能は証明書を用いてサプリカント、サーバーの相互認証を行う EAP-TLS モードのみに対応しています。このため、証明書を発行する CA 局が必要となります。

共通タブ－ 802.1X 認証機能の基本設定を行う



802.1X 認証機能
802.1X 認証機能のポートの有効／無効の設定を行います。また、ステータスの確認ができます。

有線ポート
有線ポートの 802.1X 認証機能を使用するときは［オン］を選択します。

有線ポートステータス
有線ポートの 802.1X 認証機能の認証状態などを表示します。
［Refresh］をクリックすると、最新の情報に更新されます。

ユーザー名
802.1X の認証サーバーにおいてクライアントを特定するユーザー名を半角 3 ～ 253 文字で入力します。

EAP 方式
認証サーバーとの認証方式を表示します。本機では TLS 方式のみをサポートしているため、変更できません。

OK/Cancel
「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

クライアント証明書タブ

カメラへのクライアント証明書のインポートや証明書要求のエクスポートを行います。



クライアント証明書
クライアント証明書のインポート、内容表示、削除を行います。

クライアント証明書をインポートするには
［参照 ...］をクリックして、インポートしたいクライアント証明書を選択します。
［Submit］をクリックすると、選択されたファイルがカメラにインポートされます。

ご注意

クライアント証明書以外のファイルを選択したときや、許可されていない形式のクライアント証明書がインポートされたときはインポート処理が無効となります。

クライアント証明書の内容表示をするには

クライアント証明書がカメラに正しく保存されると、［証明書のステータス］、［発行者識別名］、［サブジェクト識別名］、［有効期間］、［拡張キー使用法］に情報が表示されます。

［証明書のステータス］：クライアント証明書の有効／無効に関する情報を表示します。ステータスには以下の種類があります。

［有効］：クライアント証明書が正しく保存・設定されています。

［無効］：クライアント証明書が正しく保存・設定されていません。

無効になった場合には、以下の原因が考えられます。

－クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードが正しく設定されていない

－クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていないのに、秘密鍵パスワードが設定されている

－クライアント証明書に含まれるはずの秘密鍵情報が含まれていない

ご注意

インポートするクライアント証明書が PKCS#12 形式の場合には、秘密鍵パスワードを正しく設定しないと［発行者識別名］、［サブジェクト識別名］、［有効期間］、［拡張キー使用法］の欄に“<Put correct private key password>”と表示されます。正しい秘密鍵パスワードを設定しないと証明書情報は確認できません。

クライアント証明書を削除するには

［Delete］をクリックすると、カメラに保存されたクライアント証明書を削除します。

秘密鍵パスワード

クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードを半角 50 文字以内で設定します。

クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていない場合には空欄にしてください。

秘密鍵パスワードがカメラに設定されていない場合は、秘密鍵パスワードの入力が可能です。

秘密鍵パスワードがすでに設定されている場合は、パスワードが伏せ字で表示されます。

Reset

すでに設定した秘密鍵パスワードを変更したい場合、このボタンをクリックすると、現在のパスワードがクリアされ、新しいパスワードの入力が可能になります。

ご注意

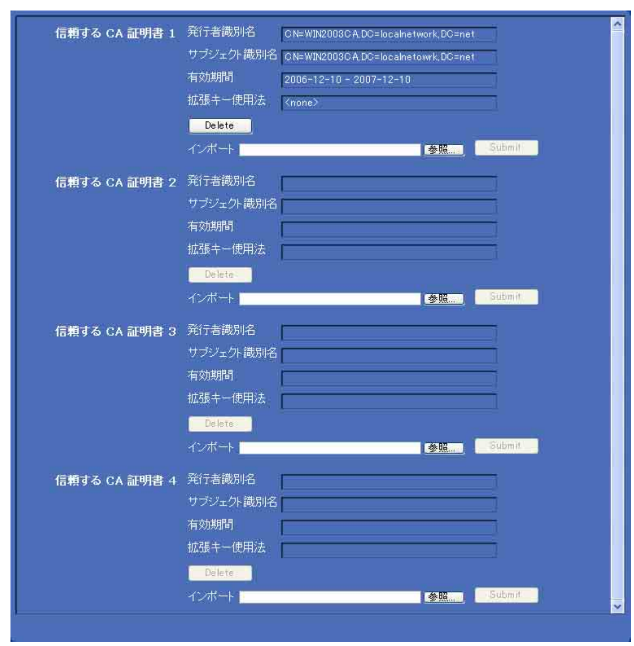
［Reset］をクリックした後で秘密鍵パスワードの変更を中止する場合は、画面下部の Cancel をクリックしてください。この場合、クライアント証明書タブの他の設定項目についても変更前の状態に戻ります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

CA 証明書タブ

信頼する CA 証明書（サーバー証明書、ルート証明書）をカメラへインポートします。カメラへは信頼する CA 証明書を 4 つまでインポートすることができます。サポートされる証明書形式は PEM 形式のみです。



CA 証明書をインポートするには

［参照 ...］をクリックして、カメラに保存したい CA 証明書を選択します。

［Submit］をクリックすると、選択されたファイルがカメラに転送されます。

ご注意

CA 証明書以外のファイルを選択すると、インポート処理が無効となります。

CA 証明書の内容表示をするには

CA 証明書がカメラに正しく保存されると、［発行者識別名］、［サブジェクト識別名］、［有効期間］、［拡張キー使用法］に情報が表示されます。

CA 証明書を削除するには

［Delete］をクリックすると選択した CA 証明書をカメラから削除します。

802.1X 認証機能の設定のしかた－ Windows Server 2003 を使用した場合の例

ここでは、Microsoft 社製の Windows Server 2003 を使用して、認証サーバーおよび CA 局を構成する場合の設定例について説明します。

ご注意

ここでの説明は Windows Server 2003 のユーザーインターフェースを基に記載していますが、オペレーティングシステムのバージョンやサービスパック、パッチの更新状況などにより、表記やページ構成が異なることがあります。

設定の前に

802.1X ネットワークを構成するには、以下の事前設定が必要になります。

Active Directory（ドメインコントローラ）について

この設定例では Active Directory が構成されている前提で説明します。

Windows IAS の構成

Windows Server 2003 の「サーバーの役割管理」メニューで「リモートアクセス／ VPN サーバー」を構築します。
また、Windows メニューの「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を開き、「Windows コンポーネントの追加と削除」でインターネット認証サービス（IAS）をインストールします。

CA 局の構成

次の手順で CA 局を構成します。

1. Windows メニューの「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を開く。
2. ［Windows コンポーネントの追加と削除］を選択する。
3. コンポーネントメニューにある［証明書サービス］を追加する。
4. ［認証局の種類］で［エンタープライズのルート CA］を選択し、次へ進む。
5. ［この CA の共通名］欄に CA 局の名称を入力し、CA 局を構成する。

Active Directory 用セキュリティグループを作成するには

1. Windows メニューの「管理ツール」から「Active Directory ユーザーとコンピューター」を開く。
2. 802.1X 接続を行いたいドメインの［Users］項を選択して右クリックする。
3. コンテキストメニューの［新規作成］から［グループ］を選択し、802.1X 接続用のグループを作成する。
例として、「Wired_802.1X_Group」という名称のグループを作成したと仮定して説明を行います。

インターネット認証サービスを設定するには

1. Windows メニューの「管理ツール」から「インターネット認証サービス」を開く。
2. 操作メニューにある［Active Directory にサーバーを登録］をクリックする。
3. クリック後に表示される注意事項を良くお読みになり、同意される場合には［OK］をクリックする。

次に EAP-TLS 用のポリシーを作成します。

4. ［リモートアクセスポリシー］を選択して右クリックする。
5. コンテキストメニューの［新規作成］から［新しいリモートアクセスポリシー］を選択して「新しいリモートアクセスポリシーウィザード」を開く。
6. ［カスタムポリシーを設定する］を選択する。
7. 以下の項目を設定する。
［ポリシー名］：例として「Allow 802.1X Access」と入力します。
［ポリシー条件］：［追加］をクリックして以下の項目を追加します。

- NAS-Port-Type：イーサーネット、ワイヤレス - IEEE802.11、ワイヤレス - その他、仮想（VPN）
- Windows-Groups：Wired_802.1X_Group

［アクセス許可］：［リモートアクセス許可を与える］を選択します。

［プロファイルの編集］：
- ダイヤルインの制限タブ：クライアントが接続できる時間（セッションタイムアウト）を必要に応じて設定します。
- 認証タブ：すべてのチェックボックスを外します。また、［EAP メソッド］をクリックし、"スマートカードまたはその他の証明書"を追加します。

次に RADIUS クライアントの設定を行います。

8 ［RADIUS クライアント］を選択して右クリックする。

9 コンテキストメニューから［新しい RADIUS クライアント］を選択する。

10 以下の内容を入力する。

［フレンドリ名］：例として「authenticator」と入力します。

［クライアントのアドレス］：オーセンティケーターの IP アドレス

［クライアントベンダ］：RADIUS Standard

［共有シークレット］：オーセンティケーターに設定する共有シークレットを設定します。

ユーザーを追加するには

1 Windows メニューの［管理ツール］から［Active Directory ユーザーとコンピューター］を開く。

2 ユーザーを追加したいドメインの［Users］項を選択して右クリックする。

3 コンテキストメニューの［新規作成］から［ユーザー］を選択する。

4 以下の項目を設定し、新たなユーザーを設定する。
例として、ログオンユーザー名を「1XClient」として説明します。

［姓］：1XClient

［ログオン名］：1XClient@ < ドメイン名 >

［パスワード］：パスワードを設定します。また、アカウントオプションにて［パスワードを無期限にする］を選択します。

5 追加ユーザーを選択し、右クリックする。

6 コンテキストメニューから［プロパティ］を選択する。

7 以下の詳細を設定する。

［ダイヤルインタブ］：リモートアクセス許可にて［アクセス許可］を選択します。

［所属するグループタブ］：「Wired_802.1X_Group」を追加します。

これで 802.1X ネットワークを構成するための準備が完了しました。
カメラ側にインポートする証明書の発行の手順を次に記載します。

CA 証明書を発行するには

一時的に証明書を保存する Windows クライアント PC を準備します（以下、クライアント PC と呼ぶ）。クライアント PC と Windows Server 2003 のコンピューターがネットワーク接続可能になるように構成します。

1 クライアント PC で Internet Explorer を起動する。

2 アドレスバーに CA 局の URL を入力し、［移動］をクリックする。
CA 局の URL は、通常、以下のようになっています。

http://（CA局のIPアドレス）/CertSrv/

Microsoft 証明書サービスのページが表示されます。



ご注意

上記の URL で Microsoft 証明書サービスのページが表示されない場合には、以下の点を確認してください。
- インターネットインフォメーションサービス（IIS）で、Web サイトのサービスが開始状態になっていますか？

–証明書サービスが開始状態になっていますか？
–クライアント PC 側のファイアーウォール設定やアンチウィルスソフトなどにより接続できない状態になっていませんか？
–クライアント PC 側のネットワーク設定や Internet Explorer の設定は正しいですか？

3 Internet Explorer がログインユーザー、パスワードの入力を促したら、以下のようにユーザー名を入力する。
例として、ユーザー名が「1XClient」、ドメイン名が「localnetwork.net」の場合、以下のようにユーザー名を入力します。

1XClient@localnetwork.net

4 ［CA 証明書、証明書チェーン、または CRL のダウンロード］をクリックする。

5 ［エンコード方式］で［Base64］を選択し、［CA 証明書のダウンロード］をクリックする。
ファイルのダウンロードのダイアログが表示されます。

6 ファイルの保存場所を指定し、CA 証明書を保存する。

上記の手順で保存された CA 証明書をカメラにインポートすることで CA 証明書のインポートは完了となります。

クライアント証明書をダウンロードするには

1 クライアント PC で Internet Explorer を起動し、アドレスバーに CA 局の URL を入力する。
CA 局の URL は、通常、以下のようになっています。

http://（CA局のIPアドレス）/CertSrv/

2 ［移動］をクリックする。

3 ログインユーザー名、パスワードを正しく入力し、Microsoft 証明書サービスページを表示する。

4 ［証明書を要求する］、［要求の詳細設定を送信する］、［この CA へ要求を作成し送信する］の順にクリックする。

5 以下の項目を設定する。



[証明書テンプレート]：ユーザー
[キーのオプション]：新しいキーセットを作成します。
–CSP：Microsoft Enhanced Cryptographic Provider v1.0
–キーのサイズ：1024
–［エクスポート可能なキーとしてマークする］をチェックします。
[追加オプション]：ハッシュ アルゴリズムを「SHA-1」に設定します。

6 ［送信］をクリックする。
［証明書は発行されました］と表示されます。

7 ［この証明書をインストール］をクリックして、クライアント PC の証明書ストアにインストールする。

8 Internet Explorer の ［インターネットオプション］、［コンテンツ］、［証明書］の順にクリックする。
［個人］タブに新たなクライアント証明書が保存されていることが確認できます。

9 インストールされた証明書を選択し、［エクスポート］をクリックする。
「証明書エクスポートウィザード」が表示されます。

10 ［次へ］をクリックし、以下のように選択する。
[証明書と一緒に秘密キーをエクスポートしますか？]：［はい、秘密キーをエクスポートします］を選択します。
[使用する形式を選択してください]：［Personal Information Exchange - PKCS#12（PFX）］を選択します。
[パスワード]：秘密鍵パスワードを設定します。
[エクスポートするファイル]：エクスポートするファイル名を設定します。

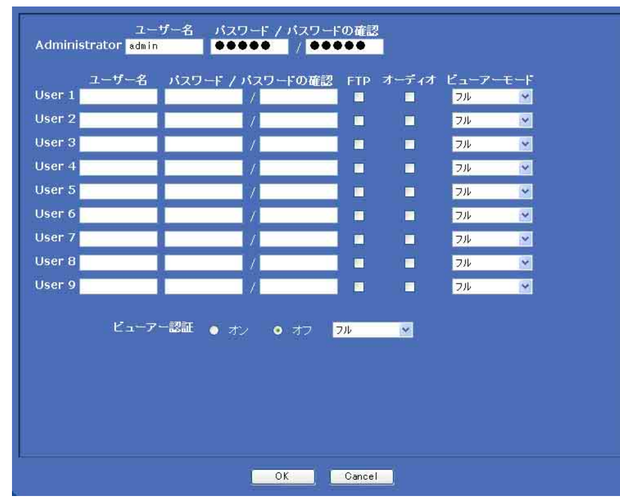
これで、証明書がエクスポートされます。エクスポートされたファイルをカメラのクライアント証明書としてインポートします。
詳しくは、「クライアント証明書」タブの「クライアント証明書をインポートするには」（51 ページ）をご覧ください。

ご注意

上記の手順で保存される証明書は、CA 証明書を保存する際の初期ファイル名称（certnew.cer）と同様となります。クライアント PC で上書きされないようにご注意ください。

ユーザー設定をする
－ユーザーメニュー

管理者設定メニューの ユーザー をクリックすると、ユーザーメニューが表示されます。
このメニューでは、管理者（Administrator）と最大 9 ユーザー（User 1 ～ User 9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのアクセス権が設定できます。



Administrator

[ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認] を設定します。

User 1 ～ User 9

各列に [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認]、[FTP]、[オーディオ]、[ビューアーモード] を設定します。

ユーザー名

ユーザー名を 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワード

パスワードを 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワードの確認

パスワードの確認のために、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

FTP

FTP サーバーへのログインを許可するかどうかの設定を行います。FTP サーバーへログインする必要がある場合には、チェックしてください。

オーディオ

付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用し、カメラのライン出力端子に接続されるスピーカーへの音声出力を許可するかどうかを設定します。音声の出力を行う必要がある場合はチェックしてください。

ご注意

SNC audio upload tool を使用して音声出力を行う場合は、あらかじめカメラメニューの [オーディオアップロード] 設定を [有効] に設定してください。（36 ページ）

ビューアーモード

メインビューアーを表示するときにユーザー認証を行う場合、認証後に表示させるビューアーのモードを選択できます。

[フル]：このモードではすべての操作が可能です。

[ライト]：ビューモードに加え、メインビューアーの画像サイズ選択やデジタルズーム操作、静止画取得が可能です。

[ビュー]：カメラ映像のモニターのみが可能です。

[パン・チルト] SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ：ライトモードに加えて、カメラのパン・チルト・ズーム操作が可能です。

[プリセット位置] SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ：ライトモードに加え、カメラのプリセット位置の設定が可能です。

ご注意

各ビューアーモードで利用できる機能については、「管理者とユーザーについて」（16 ページ）をご覧ください。

ビューアー認証

メインビューアーを表示するときにユーザー認証を行うかどうかの設定を行います。

[オン]：認証ユーザーに合ったビューアーモードでメインビューアーが表示されます。

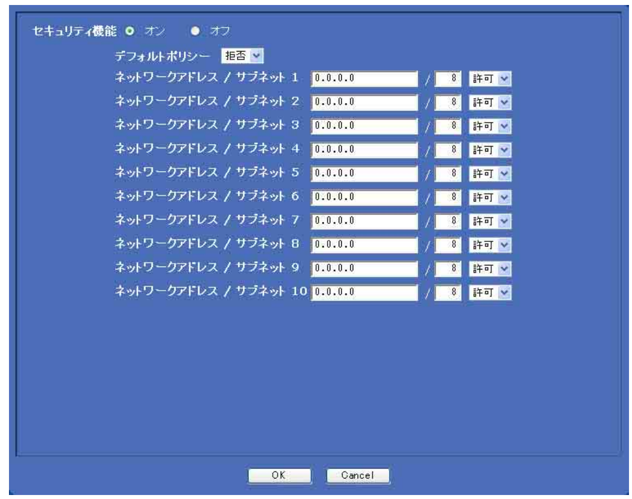
[オフ]：[オフ] を選択したときは、認証をせずに表示させるメインビューアーのビューモードを [フル]、[パン・チルト]、[プリセット位置]、[ライト]、[ビュー] の中から選択します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

セキュリティ設定をする－セキュリティメニュー

管理者設定メニューの セキュリティ をクリックすると、セキュリティメニューが表示されます。
このメニューでは、本機にアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。



セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用するときは [オン] を選択します。

デフォルトポリシー

下記のネットワークアドレス／サブネット 1 ～ネットワークアドレス／サブネット 10 に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を［許可］にするか、［拒否］にするかを設定します。

ネットワークアドレス／サブネット 1 ～ネットワークアドレス／サブネット 10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス / サブネットマスク値を入力します。
10 種類のネットワークアドレス / サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは 8 ～ 32 を半角で入力します。
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで［許可］、または［拒否］を設定できます。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば 255.255.255.0 のサブネットマスクに対しては 24 となります。

「192.168.0.0/24」、「許可」と設定すれば 192.168.0.0 ～ 192.168.0.255 の IP アドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

ご注意

アクセス制限を［拒否］に設定された IP アドレスのコンピューターからでも、認証画面でユーザーメニューの Administrator（管理者）欄に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

ソリッド PTZ の表示範囲や動作を記憶する－プリセット位置メニュー（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

管理者設定メニューの プリセット位置 をクリックすると、プリセット位置メニューが表示されます。このメニューでは、パン・チルト・ズーム位置を記憶させたり、ツアー（プログラム）動作を設定したりすることができます。
プリセット位置メニューは [ポジション] と [ツアー] の２つのタブで構成されます。

ご注意

・ソリッド PTZ 機能が使用できない場合（43 ページ）、プリセット位置メニューの操作はできません。
・ソリッド PTZ 機能が使用できない場合（43 ページ）、事前に設定されたアラーム連動位置、動体検知連動 PTZ、およびツアーの設定は無効になります。

ポジションタブ — パン・チルト・ズーム位置を記憶させる

パン・チルト・ズーム位置などを 16 種類まで記憶させることができます。

画面例：SNC-DM160



ホーム位置設定

現在の表示範囲をホーム位置として設定します。

Set

現在のパン・チルト・ズーム位置がホーム位置に設定されます。ホーム位置に移動するにはコントロールパネルの  をクリックします。（23 ページ）

Reset

工場出荷時のホーム位置に戻ります。

ご注意

ホーム位置を設定した後に［ビデオコーデック］タブ（42 ページ）で出力画像サイズを変更した場合、ホーム位置を呼び出しても同じ表示範囲にならない場合があります。

プリセット

プリセット位置を記憶させるために使用します。

番号

リストボックスからプリセット番号 1 ～ 16 を選択します。

名前

選択したプリセット番号に対するプリセット位置の名前を半角 32 文字以内、全角 16 文字以内で入力します。

Set

現在の表示範囲をプリセット番号に記憶させるのに使います。
次の手順でプリセット位置を設定します。

1. メインビューアーで画像を確認しながら、記憶させたい位置に表示範囲を移動させる。
2. 記憶させたい [番号] を選択し、[名前] を入力する。
3. [Set] をクリックし、プリセット位置を設定する。

ご注意

プリセット位置を設定した後に［ビデオコーデック］タブ（42 ページ）で出力画像サイズを変更した場合、プリセット位置を呼び出しても同じ表示範囲にならない場合があります。

アラーム連動位置

本カメラはセンサー入力や、動体検知機能にプリセット位置を連動させることができます。
センサー入力や動体検知機能によりアラームが検出されると、表示範囲はここで設定したプリセット位置に自動的に移動します。
プリセット位置に連動させない場合は [none] を選択します。

センサー入力 (S1)

センサー入力のアラームに連動させるプリセット位置を選択します。

動体検知（MD）

動体検知機能によるアラームに連動させるプリセット位置を選択します。
[Detection] をクリックすると動体検知メニューが表示され、動体検知の設定を行うことができます。（78 ページ）

ご注意

[アラーム連動位置] にプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

プリセット位置一覧

現在カメラに設定されているプリセット位置およびアラーム連動位置についての設定を確認することができます。また [Preset call] をクリックして指定のプリセット位置に表示範囲を移動させたり、[Clear] をクリックして指定のプリセット位置情報を消去したりすることができます。

番号

プリセット番号を示します。

名前

各プリセット番号に対応するプリセット位置の名前を表示します。

アラーム

各プリセット位置にアラーム連動が設定されているかどうかを表示します。センサー入力が設定されている場合には [S1]、動体検知が設定されている場合には [MD] が表示されます。

Preset call

現在設定されているプリセット位置へ表示範囲を移動させる場合にクリックします。

Clear

指定のプリセット位置情報を消去する場合にクリックします。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

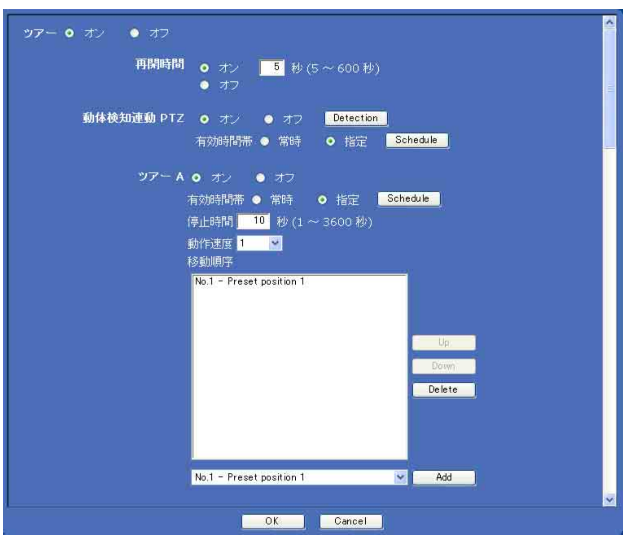
ご注意

このタブでは、[OK/Cancel] の対象となる操作は、「アラーム連動位置」の設定です。

ツアータブ ― ツアー動作を設定する

動体検知に連動させて、表示範囲を自動調整できます。（動体検知連動 PTZ）
16 か所までのプリセット位置をプログラムし、プログラムしたプリセット位置に表示範囲を順次移動させることができます。（ツアー動作）
動体検知連動 PTZ を 1 種類とツアー動作を 4 種類（ツアー A ～ D）まで設定することができます。

画面例：SNC-DM160



ツアー

動体検知連動 PTZ、およびツアー動作を行うときは [オン] を選択します。

再開時間

[ツアー] で [オン] を選択すると [再開時間] が設定できます。動体検知連動 PTZ、およびツアー動作中にパン・チルト・ズーム操作やアラームによるプリセット動作を行うと、動体検知連動 PTZ やツアー動作が停止します。ここでは動作停止後に動体検知連動 PTZ やツアー動作を再開するかどうか設定します。

[オン]：テキストボックスに再開までの待ち時間を 5 ～ 600 秒の範囲で設定することができます。動体検知連動 PTZ やツアー動作停止後、指定した時間が経過後に自動的に動体検知連動 PTZ やツアーが再開します。
[オフ]：動体検知連動 PTZ やツアー動作は停止したままとなります。

動体検知連動 PTZ

動体検知連動 PTZ の設定を行います。
この設定は、［オン / オフ］、［有効時間帯］ の 2 つの項目から構成されます。

[オン]：動体検知連動 PTZ 動作を行います。
[オフ]：動体検知連動 PTZ 動作を行いません。

[Detection] をクリックすると動体検知メニューが表示され、動体検知の設定を行うことができます。（78 ページ）

有効時間帯

動体検知連動 PTZ の有効時間帯を選択します。

[常時]：常に有効となります。
[指定]：別途行うスケジュール設定で有効な時間帯を指定できます。［Schedule］ をクリックすると時間帯を指定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

ご注意

- 動体検知の対象がなくなると、自動的に WIDE 端に移動し全体を表示します。
- 他のツアーと有効時間帯が重なるような設定はできません。

ツアー A ～ D

A、B、C、D の各ツアーの設定を行います。この設定は、[オン / オフ]、[有効時間帯]、[停止時間]、[動作速度]、[移動順序] の 5 つの項目から構成されます。

[オン]：ツアー動作を行います。
[オフ]：ツアー動作を行いません。

有効時間帯

指定のツアーの有効時間帯を選択します。

[常時]：常に有効となります。
[指定]：別途行うスケジュール設定で有効な時間帯を指定できます。[Schedule] をクリックすると時間帯を指定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

ご注意

動体検知連動 PTZ または他のツアーと有効時間帯が重なるようなツアー設定はできません。

停止時間

各プリセット位置で停止している時間（1 ～ 3600 秒）を設定します.

動作速度

動作速度をリストボックスから選択します。選択可能な動作速度は［1］～［24］または［Jump］です。数値が大きいほど高速で動作します。［Jump］を選択すると、直接目的の場所に移動します。

移動順序

ツアーの移動順序を設定します。
ポジションタブで記憶させたプリセット位置がリストボックスに表示されます。
リストボックスからツアー動作させるプリセット位置を選択し、[Add] をクリックします。リストに指定したプリセット位置が追加されたことを確認しながら、プリセット位置を追加していきます。
不必要なプリセット位置を追加してしまった場合は、指定のプリセット位置をリストから選択し、[Delete] をクリックします。
順序を変更したい場合は、プリセット位置をリスト中から選択して [Up] または [Down] をクリックして調整します。

ご注意

各ツアーで移動順序に 1 つもプリセット位置を追加していない場合、そのツアーを [オン] に設定することはできません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

メールに画像を添付して送る
ーメール (SMTP) メニュー

管理者設定メニューの メール（SMTP） をクリックすると、メール（SMTP）メニューが表示されます。
メール（SMTP）機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能に連動して撮影された映像ファイルをメールに添付して送信することができます。また、映像ファイルを定期的に送信することも可能です。
メール（SMTP）メニューは [共通]、[アラーム送信]、[定期送信] の 3 つのタブで構成されます。

共通タブ — メール（SMTP）機能の基本設定をする



メール（SMTP）機能

メール（SMTP）機能を使用するときは［オン］を選択します。

ご注意

- メール（SMTP）機能を使用して音声ファイルを送信することはできません。
- メール（SMTP）機能によるメール送信中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

SMTP サーバー名

SMTP（送信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。
[オン]：メール送信に認証が必要な場合に以下の認証方法を選択し、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
　[SMTP 認証]：メール送信に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
　[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどちらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定は、メールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要です。

ユーザー名、パスワード

メールアカウントを持つユーザーのユーザー名とパスワードを半角 64 文字以内で入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要です。

宛先アドレス

宛先のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。3 送信先まで入力できます。

管理者アドレス

カメラの管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名／題名を半角 64 文字以内で入力します。
アラーム送信タブの [アラーム送信] が [オン] に設定されているとき、アラーム検出時に送信されるメールについては、表題にアラーム種別を示す文字列が追加されます。
センサー入力検出時は [S1]、動体検知検出時は [MD] が追加されます。

本文

メールの本文を 384 文字以内、全角 192 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力します。半角カタカナ文字は使用しないでください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラーム送信タブ ― アラーム検出時のメール送信の設定をする

外部センサー入力や内蔵の動体検知機能によるアラーム検出に連動してメール送信を行うための設定を行います。



アラーム送信

アラーム検出に連動してメール送信するための設定を行うときは [オン] を選択します。

ファイル添付

映像ファイル（JPEG ファイル）をメールに添付して送信するかどうかを設定します。
[オン] を選択すると、以下の設定にしたがって作成された映像ファイルを添付します。[オフ] を設定するとメール本文のみが送信されます。

映像ファイル名称

メールに添付する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

メール送信時に添付されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

メール送信に連動するアラームを選択します。

[センサー入力]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[動体検知]：動体検知機能によるアラーム
[Detection] をクリックすると、動体検知メニューが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（78 ページ）。

ご注意

プリセット位置メニューの [アラーム連動位置] でプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

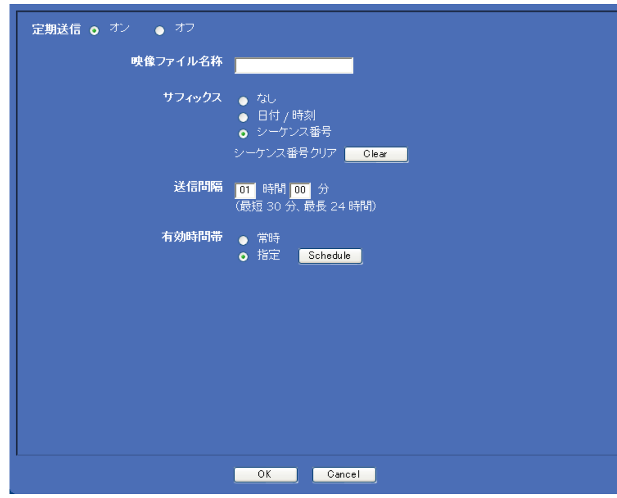
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

定期送信タブ — 定期的なメール送信の設定をする

定期的にメール送信するための設定を行います。



定期送信

定期送信を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

メールに添付する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。
実際に転送される映像ファイル名称は、「指定ファイル名＋サフィックス +.jpg」となります。

サフィックス

メール送信時に添付されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

送信間隔

定期的にメールを送信する時間間隔を設定します。
最短 30 分間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

有効時間帯

定期送信が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常に定期送信を行います。
[指定]：別途行うスケジュール設定で定期送信が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

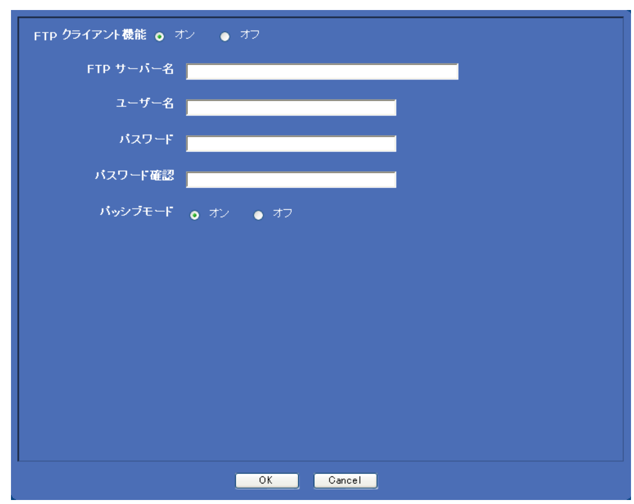
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

FTP サーバーへ画像を送信する
－ FTP クライアントメニュー

管理者設定メニューの FTP クライアント をクリックすると、FTP クライアントメニューが表示されます。
FTP クライアント機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能に連動して、撮影・記録された映像・音声ファイルを FTP サーバーに送信することができます。また、映像ファイルを定期的に送信することも可能です。
FTP クライアントメニューは [共通]、[アラーム送信]、[定期送信] の 3 つのタブで構成されます。

共通タブ — FTP クライアント機能の基本設定をする



FTP クライアント機能

FTP クライアント機能を使用するときは［オン］を選択します。

ご注意

FTP クライアント機能によるファイル転送中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

FTP サーバー名

アップロードする FTP サーバー名を半角 64 文字以下で入力します。または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

ユーザー名

FTP サーバーに対するユーザー名を半角 64 文字以内で入力します。

パスワード

FTP サーバーに対するパスワードを半角 64 文字以内で入力します。

パスワード確認

パスワードの確認のため、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

パッシブモード

FTP サーバーへ接続するとき、FTP サーバーのパッシブモードを使用するかどうかを設定します。[オン] を設定するとパッシブモードで接続します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラーム送信タブ ― アラーム検出時の FTP クライアント動作を設定する

外部センサー入力や内蔵の動体検知機能によるアラーム検出に連動して指定の FTP サーバーに映像・音声ファイルを転送するための設定を行います。



アラーム送信

アラーム検出に連動して映像・音声ファイルを FTP サーバーへ転送するための設定を行うときは [オン] を選択します。

転送パス

送信先パスを、半角 64 文字以内で入力します。

映像ファイル名称

FTP サーバーに送信する映像ファイル名を、半角英数字と - （ハイフン）、_ （アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋連続番号（2 桁）が付加されます。

補足

日付／時刻およびシーケンス番号に付加される連続番号は、連続的なアラームで作成される複数のファイルを区別するために使用されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

FTP サーバーへのファイル送信に連動するアラームを選択します。

[センサー入力]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[動体検知]：動体検知機能によるアラーム。
[Detection] をクリックすると、動体検知メニューが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（78 ページ）。

ご注意

プリセット位置メニューの [アラーム連動位置] でプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。(「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ)

アラームバッファ

アラーム検出時の前後の映像・音声 (プリアラーム、ポストアラーム) の転送を行う場合には [アラームバッファ使用] を選択します。
選択しないとアラーム検出時の瞬間の画像（JPEG ファイル）のみが転送されます。
[Alarm buffer] をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。(「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」77 ページ)

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(28 ページ）をご覧ください。

定期送信タブ — 定期的な FTP クライアント動作を設定する

映像ファイル（JPEG ファイル）を定期的に FTP サーバーに送信するための設定を行います。

画面例：SNC-DM160



定期送信

定期送信を行うときは [オン] を選択します。

転送パス

送信先パスを半角 64 文字以内で入力します。

映像ファイル名称

FTP サーバーに送信するファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。実際に転送される映像ファイル名称は、「指定ファイル名 + サフィックス + .jpg 」となります。

ご注意

FTP クライアント機能の定期送信を使用して音声ファイルを送信することはできません。

サフィックス

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。
[日付 / 時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁)、合計 14 文字がファイル名に付加されます。
[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、[シーケンス番号] のサフィックスが 1 に戻ります。

モード（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

定期送信モードを選択します。

[定期モード]：設定した [送信間隔] と [有効時間帯] にしたがって定期送信します。
[ツアー連動モード]：ツアーの動作中、移動した位置ごとに送信します。

ご注意

動体検知連動 PTZ 実行中は、ツアー連動モードでファイル送信することはできません。

送信間隔

FTP サーバーに定期的に画像を送信する時間間隔を設定します。
最短 1 秒、最長 24 時間（1 日）の送信間隔が設定できます。

ご注意

画像サイズや設定画質、ビットレート、ネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

有効時間帯

定期送信が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常に定期送信を行います。
[指定]：別途行うスケジュール設定で定期送信が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

画像を記録する－イメージメモリーメニュー

管理者設定メニューの イメージメモリー をクリックすると、イメージメモリーメニューが表示されます。
イメージメモリー機能を使用すると、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能に連動して撮影・記録された映像・音声ファイルを、内蔵メモリー（約 8 MB）に記録することができます。また、映像ファイルを定期的に記録することも可能です。
記録された映像・音声ファイルは、FTP サーバー機能を使用し、検索したり、コンピューターへダウンロードしたりすることができます。（「カメラから画像をダウンロードする－ FTP サーバーメニュー」71 ページ）
イメージメモリーメニューは [共通]、[アラーム]、[定期設定] の 3 つのタブで構成されます。

ご注意

- 内蔵メモリーに記録された映像・音声ファイルは、電源を切ると消去されます。
- 画像の記録中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

共通タブ — イメージメモリー機能の基本設定をする



記録機能

イメージメモリー機能を使用するときは [オン] を選択します。

内蔵メモリー

現在書き込み可能な内蔵メモリーの空き容量が表示されます。

上書き設定

内蔵メモリーの空き容量がなくなりファイルの記録ができなくなった場合、上書きするかどうかを選択します。

[オン]：上書き許可となり、日付の古いフォルダー（ファイル）から上書きされます。
[オフ]：上書き禁止となり、記録されません。

警告メール

内蔵メモリーの空き容量が少なくなったときや、空き容量がなくなったときに管理者宛に警告メールを送信する機能です。

[オン]：警告メールを送信します。
[オフ]：警告メールは送信されません。

ご注意

[上書き設定] が [オン] に設定されていると、警告メールは送信されません。

SMTP サーバー名

警告メール送信に使用する SMTP サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または、SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[オン]：メール送信に認証が必要な場合に以下の認証方法を選択してし、必要に応じて [POP サーバー名]、[ユーザー名]、[パスワード] を入力します。
  [SMTP 認証]：メール送信時に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
  [POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。
[オフ]：メール送信に認証が必要ない場合に選択します。

ご注意

[オン] で設定する場合、必ず [SMTP 認証] または [POP before SMTP 認証] のどらかまたは両方を選択してください。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP（受信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要となります。

ユーザー名 、パスワード

メールアカウントを持っているユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要となります。

管理者アドレス

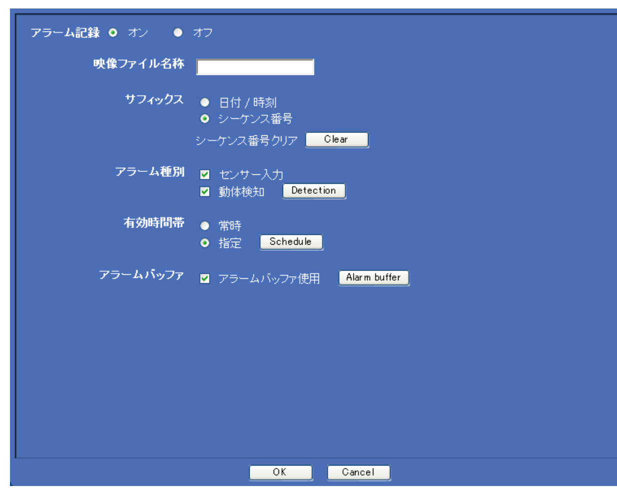
警告メールの送信先のメールアドレス (カメラの管理者のメールアドレス) を半角 64 文字以内で入力します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラームタブ ― アラーム検出時のイメージメモリー機能の設定をする

外部センサー入力や内蔵の動体検知機能によるアラーム検出に連動して映像・音声ファイルをメモリーに記録するための設定を行います。



アラーム記録

アラーム検出に連動して映像・音声ファイルを内蔵メモリーに記録するための設定を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

記録する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

記録されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

[日付／時刻]：記録されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月

（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋ 連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：記録されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）＋連続番号（2 桁）が付加されます。

補足

日付／時刻およびシーケンス番号に付加される連続番号は、連続的なアラームで作成される複数のファイルを区別するために使用されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

アラーム種別

映像・音声ファイルの記録に連動するアラームを選択します。

[センサー入力]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[動体検知]：動体検知機能によるアラーム
[Detection] をクリックすると、動体検知メニューが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（78 ページ）。

ご注意

プリセット位置メニューの [アラーム連動位置] でプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

アラームバッファ

アラーム検出時の前後の映像・音声 (プリアラーム、ポストアラーム) の記録を行う場合には [アラームバッファ使用] を選択します。選択しないとアラーム検出時の瞬間の画像（JPEG ファイル) のみが記録されます。
[Alarm buffer] をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。（「アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー」77 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

定期設定タブ — 定期的な記録の設定をする

映像ファイル（JPEG ファイル) を定期的に内蔵メモリーに記録するための設定を行います。

画面例：SNC-DM160



定期記録

定期記録を行うときは [オン] を選択します。

映像ファイル名称

記録する映像ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。実際に記録される映像ファイル名称は、「指定ファイル名 + サフィックス + .jpg 」となります。

ご注意

定期記録機能を使用して音声ファイルを記録することはできません。

サフィックス

記録するファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：記録されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：記録されるファイル名は映像ファイル名に日付 / 時刻が付加されます。
日付 / 時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2

桁）+ 連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：記録されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）+ 00（固定 2 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、[シーケンス番号] のサフィックスが 1 に戻ります。

モード（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）

定期記録モードを選択します。

[定期モード]：設定した [記録間隔] と [有効時間帯] にしたがって定期記録します。

[ツアー連動モード]：ツアーの動作中、移動した位置ごとに記録します。

ご注意

動体検知連動 PTZ 実行中は、ツアー連動モードで記録することはできません。

記録間隔

定期的に映像を記録する時間間隔を設定します。
最短 1 秒、最長 24 時間（1 日）の記録間隔が設定できます。

ご注意

画像サイズや設定画質、ビットレート、記録メディアなどにより、実際に記録される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

有効時間帯

定期記録が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常に定期記録を行います。

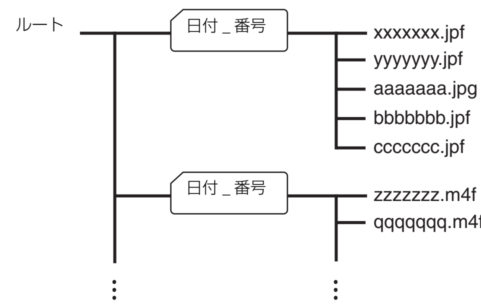
[指定]：別途行うスケジュール設定で定期記録が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

画像メモリーのフォルダー構造

イメージメモリー機能を使用して画像を記録すると、以下のようなフォルダーのツリー構造でファイルが保存されます。



は、自動的に生成されるフォルダーを表わします。
本機では [日付 _ 番号] フォルダーは、西暦（下 2 桁）+ 月（2 桁）+ 日（2 桁）+ アンダースコア + シーケンス番号（4 桁）の 11 文字のフォルダー名になります。
内蔵メモリーの場合、自動生成されるフォルダー 1 つに記録される映像ファイルは約 1 MB です。これを超えると新しいフォルダーが自動生成され、記録が行われます。

保存ファイルの拡張子について

本機のイメージメモリー機能、および FTP クライアント機能を使って記録 / 送信されるファイルにはカメラの動作モードや、記録 / 送信設定に応じて次の 3 つの拡張子を持つファイルが生成されます。

[.m4f]：アラーム記録／アラーム送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされ、アラームバッファメニューの [コーデック] に [MPEG4] が設定されている場合に生成されます。カメラのオーディオ入力に応じて音声データを含みます。

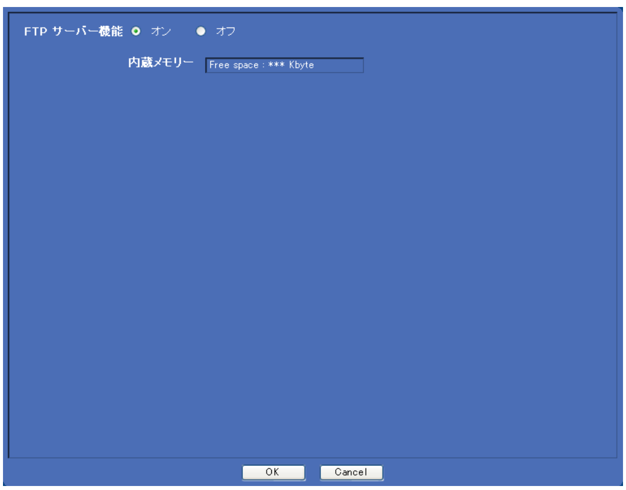
[.jpf]：アラーム記録／アラーム送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされ、アラームバッファメニューの [コーデック] に [JPEG] が設定されている場合に生成されます。カメラのオーディオ入力に応じて音声データを含みます。

[.jpg]：アラーム記録 / 送信設定において [アラームバッファ使用] がチェックされていない場合や、定期的な送信および定期的な記録の場合、生成されます。

[.m4f] 、[.jpf] ファイルは、SNC video player（89 ページ）を使用して再生できます。

カメラから画像をダウンロードする－ FTP サーバーメニュー

管理者設定メニューの FTP サーバー をクリックすると、FTP サーバーメニューが表示されます。このメニューでは、コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、内蔵メモリー（約 8 MB）に記録された映像・音声ファイルの検索や、ダウンロードする FTP サーバー機能の設定を行います。



FTP サーバー機能

FTP サーバー機能を使用するときは、［オン］を選択します。

内蔵メモリー

現在書き込み可能な内蔵メモリーの空き容量が表示されます。

ご注意

コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、本機の FTP サーバーにログインした場合は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラーム出力を設定する －アラーム出力メニュー

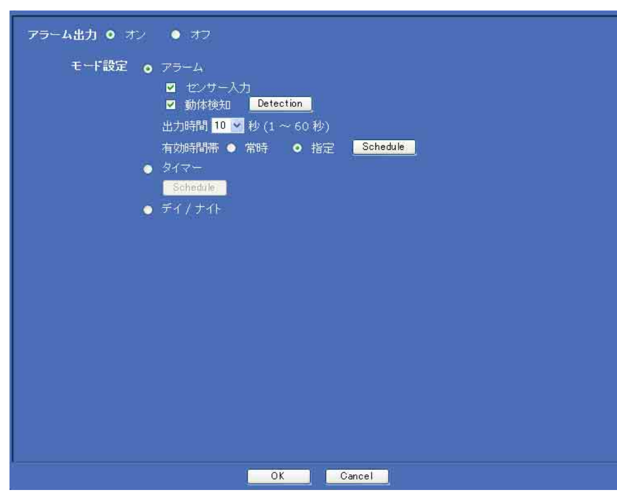
管理者設定メニューの アラーム出力 をクリックすると、アラーム出力メニューが表示されます。
このメニューでは、アラーム検出やタイマー、デイ / ナイト機能に連動してカメラ後部の I/O ポートのアラーム出力を制御するための設定を行います。
アラーム出力メニューは [アラーム出力 1] タブと [アラーム出力 2] の 2 つのタブで構成されます。

補足

カメラの I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスに接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

アラーム出力 1、2 タブ

画面例：SNC-DM160



アラーム出力

アラーム出力機能を使用するときは［オン］を選択します。

モード設定

アラーム出力機能の動作モードを選択します。

[アラーム]：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動してアラーム出力を制御できます。
[アラーム] を選択すると、[センサー入力]、[動体検知]、[出力時間]、[有効時間帯] が設定可能になります。

[タイマー]：時刻と連動してアラーム出力を制御できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメ

ニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

[デイ / ナイト]（SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）：デイ / ナイト機能と連動してアラーム出力を制御できます。

センサー入力

カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサーを連動するアラームとして使用するときに選択します。

動体検知

動体検知機能によるアラームを連動するアラームとして使用するときに選択します。
[Detection] をクリックすると、動体検知メニューが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（78 ページ）。

ご注意

プリセット位置メニューの [アラーム連動位置] でプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

出力時間

アラーム出力を短絡する時間（1 ～ 60 秒）を選択します。

有効時間帯

モード設定を [アラーム] にしたとき設定可能になります。アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効となります。

[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラーム検出時に音声を出力する－音声ファイル再生メニュー

管理者設定メニューの 音声ファイル再生 をクリックすると、音声ファイル再生メニューが表示されます。このメニューではアラーム検出時 (センサー入力時、動体検知時) にカメラのライン出力端子を通して音声を出力するための設定を行います。
アラームイベント (センサー入力や動体検知) に合わせて、カメラに接続されているスピーカーなどを通して音声を出力することができます。
音声ファイル再生メニューは [音声ファイル再生 1]、[音声ファイル再生 2]、[音声ファイル再生 3] の 3 つのタブで構成されます。各タブに 1 つずつ音声ファイルを設定できます。

ご注意

音声ファイル再生機能をお使いになるには、付属の CD-ROM に収録されている SNC audio upload tool を使用し、あらかじめカメラに音声ファイルを保存しておく必要があります。
SNC audio upload tool の使いかたについては 83 ページをご覧ください。

音声ファイル再生 1、2、3 タブ



音声ファイル

カメラに音声ファイルが保存されている場合、音声ファイルの名称が表示されます。
音声ファイルが保存されていない場合、[Not uploaded] と薄く表示されます。
[Delete] をクリックするとカメラに保存された音声ファイルを削除します。

ご注意

音声ファイルを削除するときは [音声ファイル再生] を [オフ] に設定してから行ってください。

テスト

カメラに音声ファイルが保存されている場合、その音声を再生して確認することができます。[Play] をクリックすると音声ファイルを 1 回再生します。

音声ファイル再生

センサー入力や動体検知に連動して音声ファイルを出力するときは [オン] を選択します。

リピート

くり返し再生を行う回数を [1] ～ [3] から指定します。

アラーム種別

音声ファイル再生に連動させるアラームを選択します。

[センサー入力]：カメラの I/O ポートのセンサー入力に接続されている外部センサー

[動体検知]：動体検知機能によるアラーム
[Detection] をクリックすると、動体検知メニューが表示され、動体検知の設定を行うことができます。（78 ページ）

ご注意

- 音声ファイル再生中に異なるアラームイベントにより他の音声ファイル再生が発生した場合、先の音声ファイル再生はキャンセルされ，あとの音声ファイルが再生されます。
- 同じアラームイベントに連動して複数の音声ファイルを再生するように設定された場合、音声ファイル再生１、２、３の優先順位で再生されます。
- プリセット位置メニューの [アラーム連動位置] でプリセット位置が指定されている場合、プリセット位置へ移動中に発生したアラームは無効になります。

有効時間帯

アラーム検出が有効な時間帯を設定します。

[常時]：常にアラーム検出が有効になります。

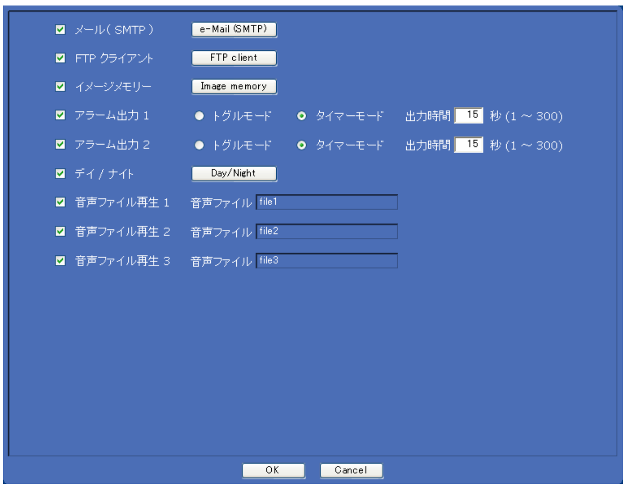
[指定]：別途行うスケジュール設定でアラーム検出が有効な時間帯を指定できます。
[Schedule] をクリックすると時間帯を設定するメニューが表示されます。（「スケジュールを設定する－スケジュールメニュー」76 ページ）

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

ビューアーページからの操作を設定する－トリガーメニュー

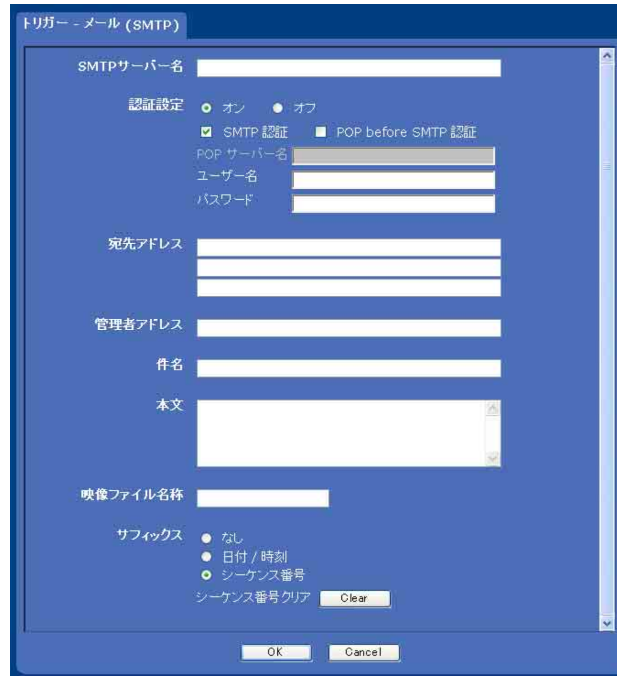
管理者設定メニューの トリガー をクリックすると、トリガーメニューが表示されます。
このメニューでは、メインビューアーの をクリックしたときの動作を設定します。



メール（SMTP）

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [e-Mail] が選択できるようになります。[e-Mail] を選択し、 をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、設定されているメールアドレスに映像ファイルを添付したメールが送信されます。

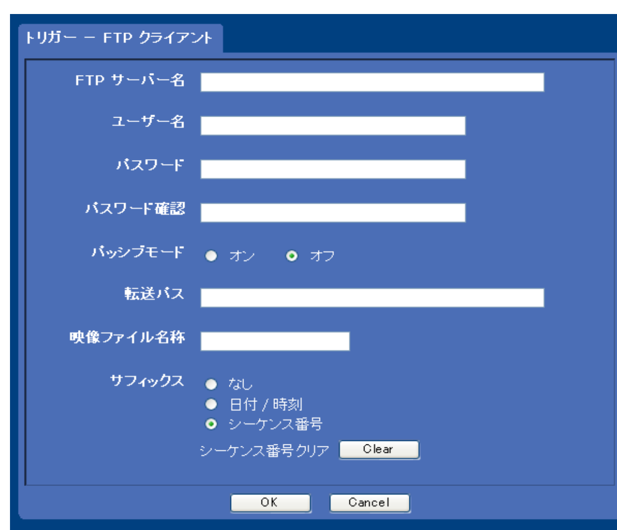
[e-Mail (SMTP)] をクリックするとメール設定 (トリガー) メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、メール (SMTP) メニュー（61 ページ）と同じです。



FTP クライアント

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [FTP] が選択できるようになります。[FTP] を選択し、 をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、映像ファイルが FTP サーバーに送信されます。

[FTP client] をクリックすると [トリガー -FTP クライアント] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、FTP クライアントメニュー（64 ページ）と同じです。

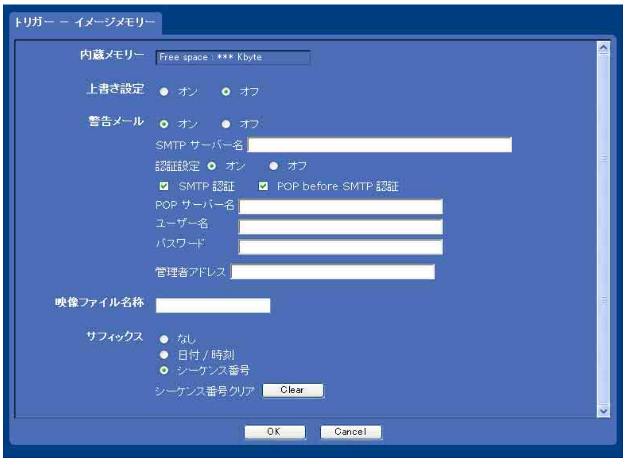


イメージメモリー

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Image memory] が選択できるようになります。

[Image memory] を選択し、 をクリックすることにより、クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、内蔵メモリーに映像ファイルが記録されます。

[Image memory] をクリックすると [トリガー - イメージメモリー] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、イメージメモリーメニュー（67 ページ）と同じです。



アラーム出力 1、2

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで［Alarm output1］または［Alarm output2］が選択できるようになります。［Alarm output1］または［Alarm output2］を選択し、 をクリックすることにより、アラーム出力を制御できます。

アラーム出力の動作モードを［トグルモード］と［タイマーモード］から選択します。

[トグルモード]： をクリックするたびに、オン（短絡）とオフ（開放）が切り替わります。

[タイマーモード]： をクリックするとオン（短絡）になり、［出力時間］で設定した時間が経過すると、自動的にオフ（開放）に切り替わります。

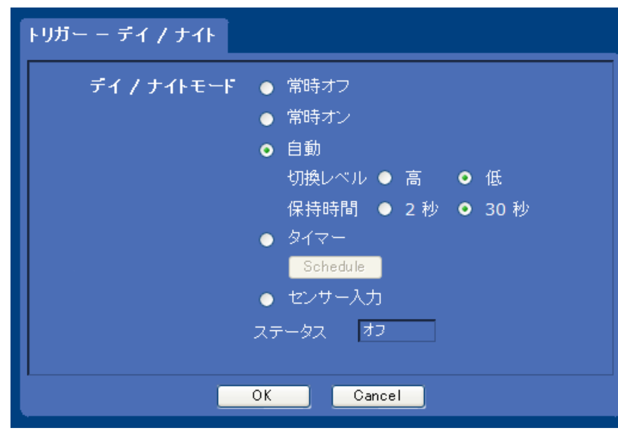
出力時間

［タイマーモード］を選択したとき、アラーム出力を短絡する時間（1 ～ 300 秒）を設定します。

デイ / ナイト（SNC-DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Day/Night] が選択できるようになります。[Day/Night] を選択し、 をクリックすることにより、デイ / ナイト機能のオン（ナイトモード）、またはオフ（デイモード）を制御できます。

[Day/Night] をクリックすると [トリガー - デイ / ナイト] メニューが表示され、必要な設定を行うことができます。設定項目と設定のしかたは、カメラメニューの感度アップタブ（39 ページ）と同じです。



ご注意

[デイ / ナイトモード] が [自動] に設定されているときは、 をクリックしてもデイ / ナイト機能を制御できません。

音声ファイル再生 1、2、3

チェックするとメインビューアーのトリガーリストボックスで [Voice alert1]、[Voice alert2]、または [Voice alert3] が選択できるようになります。いずれかを選択し、 をクリックすることにより、カメラにあらかじめ保存されている音声ファイルの音声を出力することができます。

音声ファイル

カメラに音声ファイルが保存されている場合、音声ファイルの名称が表示されます。
音声ファイルが保存されていない場合、[Not uploaded] と薄く表示されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

スケジュールを設定する －スケジュールメニュー

管理者設定メニューの スケジュール をクリックすると、スケジュールメニューが表示されます。
スケジュールメニューは、次の 7 つのタブから構成されます。
各タブは次のメニューの [有効時間帯] を指定するために [Schedule] をクリックしたときに表示されるスケジュールメニューと同じです。

[感度アップ]（SNC-DM110 / DM160 / DS60 / CM120 / CS20 のみ）：カメラメニューの感度アップタブの [Schedule] ボタン

[プリセット位置]（SNC-DM110 / DM160 / CM120 のみ）：プリセット位置メニューのツアータブの [Schedule] ボタン

[メール]：メール (SMTP) メニューのアラーム送信タブと定期送信タブの [Schedule] ボタン

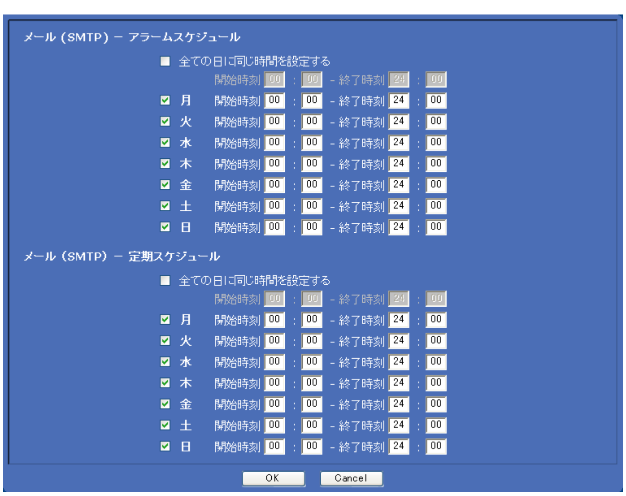
[FTP]：FTP クライアントメニューのアラーム送信タブと定期送信タブの [Schedule] ボタン

[イメージメモリー]：イメージメモリーメニューのアラームタブと定期設定タブの [Schedule] ボタン

[アラーム出力]：アラーム出力メニューのアラーム出力 1 タブとアラーム出力 2 タブの [Schedule] ボタン

[音声ファイル再生]：音声ファイル再生メニューの音声ファイル再生 1 タブ、音声ファイル再生 2 タブ、音声ファイル再生 3 タブの [Schedule] ボタン

例：スケジュールメニューでメール (SMTP) の定期送信スケジュール設定を行う場合



全ての日に同じ時間を設定する

チェックすると、設定した開始時刻と終了時刻がすべての曜日に設定されます。チェックしたときは、[月] 以降の開始時刻と終了時刻は入力できません。

月～日チェックボックス

チェックした曜日に対して、右側に設定する時間帯がスケジュールの有効時間帯となります。

開始時刻、終了時刻

開始時刻と終了時刻を設定します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

アラームバッファを設定する－アラームバッファメニュー

管理者設定メニューの アラームバッファ をクリックすると、アラームバッファメニューが表示されます。
このメニューでは FTP クライアントメニューの [アラーム送信] やイメージメモリーメニューの [アラーム記録] を [オン] に設定し、[アラームバッファ使用] を選択したとき、アラーム検出時のプリアラーム映像・音声 (アラーム検出以前の映像・音声)、ポストアラーム映像・音声 (アラーム検出後の映像・音声) の設定を行います。



コーデック

アラームバッファに使用する映像コーデックを選択します。

ご注意

コーデックを変更するとカメラが再起動されます。

保存可能時間

現在の選択されたコーデック、画像サイズ、ビットレート、フレームレート設定などで、アラームバッファに保存できる最大時間が表示されます。

保存時間

プリアラーム映像・音声、ポストアラーム映像・音声を保存する時間を設定します。

[プリアラーム]：アラーム検出前の映像・音声を保存する時間を入力します。
[ポストアラーム]：アラーム検出後の映像・音声を保存する時間を入力します。

ご注意

保存可能時間の値は、カメラメニューで設定した画像サイズと画質により変わります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（28 ページ）をご覧ください。

動体検知機能を設定する — 動体検知メニュー

管理者設定メニューの 動体検知 をクリックすると、動体検知メニューが表示されます。
動体検知では、現在撮影中の画面上で動体を検出したときにアラームを発生させて知らせます。

ご注意

- 動体検知を使用する際は、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してください。
- プライバシーマスキング、画像切り出しおよびソリッドPTZ を利用した場合でも、動体検知機能はそれらが動作する前の画像で動作します。
- 画像切り出しが有効である場合は、動体検知メニューは表示されません。動体検知メニューを使用する場合は、これらの機能を無効にしてから行ってください。

初めて動体検知メニューを表示するときは

［動体検知］をクリックすると「セキュリティ警告」が表示されます。［はい］をクリックすると、ActiveX コントロールがインストールされ、動体検知メニューが表示されます。

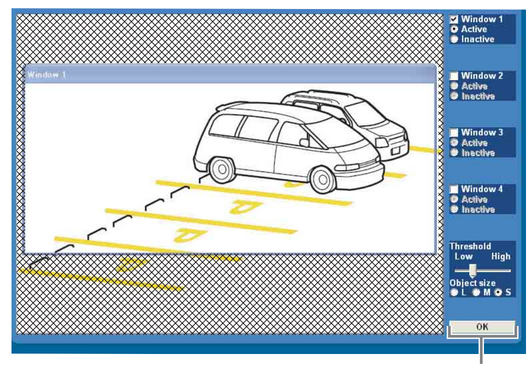


ご注意

- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を［自動構成］にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は［自動構成］を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
- Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、［動体検知］をクリックしたとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合 – ActiveX コントロールのインストールについて」（9 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合 – ActiveX コントロールのインストールについて」（11 ページ）をご覧ください。

設定タブ

映像を見ながら動体検知機能を動作させる条件の設定を行います。
このメニューは、メール (SMTP) メニューのアラーム送信や、イメージメモリーメニューのアラーム記録などで [Detection] をクリックしたときに表示される設定メニューと同じです。



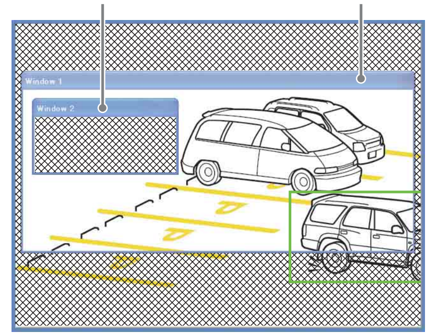
動体検知の設定部

動体検知の設定項目

モニター画面

動画をモニターし、検知枠および非検知枠の設定を行います。

非検知枠　検知枠



ご注意

- モニター画面には、カメラメニュー［ビデオコーデック］タブでどのような画像サイズに設定されていても、640 × 480 (VGA) に拡大または縮小されて表示されます。

・モニター画面内の緑の枠は、動体検知機能に連動して送信・記録される映像ファイルには表示されません。

Window1 〜 Window4 チェックボックス



チェックすると、検知枠（または非検知枠）がモニター画面上に表示されます。表示された枠は自由に位置・大きさを変えることができます。

[Active]：選択した Window を検知枠 (Active) として設定し、枠内の動体を検知します。

[Inactive]：選択した Window を非検知枠 (Inactive) として設定します。Inactive に設定すると、枠内の動体を無視します。
非検知枠は、検知枠内に非検知領域を設定する際に使用します。

ご注意

全ての Window を非検知枠に設定することはできません。どれか 1 つの Window を必ず検知枠 (Active) として設定してください。

Threshold（しきい値）設定スライドバー



全 Window 共通で、動体検知のしきい値を設定することができます。
しきい値は、カメラ映像に動きがあったかどうかを判定する基準となります。モニター画面内の物体の動きがしきい値を超えると動きがあったと判定され、緑の枠が付きます。表示されている検知枠内の物体に緑の枠が付いた場合、アラームが発生します。

Object size（物体のサイズ）



全 Window 共通で、検知する動体の最小サイズを設定します。[L]（大）、[M]（中）、[S]（小）から選択してください。それぞれのサイズは以下のようになります。

[L]：64 × 64 ドット
[M]：32 × 32 ドット
[S]：16 × 16 ドット

補足

モニター画面は 640 × 480 ドットです。[L] サイズはモニター画面の横幅の 1/10 の大きさです。

OK ボタン



現在の設定をカメラに送信し、確定させます。

ご注意

それぞれの Window の位置や設定内容を変更すると、モニター画面は設定に応じた反応を示しますが、確定するためには必ず［OK］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

動体検知設定を行う

以下の手順で、動体検知機能の設定を行います。

1 Window1 チェックボックスをチェックする。
モニター画面上に Window1 枠が表示されます。

2 Window1 の位置と大きさを設定する。
Window1 枠をドラッグして設定したい位置に配置し、また枠の大きさを変更します。

3 検知枠、または非検知枠の設定を行う。
Window1 を検知枠として設定する場合は [Active] を、非検知枠として設定する場合は [Inactive] を選択します。

ご注意

検知枠と非検知枠が重なったところは非検知領域となります。
検知枠と非検知枠が重なると、モニター画面では非検知枠が手前に表示されます。検知枠が非検知枠に隠れて位置や大きさの変更ができなくなった場合は、いったん検知枠を非検知枠に変更し、位置や大きさの変更が完了してから検知枠に指定し直してください。

4 Window2 〜 4 の設定を行う。
Window2 〜 4 も設定する場合は、手順 **1** 〜 **3** の操作で検知枠 / 非検知枠を設定します。

5 検知する物体のサイズを [Object size] で 設定する。
小さなノイズを動きとして誤検出するような場面であれば、より大きなサイズに設定します。

6 Threshold(しきい値) 設定スライドバーを操作し、対象 Window の検知レベル（しきい値）を設定する。
実際に動きのある物体で、モニター画面を確認しながら設定してください。

7 [OK] をクリックする。
動体検知設定が反映されます。

ご注意

設定を確定するためには必ず [OK] ボタンをクリックしてください。[OK] ボタンをクリックしないと、設定が取り消されます。

その他

この章では、付属の CD-ROM に収録されているアプリケーションソフトウェアやコマンド類の使いかたを説明します。

付属のセットアッププログラムを使う

ここでは、付属のセットアッププログラムの Network タブ以外の機能を説明します。

セットアッププログラムのインストールおよびカメラへの IP アドレスの割り当て、ネットワーク設定のしかたは、「準備」の（「カメラに IP アドレスを割り当てる」6 ページ）をご覧ください。

ご注意

・お使いのコンピューターにパーソナルファイアウォールソフトウェアや、 アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、 セットアッププログラムが正しく動作しないことがあります。 このような場合は、 該当のソフトウェアを無効にするか、 または 「ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる」（95 ページ） などの別の方法で IP アドレスを割り当ててください。

・Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないと IP Setup Program が正常に動作しません。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（9 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）をご覧ください。

セットアッププログラムを起動する

Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[IP Setup Program]、[IP Setup Program] の順に選択します。
IP Setup Program が起動します。
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているカメラを検出してリストを表示します。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御 （認識できないプログラムがこのコンピューターへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

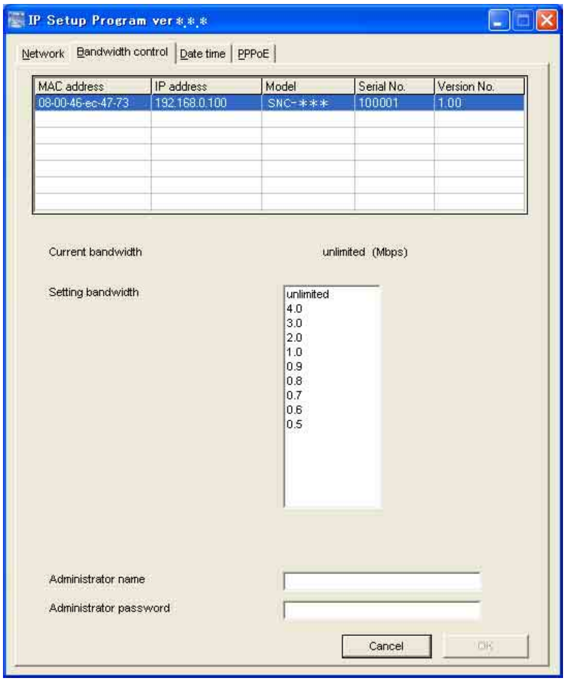
通信帯域を変更する

[JPEG] 映像の通信帯域を設定できます。

ご注意

MPEG4 映像については、帯域制限はできません。

1 Bandwidth control タブをクリックして帯域制限設定画面を表示する。
現在設定されている帯域制限が Current bandwidth 欄に表示されます。



2 リストから通信帯域を設定したいカメラをクリックして選択する。

3 [Setting bandwidth] リストボックスから、変更したい帯域制限をクリックして選択する。

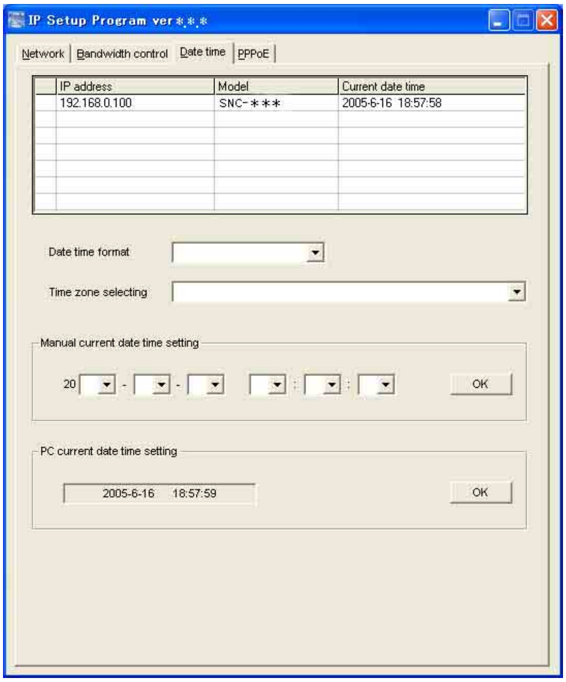
4 [Administrator name] と [Administrator password] 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。
工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

5 ［OK］をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、帯域制限の設定は終了です。

日付、時刻を設定する

カメラの日付と時刻を設定します。

1 Date time タブをクリックして日付・時刻設定画面を表示する。



2 リストから日付・時刻を設定したいカメラをクリックして選択する。
複数のカメラを選択して、同時に日付・時刻を設定することができます。

3 Date time format リストボックスから、日付・時刻のフォーマットを選択する。

4 Time zone selecting のリストボックスから、カメラが設置されている地域を選択する。

5 日付・時刻を設定する。
次の２とおりの設定方法があります。

マニュアルで設定する
Manual current date time setting の各リストボックスに現在の日付と時刻を設定する。
リストボックスは、左から「年（下２桁）」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」です。
設定が終わったら右端の［OK］をクリックするとカメラに反映されます。

コンピューターの日付・時刻に合わせる
PC current date time setting 欄にコンピューターに設定されている日付と時刻が表示されています。この日付・時刻に設定するときは、右端の［OK］をクリックします。

ご注意

ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

カメラを再起動する

Network タブの [Reboot] をクリックすると、カメラを再起動できます。
再起動には、約２分かかります。

SNC audio upload tool を使う－カメラに音声を送信する

付属の SNC audio upload tool を使うことにより，お使いのコンピューターに接続したマイクからカメラに音声を送信したり、音声ファイル再生機能用の音声ファイルをカメラにアップロードしたりすることができます。

送信する音声データは以下の形式をサポートしています。

形式	帯域
G.711(μ-LAW)	64kbps
G.726	40kbps
G.726	32kbps
G.726	24kbps
G.726	16kbps

ご注意

カメラに音声を送信できるのは 1 人だけです。したがって、2 人目以降の人が SNC audio upload tool を使ってカメラにアクセスしても音声を送信することはできません。

SNC audio upload tool をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

2 SNC audio upload tool の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（8 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

3 ［開く］をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで［保存］をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC audio upload tool」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

カメラとコンピューターを接続する

1 カメラのライン出力端子にスピーカーを接続する。

2 コンピューターのマイク端子にマイクを接続する。

ご注意

コンピューターによってはマイク端子の設定が適切に設定されていない場合があります。この場合、無音データが送信されてカメラに接続したスピーカーからは音が出ません。
Windows のコントロールパネルから、マイク端子を次のように設定してください。

Windows XP の場合

1 コントロールパネルの［サウンドとオーディオデバイス］を選択する。

2 ［オーディオ］タブの［録音］欄にある［音量］ボタンをクリックする。
［録音コントロール］パネルが表示されます。

3 ［マイク］欄の［選択］チェックボックスを有効にする。

Windows Vista の場合

マイク端子の設定はありません。
録音できない場合は、マイクデバイスを PC 本体に接続した状態で、録音デバイスが正常に動作しているか確認してください。

1 コントロールパネルの［サウンド］を選択する。

2 ［録音］タブを選択して、ハードウェアが正常に認識されていることを確認する。

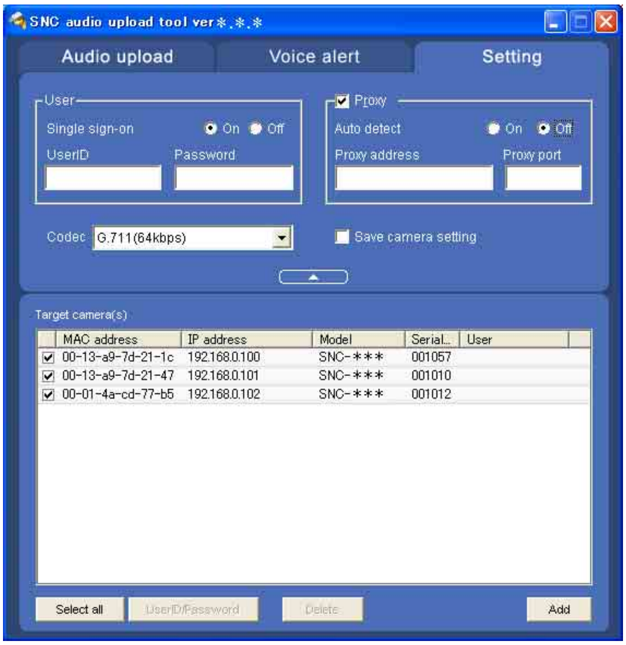
その他

SNC audio upload tool の使いかた

SNC audio upload tool を起動すると Setting タブが表示されます。

Setting タブ

コンピューターからカメラに音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりするためにカメラの設定を行います。



User

カメラと通信するための管理者用ユーザー ID とパスワードを設定します。
工場出荷時の管理者用ユーザー ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

Single sign-on：すべてのカメラに対して同じユーザー ID とパスワードを使用する場合、［On］にします。カメラごとに設定を行いたい場合は［Off］にします。
［Off］にした場合の設定については、カメラリストの「User ID/Password」（85 ページ）をご覧ください。

User ID：Single sign-on を［On］にしたとき入力可能になります。ここに入力された管理者用ユーザー ID がすべてのカメラに適用されます。

Password：Single sign-on を［On］にしたとき入力可能になります。ここに入力された管理者用パスワードがすべてのカメラに適用されます。

Proxy

通信を行うときにプロキシサーバーを使用する場合は、この項目をチェックしてください。チェックしない場合はカメラと直接通信を行います。

Auto detect：［On］を選択すると、プロキシ設定を Internet Explorer の設定から自動取得します。

Proxy address：プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Proxy port：プロキシサーバーと通信するためのポート番号を入力します。

ご注意

Proxy 設定はすべてのカメラで使用されます。カメラごとに Proxy の設定をすることはできません。

Codec

リストボックスから音声モード（Codec）を選択します。

Save camera setting

チェックすると、カメラリストを含めた Setting タブの状態を記憶します。次回起動時に、同じ設定で起動します。



クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

アプリケーションの起動時に、ローカルネットワーク上のソニー製ネットワークカメラを自動的に検索してカメラリストに表示します。表示可能なカメラの数は最大 256 台です。
左端にあるチェックボックスをチェックすると、同時に複数のカメラに対して音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりすることができます。

ご注意

- Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないとカメラリストが自動的に表示されない場合があります。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（9 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（11 ページ）をご覧ください。
- アプリケーション起動後に、ローカルネットワークに接続したカメラは表示されません。
- 音声機能を持たないネットワークカメラは表示されません。

カメラ選択チェックボックス：左端のチェックボックスです。音声を送信したり、音声ファイルをアップロードしたりするカメラをチェックします。

MAC address：ネットワークカメラの MAC アドレスが表示されます。
IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。
Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。
Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。
User：設定したユーザー ID とパスワードが表示されます。パスワードは読めないようになっています。

Select all

カメラリストに表示されているすべてのカメラを選択するときクリックします。すべてのカメラをリストから削除する場合や、すべてのカメラに同じユーザー ID、パスワードを設定するときに使います。

User ID/Password

選択したカメラに通信するためのユーザー ID、パスワードを設定するときに使います。
カメラリストから設定したいカメラをクリックして選択し、このボタンをクリックすると、次のダイアログが開きます。
管理者用ユーザー ID とパスワードを入力して［OK］をクリックします。



ご注意

カメラリストで、複数のカメラを選択した場合は、選択したカメラすべてに対して同じユーザー ID とパスワードが入力されます。工場出荷時の管理者用ユーザー ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

Add

カメラリストにないネットワークカメラを手動でリストに加えることができます。このボタンをクリックすると、次のダイアログが開きます。
追加したいカメラの IP アドレスとポート番号を設定して［OK］をクリックします。



ご注意

- すでにカメラリスト上に存在する IP アドレスや、ネットワークカメラではない IP アドレス、ネットワーク上に存在しない IP アドレスを入力するとエラーダイアログが表示されます。
- カメラリストに最大数の 256 台が表示されているときは、新しいカメラを追加できません。

Delete

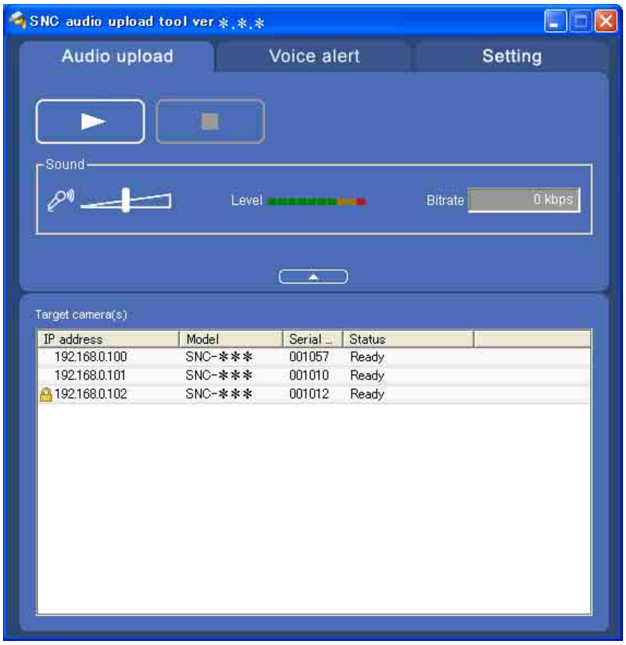
選択したカメラをカメラリストから削除するときクリックします。

タブ移動時のご注意

Setting タブから Audio upload タブや Voice alert タブへ移動する際にエラーが発生するとそのカメラは赤く表示されます。このときはカメラの設定やユーザー名やパスワードの設定をもう一度確認してください。

Audio upload タブ

コンピューターからカメラに音声を送信するときに使います。カメラリストに表示されているカメラに音声を同時に送信できます。
カメラに音声を送信する場合、あらかじめ、カメラメニューの共通タブで、［オーディオアップロード］を［有効］に設定してください。



►（スタート）／■（ストップ）

► をクリックすると音声通信が始まります。通信中はBitrate（ビットレート）欄に通信速度が表示されます。使用環境に合わせて、マイク音量やミュート機能を調整してください。
音声の送信を終わるときは、■ をクリックします。

ご注意

・通信中にタブを切り換えると音声通信は停止します。
・ネットワークメニューの［IP アドレス］で［IP アドレスを自動的に取得する（DHCP）］が選択されているときは、IP アドレスが変更になった際に音声が途切れることがあります。
・多数のカメラに音声を同時に送信すると、音声が途切れることがあります。

Sound 調整と表示

スライドバーでマイク入力の音量を調整します。音声送信中でも調整可能です。
をクリックすると、ミュートのオン／オフを切り換えることができます。
Level 欄には、マイク入力の音量レベルが表示されます。
Bitrate 欄には、現在の通信速度が表示されます。



クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

Setting タブのカメラリストにあるカメラ選択チェックボックスで選択されたカメラが表示されます。
選択されているカメラの情報や状態を確認することができます。

IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。

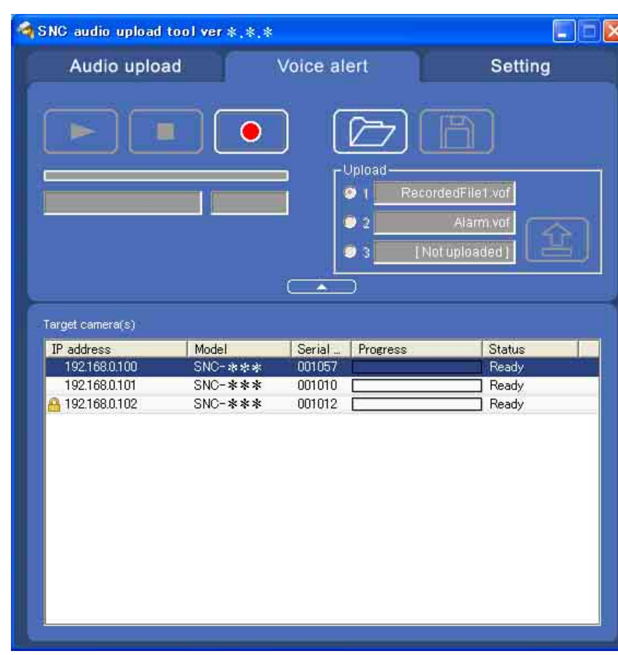
補足

SSL 通信が行われているカメラは IP アドレスの左側に 🔒 が表示されます。
本機には SSL 機能は搭載されていません。

Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。
Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。
Status：現在の状態を示しています。状態には以下のものがあります。
[Ready]：未接続で待機中
[Connected]：接続完了
[Fault]：接続処理に失敗したとき
[Sending]：音声データの送信中

Voice alert タブ

コンピューターに接続したマイクを使って音声を録音し、録音した音声ファイルをカメラにアップロードするときに使います。アップロードしたいカメラをカメラリストから選択すると、複数のカメラに音声ファイルを同時にアップロードできます。



▶（再生）

録音後、または音声ファイルを開いた後、クリックすると音声を再生します。録音した音声や選択した音声ファ

イルの確認をすることができます。再生するにつれ、プログレスバーの表示が進みます。

（停止）

録音または再生を停止します。
録音中にクリックすると、録音を停止し、そこまでの音声を再生して確認したり、カメラにアップロードしたりすることができます。
再生中にクリックすると、再生が中断され、プログレスバーの表示が開始位置に戻ります。

（録音）

コンピューターのマイクに入力された音声の録音を開始します。録音最大時間は 30 秒です。
録音の圧縮方式（コーデック）は Setting タブの Codec で選択した音声モードになります。
録音したファイルは「RecordedFile.vof」と表示されます。

ご注意

・録音中や再生中にタブを切り換えると録音や再生は停止します。
・録音したファイルはコンピューターには保存されません。

録音／再生プログレスバー



録音／再生の進捗を確認することができます。
録音時は右端まで行くと 30 秒です。録音時は、バーの下に残り時間が表示されます。
再生時は、録音されている時間が最大表示となります。

（ファイルオープン）

すでに保存されている音声ファイルを選択します。ここで選択した音声ファイルを再生して確認したり、カメラにアップロードしたりすることができます。

（保存）

録音した音声をファイルとしてコンピューターに保存します。

音声ファイル再生番号選択



アップロードする音声ファイル再生の番号を指定します。
音声ファイル再生 1 なら［ 1 ］を選択します。
番号の右には、現在カメラにアップロードされている音声ファイル名が表示されます。
音声ファイルがカメラにアップロードされていない場合は「Not uploaded 」と表示されます。
（録音）を使って録音し、コンピューターに保存されていない音声ファイルをアップロードした場合、音声ファイル名は「RecordedFile」＋「音声ファイル再生番号」＋「.vof」になります。

ご注意

・Setting タブで指定したカメラのソフトウェアバージョンが古い場合、音声ファイル再生番号選択はできません。
・表示されるファイル名は、カメラリストで選択されているカメラのファイル名です。アップロードされているファイル名を確認したいカメラをクリックすると、この欄に表示されます。
・音声ファイルはカメラリストにあるすべてのカメラが同じ音声ファイル再生番号にアップロードされます。カメラのソフトウェアバージョンが古い場合、自動的に［1］にアップロードされます。

（アップロード）

録音した音声ファイル、または選択した音声ファイルを Setting タブで指定したカメラにアップロードします。
アップロードできるファイルは 1 回に 1 つのみです。

ご注意

カメラに音声ファイルがアップロードされている場合、新たに音声ファイルをアップロードすると上書きされます。



クリックするとカメラリストを非表示にできます。もう一度クリックするとカメラリストが表示されます。

Target camera(s)（カメラリスト）

Setting タブのカメラリストにあるカメラ選択チェックボックスで選択されたカメラが表示されます。
選択されているカメラの情報や状態を確認することができます。

IP address：ネットワークカメラの IP アドレスが表示されます。IP アドレスが DHCP サーバーにより設定されている場合は、IP アドレスの後ろに DHCP と表示されます。

補足

SSL 通信が行われているカメラは IP アドレスの左側に が表示されます。
本機には SSL 機能は搭載されていません。

Model：ネットワークカメラのモデル名が表示されます。

Serial：ネットワークカメラのシリアル番号が表示されます。

Progress：音声ファイル送信の進捗状況が表示されます。

Status：現在の状態を示しています。状態には以下のものがあります。
- **[Ready]**：未接続で待機中
- **[Inquiry]**：カメラに情報を問い合わせ中
- **[No func]**：Voice alert 機能に対応していない機種のとき
- **[Uploading]**：音声ファイルのアップロード中
- **[Fault]**：音声ファイルのアップロードに失敗したとき
- **[No Privilege]**：権限が与えられていないため音声ファイルをアップロードできません。
- **[Succeeded]**：音声ファイルのアップロードに成功したとき

録音した音声ファイルをカメラにアップロードするには

補足

操作する前に、音声ファイルの作成とアップロードするカメラの設定が必要です。あらかじめ Setting 画面でカメラを設定してください。

1 Voice alert タブの （録音）をクリックして録音を開始する。

2 （停止）をクリックして録音を止める。
または、30 秒経過すると自動的に録音が終了します。

3 音声ファイル再生番号を選択する。

4 （アップロード）をクリックしてカメラに音声ファイルを送信する。

録音した音声ファイルをコンピューターに保存するには

1 Voice alert タブの （録音）をクリックして録音を開始する。

2 （停止）をクリックして録音を止める。
または、30 秒経過すると自動的に録音が終了します。

3 （保存）をクリックする。
「ファイル保存」ダイアログが表示されますので、ファイル名を指定して保存します。

保存した音声ファイルをカメラにアップロードするには

1 Voice alert タブの （ファイルオープン）をクリックし、アップロードする音声ファイルを選択する。

2 音声ファイル再生番号を選択する。

3 （アップロード）をクリックし、カメラに音声ファイルを送信する。

SNC video player を使うーカメラで記録した映像・音声ファイルを再生する

付属の SNC video player を使うと、カメラで記録した映像・音声データファイルをコンピューターで再生できます。

SNC video player をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

2 SNC video player の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（8 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除し、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC video player」をインストールする。

使用許諾に関する文面が表示されたらよくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

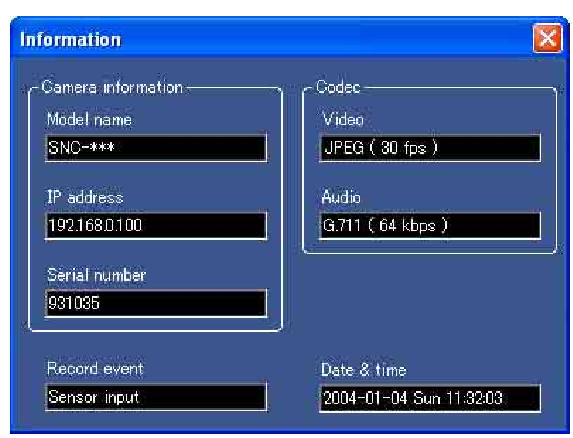
SNC video player の使いかた

1 インストールした SNC video player を起動する。



2 （ファイル参照）をクリックする。
ファイル選択ダイアログが表示されます。

3 再生したいファイルを選択する。
画像上部の INFO を押すとファイル情報のダイアログが表示されます。



ファイルダイアログの項目

Model name：記録したカメラの型名
IP address：記録したカメラの IP アドレス
Serial number：記録したカメラのシリアル番号
Video：映像コーデック

Audio：音声コーデック
Record event：記録したイベントの種類
Sensor input（センサー入力）、Motion detection（動体検知）
Date&time：記録された日時

映像・音声ファイルを再生するには

（再生）をクリックすると指定したファイルを先頭から再生します。
再生中に（一時停止）をクリックすると映像が一時停止します。もう一度をクリックすると続きから再生されます。
（停止）をクリックすると再生を中止します。もう一度をクリックすると先頭から再生されます。
ファイルの再生が終わると停止状態に戻ります。

再生位置を指定するには

映像の下部にあるスライドバーを動かすと、再生位置を指定できます。スライドバーの設定に応じた位置から再生が始まります。

音量を調節するには

スライドバーを動かして再生する音声の音量を調節します。左端が音量最小、右端が最大です。
をクリックするとミュート機能が ON になり消音され、もう一度クリックすると再び音声が出ます。
ミュート機能が ON のときはスライドバーを動かしても音声は出ません。

画像を保存するには

再生中または一時停止中に（キャプチャー）をクリックすると、取得された画像がダイアログでポップアップ表示されます。ダイアログの [保存] をクリックすると、JPEG 形式（または Bitmap 形式）でファイルを指定の場所に保存することができます。

画像表示サイズを変更するには

画像上部の［× 1/4］、［× 1/2］、［× 1］、［× 2］、ボタンをクリックすると選択された倍率で画像が表示されます。
［× 1］を選択すると、ファイルの元の画像表示サイズで表示されます。
［× 2］ボタンは、画像サイズが 640 × 480（VGA）サイズ以下の場合のみ有効です。
選択されている画像表示サイズは色が反転して表示されます。

SNC privacy masking tool を使う－カメラ映像にマスクをかける

付属の SNC privacy masking tool を使うと、配信される映像の任意の場所にプライバシーマスクをかけて映像を隠すことができます。

SNC privacy masking tool をインストールする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。
表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。
Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

2 SNC privacy masking tool の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（8 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

3 「開く」をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで「保存」をクリックすると正常にインストールできません。
ダウンロードされたファイルを削除し、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

その他

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC privacy masking tool」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

SNC privacy masking tool の使いかた

SNC privacy masking tool は、プライバシーマスク位置を設定する Main タブと、カメラと接続するための Setting タブから構成されています。
SNC privacy masking tool を起動すると Setting タブが表示されます。

Setting タブ

プライバシーマスク設定をするためには、カメラに接続する必要があります。接続するために Setting タブで以下の項目を入力してください。



[Administrator name]：接続先カメラの管理者 ID
[Administrator password]：接続先カメラの管理者パスワード

補足

工場出荷値では、それぞれ「admin」となっています。

[Camera address]：接続先カメラの IP アドレス、またはホスト名

[Camera port No.]：接続先カメラのポート番号

カメラの接続にプロキシサーバーを使用する場合は [Use proxy] にチェックし、以下の項目も入力してください。

[Proxy server address]：プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名
[Proxy server port No.]：プロキシサーバーのポート番号

上記の設定でカメラへの接続準備は完了です。

ご注意

カメラの設定が以下のようになっている場合、プライバシーマスクの設定を行うことはできません。
– ［ビデオ出力モード］（33 ページ）が［NTSC+IP］または［PAL+IP］
– ［アイリス開放］（34 ページ）が［オン］
– ［ソリッド PTZ］（23 ページ）が［オン］

Main タブ

プライバシーマスクを設定します。



ビューアー

接続したカメラのライブ映像が表示されます。このエリア上でプライバシーマスク位置を指定します。

Numbers

設定されているマスクの番号をビューアーに表示します。

Rectangles

設定されているマスクの枠を表示します。マスクが重なって設定されている場合に見やすくなります。

プライバシーマスク設定欄 No.1 ～ No.7

プライバシーマスクの登録、呼び出し、消去ができます。設定できるプライバシーマスクは全部で7か所です。また、プライバシーマスクの色を設定することもできます。

[Set]：ビューアー上で指定したエリアをプライバシーマスク領域として設定します。
[Set] をクリックすると、ビューアー上にプライバシーマスクが反映されます。[Color] リストボックスで選択されている色がプライバシーマスクの色として設定されます。

ご注意

SNC privacy masking tool 起動中にカメラの設定は変更しないでください。

[Clear]：クリックすると、設定されているプライバシーマスクを削除します。

Color

プライバシーマスクの色を指定します。色はすべてのプライバシーマスクに共通です。
指定できる色は以下のようになります。
[Black]（黒）、[White]（白）、[Gray]（グレー）、[Red]（赤）、[Green]（緑）、[Blue]（青）、[Cyan]（シアン）、[Yellow]（黄）、[Magenta]（マゼンダ）

All clear

クリックすると、設定されているプライバシーマスクをすべて、削除します。

プライバシーマスクを設定する

以下の手順で、任意の場所にプライバシーマスクを設定することができます。

1 Main タブのビューアー上でマウスをドラッグ操作して、プライバシーマスクの範囲を設定する。

2 [Color] リストボックスからマスクの色を選択する。

ご注意

マスクの色はすべてのマスクに共通です。最後に選択した色が設定されます。

3 プライバシーマスク設定欄から登録する番号を選び、[Set] をクリックする。
ビューアー上にマスクが反映されます。

ご注意

- マスクした箇所とマスクの色が大きく異なる場合、にじんで表示される場合があります。
- プライバシーマスキングを使用すると、画像のフレームレートが低下する場合があります。

Custom Homepage Installer を使うー独自のホームページを設定する

付属の Custom Homepage Installer を使うことにより、お客様が作成したホームページをカメラに搭載して閲覧することができます。

ホームページ作成上のご注意

ホームページを作成する際には以下の点に注意してください。

- ファイル名の長さは拡張子まで含めて 24 文字以内にしてください。
- 全体のファイル容量は 2.0 MB 以内にしてください。
- 作成したホームページを閲覧するには、システムメニューの [ホームページ] で設定してください。

Custom Homepage Installer でホームページをカメラにアップロードする

1 CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。

表紙ページが自動的に Web ブラウザで表示されます。

Web ブラウザで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

2 Custom Homepage InstallerのStartアイコンをクリックする。

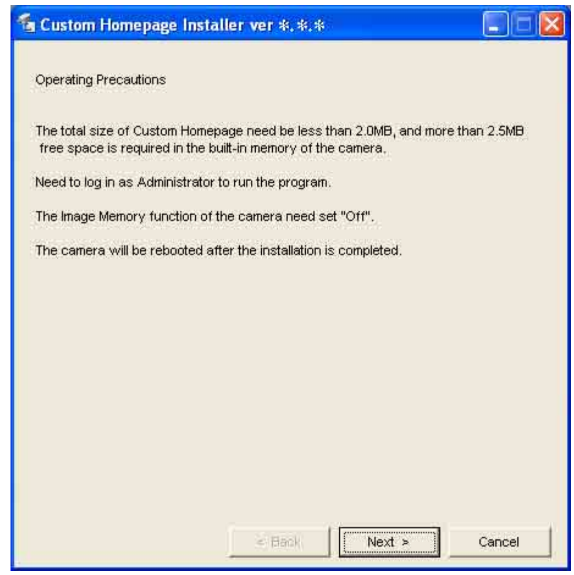
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、アクティブコンテンツについてのメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（8 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（10 ページ）をご覧ください。

3 [開く] をクリックする。

インストーラーが起動し、注意事項が表示されます。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御　（認証できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています。）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。

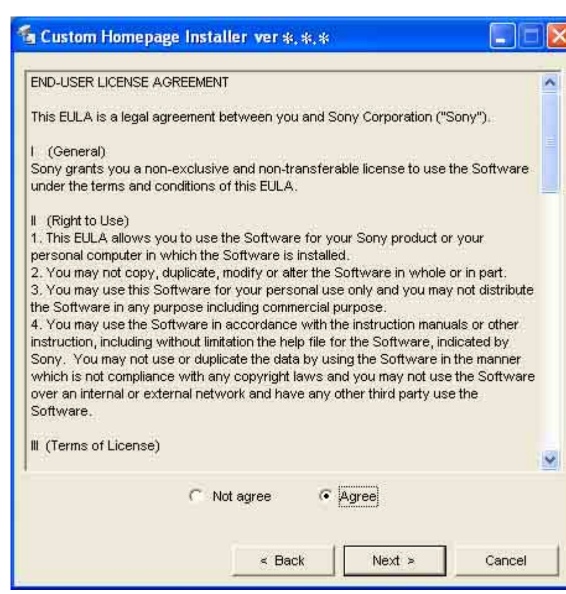


ご注意

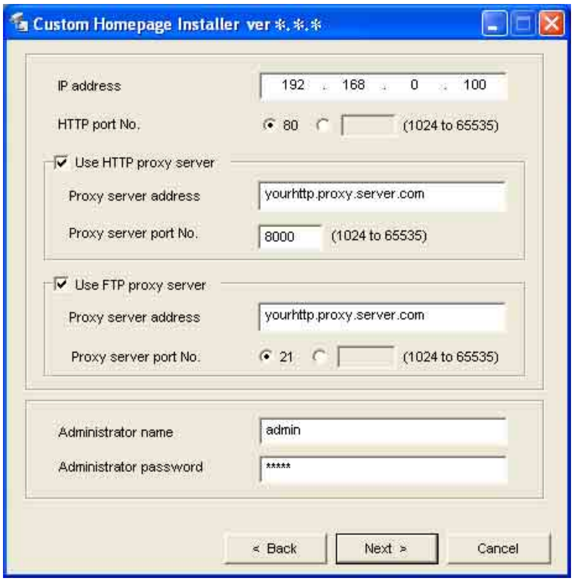
「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、CustomHomepageInstaller.exe ファイルがコンピューターに保存されます。保存した場合は、保存したファイルをダブルクリックして起動してください。

4 注意事項をよく読んで、[Next>] をクリックする。

使用許諾契約書が表示されます。



5 使用許諾契約書をよく読んで、同意される場合は、[Agree] を選択し、[Next>] をクリックする。



6 IP address 欄に、アップロードするカメラの IP アドレスを入力する。

7 カメラの HTTP port No. を設定する。
初期値は HTTP ポートの 80 番が設定されています。

8 プロキシサーバーを経由してカメラと通信を行う場合は以下の設定を行う。
プロキシサーバーについては、ネットワーク管理者にご相談ください。

HTTP proxy server を使う場合

[Use HTTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

FTP proxy server を使う場合

[Use FTP proxy server] を選択し、Proxy server address および Proxy server port No. 欄にそれぞれの値を入力します。

ご注意

お使いになるプロキシサーバーによっては、カメラと正しく通信できない場合があります。その場合は、ローカルネットワーク上にカメラを接続して、プロキシサーバーを使わずにインストーラーを実行してください。

9 Administrator name と Administrator password 欄に、アップロードするカメラの管理者のユーザー名とパスワードを入力する。

工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

10 正しく設定されていることを確認してから、Source folder 欄に独自に作成したホームページが保存されているフォルダーのパスを入力するか、[...] をクリックして対象のフォルダーを選択し、[Next>] ボタンをクリックする。



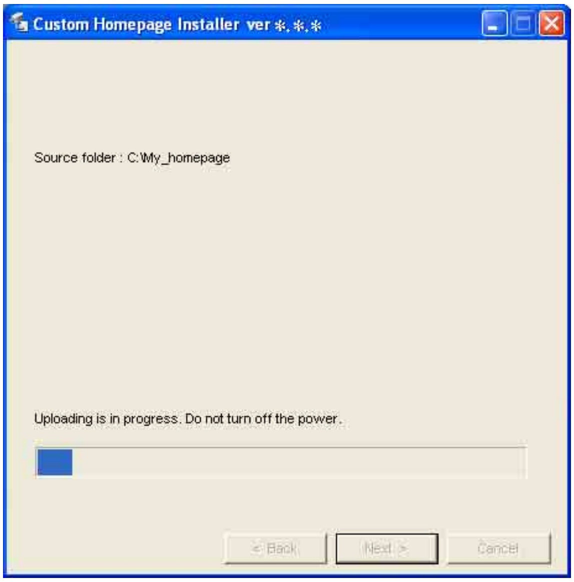
11 Source folder 欄に、独自に作成したホームページが保存されているフォルダーのパスを入力し、[Next>] をクリックする。



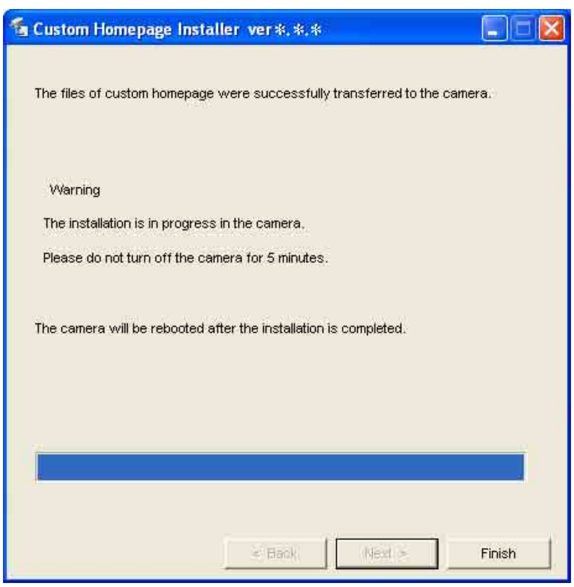
12 [OK] をクリックする。
ホームページファイルのカメラへのアップロードが始まります。

ご注意

アップロードが終了してカメラが再起動するまでは、カメラの電源を切らないでください。



しばらくすると次の画面に変わります。



この画面が表示された後、カメラ内部で調整が行われ、約5分後にカメラが自動的に再起動します。

13 [Finish] をクリックしてプログラムを終了する。

ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる

ここでは、付属のセットアッププログラムを使わずに、ARP（Address Resolution Protocol）コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

ご注意

ARP および PING コマンドの実行は、本機の電源を入れてから5分以内に行ってください。
また、本機を再起動した場合も、再起動してから5分以内に操作を行ってください。

1 コンピューター上でコマンドプロンプトを開く。

2 ARP コマンドを使って、IP アドレスとその IP アドレスを割り当てるカメラの MAC アドレスを入力する。

```
arp -s ＜本機の IP アドレス＞ ＜本機の MAC アドレス＞
ping -t ＜本機の IP アドレス＞
```

例：

```
arp -s 192.168.0.100 08-00-46-21-00-00
ping -t 192.168.0.100
```

3 コマンドプロンプトに次の行が表示されたら [Ctrl] + [C] を押す。
停止します。

```
Reply from 192.168.0.100:bytes=32 time...
```

通常、「Request time out」が5回ほどで返答（Reply）を受け取ります。

4 PING の実行が止まったら以下のコードを入力する。

```
arp -d 192.168.0.100
```

ご注意

返答が受け取れない場合は、以下のことを確認してください。

– 本機の電源を入れてから5分以内に ARP コマンドを入力しましたか？
いったん電源を切ってから操作し直してください。
– カメラ本体の NETWORK インジケーターが消えていませんか？
ネットワークを正しく接続してください。

- 割り当てられた IP アドレスがすでに使われていませんか？
  新しい IP アドレスを割り当ててください。
- ping コマンドを実行したコンピューターと本機が同じネットワークアドレスを持っていますか？
  同じネットワークアドレスを入力してください。

SNMP 設定方法について

本機は、SNMP（Simple Network Management Protocol）をサポートしています。SNMP マネージャーソフトウェアなどのソフトウェアを使用して、MIB-2 オブジェクトの読み出しが可能です。また、トラップとして、電源投入時および再起動時に発生させる coldStart トラップ、SNMP の不正アクセスが発生した場合に通知する Authentication failure トラップをサポートしています。
また、本機は、CGI コマンドを使ってコミュニティ名やアクセス元の制限設定、トラップ送信先の設定、一部の MIB-2 オブジェクトの設定を行うことができます。これらの設定を行うには カメラの管理者の認証を経る必要があります。

1. 問い合わせコマンド

以下の CGI コマンドで SNMP Agent の設定情報を確認できます。

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >

http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inqjs=snmp
（JavaScript パラメーター形式）

http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inq=snmp
（通常の形式）

上記の問い合わせによって、以下の設定情報を取得できます。ここでは inqjs=snmp（JavaScript パラメーター形式）で問い合わせ情報を取得した場合の設定情報について説明します。

SNC-DM160 の場合

var sysDescr="SNC-DM160" ・・・①
var sysObjectID="1.3.6.1.4.1.122.8501" ・・・②
var sysLocation="" ・・・③
var sysContact="" ・・・④
var sysName="" ・・・⑤
var snmpEnableAuthenTraps="1" ・・・⑥
var community="public,0.0.0.0,read,1" ・・・⑦
var community="private,192.168.0.101,
read,2" ・・・⑧
var trap="public,192.168.0.101,1" ・・・⑨

① mib-2.system.sysDescr.0 のインスタンスが記されます。これについては変更することはできません。

② mib-2.system.sysObjectID.0 のインスタンスが記されます。これについても変更することはできません。

③ mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスが記されます。この製品の設置場所に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時は何も設定されていません。

④ mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理者に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑤ mib-2.system.sysName.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理対象ノードを記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑥ mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスが記されます。この例では 1(enable) が設定されており、Authentication failure が発生した場合にはトラップが発生することになります。2(disable) が設定されている場合には Authentication failure トラップは発生しません。

⑦ コミュニティ設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレスを問わず（0.0.0.0）、read（読み出し）が可能となるように設定されています。

⑧ ⑦と同様にコミュニティ設定情報が記されています。この例の場合には ID=2 という識別番号で、"private" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストからの SNMP 要求パケットに対して、read（読み出し）が可能となるように設定されています。

⑨ トラップ送信先設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストに対してトラップが送信されるように設定されています。

2. 設定コマンド

SNMP に関する設定コマンドは以下のような形でサポートされています。

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >

http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi ?
<parameter>=<value>&<parameter>=…&…

まず、以下のパラメーターを使用して設定を行います。

1) sysLocation=<string>
mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。<string> の長さは最大 255 文字です。

2) sysContact=<string>
mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

3) sysName=<string>
mib-2.system.sysName.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。<string> の長さは最大 255 文字です。

4) enaAuthTraps=<value>
mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスの値を設定します。<value> には 1（enable）または 2（disable）のいずれかを入力します。

5) community=<ID>, r, <communityName>, <IpAddressString>
コミュニティ情報設定を行います。<ID> は設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）、<communityName> は設定するコミュニティ名、<IpAddressString> はアクセスを許可するホストの IP アドレスを記述します（任意のホストに許可する場合には 0.0.0.0 とします）。
例： 識別番号 2 に "private" というコミュニティ名で任意のホストに read を許可する
community=2,r,private,0.0.0.0

6) trap=<ID>,<communityName>, <IpAddressString>
トラップ送信先情報設定を行います。<ID> は設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）、<communityName> はトラップ送信時のコミュニティ名、<IpAddressString> はトラップ送信先のホストの IP アドレスを設定します。

例：識別番号 1 に "public" というコミュニティ名でトラップ送信先を設定する。
trap=1,public,192.168.0.101

7) delcommunity=<ID>
既に設定されているコミュニティ設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されているコミュニティ設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

8) deltrap=<ID>
既に設定されているトラップ送信先のホスト設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されているトラップ送信先設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

上記 1) ～ 8) のパラメーターを使用して SNMP 設定情報の変更が完了したら、問い合わせコマンドを使用して設定変更情報を確認します。変更した設定でよければ次の CGI コマンドを使用して SNMP を再起動させます。

SNMP 再起動コマンド

＜メソッド＞
GET, POST
＜コマンド＞
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi?snmpd=restart

その他

仕様

ネットワーク

プロトコル　TCP/IP、ARP、ICMP、HTTP、FTP（サーバー / クライアント）、SMTP（クライアント）、DHCP（クライアント）、DNS（クライアント）、NTP（クライアント）、SNMP （MIB-2）、RTP/RTCP

圧縮方式

映像圧縮方式　JPEG/MPEG4
音声圧縮方式　G.711/G.726（40, 32, 24, 16 kbps）
映像出力サイズ
SNC-DM110/DM160/CM120
JPEG のみ：
1280 × 960 （Quad-VGA）
960 × 720
768 × 576
JPEG/MPEG4：
640 × 480 （VGA）
384 × 288
320 × 240 （QVGA）
SNC-DS10/DS60/CS20
JPEG のみ：
768 × 576
JPEG/MPEG4：
640 × 480 （VGA）
384 × 288
320 × 240 （QVGA）

最大フレームレート
30fps

最大ユーザーアクセス数
10 ユーザー

ネットワークセキュリティ
パスワード（基本認証）
IP フィルタリング

ホームページのカスタマイズ
内蔵フラッシュメモリー内のホームページを立ち上げ可能

その他の機能
動体検知機能
ソリッド PTZ（SNC-DM110/DM160/CM120 のみ）
ライトファンネル（SNC-DM110/DM160/CM120 のみ）

用語集

キャプチャー
映像や音声のデジタルデータを映像機器からコンピューターの中に取り込むこと。

共有シークレット
RADIUS サーバーと RADIUS クライアント間で相互認証を行うための文字列。

コーデック（Codec）
映像や音声データを圧縮・伸張するソフトウェア及びハードウェアのこと。

コントラスト
映像の黒い部分から白い部分までの階調のこと。

サブネットマスク
ネットワークを識別するため、IP アドレスのうち、上位の何ビットをネットワークアドレスに使用するかを決める 32 ビットの数値。

彩度
色のあざやかさの度合。

鮮鋭度（シャープネス）
隣り合った 2 つの部分の境界がどの程度明瞭に区別できるかの度合い。

セカンダリー DNS サーバー
DNS サーバーの一種で、プライマリ DNS サーバーが利用できないときに処理を肩代わりするサーバー。

ソリッド PTZ
撮影された範囲の一部を切り出し・拡大することで、画像上パン・チルト・ズーム操作を行える機能。

帯域制限
転送されるデータの量を制限すること。

デジタル証明書
暗号を解除するための公開鍵の発行元が真正であることを証明するために、認証局が発行する電子証明書。

デジタルズーム
光学的なズームではなく、撮影映像をソフトウェア的に拡大することによりズームを行う方式。

デフォルトゲートウェイ
所属するネットワークから他のネットワークへアクセスするときに経由する機器。

ネットワークアドレス
IP アドレスのうち、ローカルのネットワーク（サブネット）を識別するのに使われる部分。

ネットワーク帯域
ネットワークを利用できる接続速度。

パッシブモード
FTP クライアント側から FTP サーバーへ向けてデータ転送用の TCP コネクションをオープンするモード。

ハンチング
ある機能の動作制御を行う際、制御量が周期的に変化して一定の明るさで安定しない状態のこと。自動デイ / ナイト機能では、デイ / ナイトの切り換えに伴って取り込まれる光の量が変化し、デイモードとナイトモードが短時間で往復し続ける状態になる。

ビットレート
データを転送するときの速度。

プライマリー DNS サーバー
DNS サーバーの一種で、各機器や他の DNS サーバーからの問い合わせを優先的に処理するサーバー。

フレームレート
1 秒間に伝送できる動画像のフレーム数。

プロキシサーバー
内部のネットワークとインターネットの間にあって、直接インターネットに接続できない内部のネットワークのコンピューターに代わって、インターネットへの接続を行なう機器またはソフトウェア。

マルチキャスト
224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲で割り当てられるクラス D の IP アドレスで、このアドレスを使用することによって、複数の機器に対して同じデータを送信することができる。

ユニキャスト

ネットワーク内で単一のアドレスを指定して特定の機器にデータを送信すること。

ActiveX コントロール

Microsoft 社が開発したソフトウェアの部品化技術。Web ページまたはその他のアプリケーションに挿入できるコンポーネントまたはオブジェクト。

ARP コマンド

ホストマシン中にある、IP アドレスと MAC アドレスの対応表（エントリー）を確認したり、更新したりするためのコマンド。

CA 局

認証局（Certificate Authority）。ネットワークアクセスに関する認証を行うための電子的な証明書を発行、管理する、民間の機関。

DHCP サーバー

Dynamic Host Configuration Protocol Server の略。固定の IP アドレスを持たない端末に自動的に IP アドレスを振り分けるプロトコル（DHCP）を使用して IP アドレスを割り振るサーバー。

DNS サーバー

Domain Name System Server の略。IP ネットワーク上の機器同士が接続する場合、接続相手の IP アドレスが必要であるが、数字の並びである IP アドレスでは相手を想像することが難しいため、相手に名前を付加し（ドメイン名）、それで相手を想像することを容易にするシステムが構築された。これが Domain Name System である。クライアント機器は、ドメイン名を使用して相手機器に接続するとき、DNS サーバーに問い合わせをすることで、相手機器の IP アドレスを取得して接続する。

EAP 方式

Extensible Authentication Protocol の略。拡張認証プロトコル。ダイヤルアップで用いられる PPP（Point-to-Point Protocol）を拡張し、認証機能を備えたプロトコル。

EAP-TLS 認証方式

TLS は Transport Layer Security を用いた EAP 方式の認証プロトコルで、デジタル証明書などを用い、データの盗聴や改ざん、なりすましを防ぐことができる。

FTP クライアント

FTP サーバーにアクセスするときに使われるソフトウェアや機能。

FTP サーバー

ファイルを転送するときに使われるサーバー。

HTTP ポート

Web サーバーとクライアント（Web ブラウザなど）がデータを送受信するときに使うポート。

IP アドレス

Internet Protocol Address の略。基本的にインターネットに接続する機器は、独自の IP アドレスが割り当てられている。

Java applet

Web ブラウザのウィンドウに埋め込まれて実行される Java プログラム。

Java バーチャルマシン

Java バイトコードをそのプラットフォームのネイティブコードに変換して実行するソフトウェア。

JPEG

Joint Photographic Expert Group の略で、ISO（国際標準化機構）と ITU-T によって標準化されている静止画圧縮技術またはその規格のこと。インターネット上でなど、画像ファイルの圧縮方式として広く使用されている。

MAC アドレス

各 LAN カード 1 枚 1 枚に割り当てられている固有の ID 番号。

MPEG4

Moving Picture Experts Group phase4 の略で、映像データの圧縮方式の 1 つで MPEG 規格の 1 つ。高圧縮の映像配信用途のための規格。

NTP サーバー

ネットワーク内で標準的に利用されている時刻情報サーバー。

POP サーバー

受信した電子メールを保管しているサーバー。

RADIUS クライアント

ネットワークアクセスに関する認証とアカウンティングを行うためのプロトコルである RADIUS（Remote Authentication Dial-in User Service）の着信側。
インターネット接続サービスにおいては、ダイヤルアップ着信装置やブロードバンドアクセスサーバなどの着信装置、無線 LAN においては、無線 LAN アクセスポイントが RADIUS クライアントである。

SMTP サーバー

電子メールを送信または中継するためのサーバー。

SNMP

ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコル。

SSL

Secure Sockets Layer の略。インターネット上で、暗号化した情報の通信を行うために、Netscape Communications 社が開発したプロトコル。

TCP

Transmission Control Protocol の略。インターネットで使用される標準プロトコル。インターネットでは他のプロトコルとして UDP も使われるが、UDP は転送速度が速いが信頼性は低く、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅いという特徴がある。

UDP

User Datagram Protocol の略。インターネットで使用される標準プロトコル。インターネットでは、他のプロトコルとして TCP も使われるが、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅く、UDP は転送速度が速いが信頼性は低いという特徴がある。

802.1X

LAN 上でユーザー認証と動的なキーの生成、配送を行う規格。

索引

その他

P

R

S

T

U

V

W

数字

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1
http://www.sony.co.jp/